

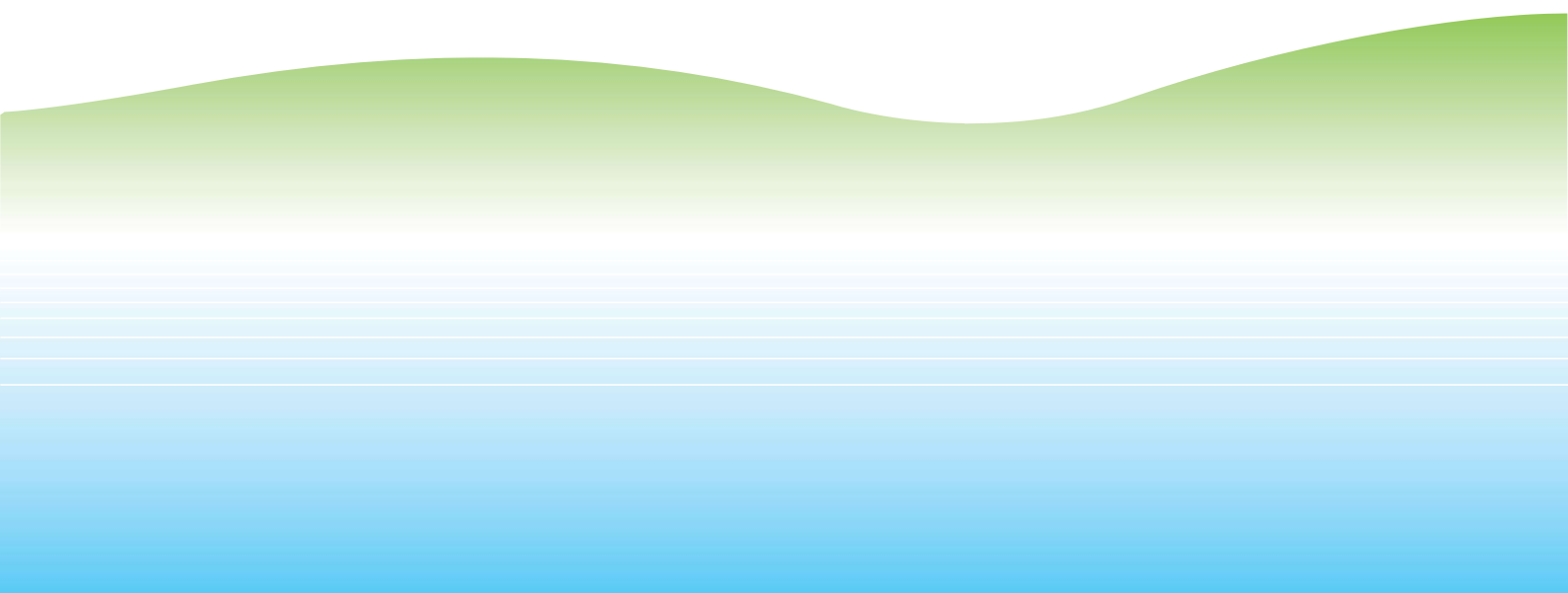
年報

京都大学フィールド
科学教育研究センター

Annual Report

Field Science Education and Research Center,
Kyoto University

No.21 2023



年 報

京都大学フィールド科学教育研究センター

第21号

2023

目次

1. フィールド研の概要

(1) 組織.....	1
(2) 施設等.....	2
(3) 教育研究部.....	3
(4) 管理技術部.....	5
(5) 事務部.....	5
(6) 2023年度の活動（総括）.....	6
(7) 2023年度の主な取り組み（日記）.....	7

2. フィールド研の活動

(1) フィールド研2023年度の主な取り組み	
1) フィールド研創設20周年記念式典・シンポジウム.....	14
2) 「きょうと☆いきものフェス！2023」へのブース出展.....	15
3) 里山里海つながるフェス@イオンモール京都桂川.....	16
4) 芦生研究林における超学際研究教育.....	17
5) 里山おーぷんらぼ@上賀茂.....	18
6) 京都大学舞鶴水産実験所で木の枝を海に沈めて集まる魚を観察しよう！.....	20
7) 水族館特別企画展 「絶滅のおそれのある海の生き物展」.....	20
(2) 実習報告	
1) 少人数教育科目群 ILASセミナー 「黒潮流域の海洋生物自然史」.....	22
2) 少人数教育科目群 ILASセミナー 「北海道のきのこの多様性と生き方」.....	23
3) 少人数教育科目群 ILASセミナー 「芦生研究林の菌類多様性に触れよう」.....	24
(3) 全学共通科目	25
(4) 大学院教育・学部教育	26
(5) 教育関係共同利用拠点事業	
1) 公開実習科目一覧.....	30
2) 舞鶴水産実験所における教育関係共同利用拠点事業（舞鶴）.....	31
3) 黒潮海域における海洋生物の自然史科学に関するフィールド教育共同利用拠点（瀬戸）.....	32
4) 人と自然のつながりを学ぶ森林フィールド教育共同利用拠点（芦生・北海道・上賀茂）.....	33
(6) 研究活動・外部資金の獲得状況.....	34
(7) 社会連携活動	
1) フィールド研主催事業.....	40
2) フィールド研共催・後援事業.....	40
3) 各施設等主催共催事業.....	40
(8) 広報活動	
1) フィールド研の刊行物.....	41
2) 施設等の刊行物.....	42

3. 各施設等の活動

(1) 各施設等の活動概要

1) 芦生研究林.....	44
2) 北海道研究林.....	45
3) 和歌山研究林.....	46
4) 上賀茂試験地.....	47
5) 徳山試験地.....	48
6) 北白川試験地.....	49
7) 紀伊大島実験所.....	49
8) 舞鶴水産実験所.....	50
9) 瀬戸臨海実験所.....	51
10) 森里海連環学プロジェクト支援室.....	51
11) 企画情報室.....	52
(2) 各施設を利用した学生実習等.....	53
(3) 各施設を利用した社会連携教育および野外学習等.....	56

4. 教職員の活動

(1) 研究成果.....	58
(2) 他大学・各種学校の講義・実習.....	58
(3) 学会等における活動.....	59
(4) 社会貢献活動.....	61
(5) 国際活動.....	66
(6) 研修参加・資格取得等.....	67

5. 資料

(1) 職員配置表.....	69
(2) 常設委員会名称および委員一覧.....	70
(3) 全学委員会等.....	71
(4) 運営委員会.....	72
(5) 協議員会.....	72
(6) 教育関係共同利用拠点運営委員会.....	73
(7) 新聞・雑誌等に掲載された記事.....	74
(8) テレビ・ラジオ等で放送された番組.....	76
(9) 各施設利用者数.....	77
(10) 瀬戸臨海実験所附属水族館月別入館者数.....	77
(11) 人事異動.....	78
(12) 規程の改正等.....	79

1. 概要

(1) 組織

フィールド科学教育研究センター（以下、フィールド研）は、京都大学が長年に亘って森林域、里域、海域の研究現場としてきた9の施設によって構成される。各施設は、太平洋側から日本海側に至る近畿圏を中心に、北海道から山口県までの広域に位置する。「森里海連環学」を教育研究の中心にしている。

フィールド研は、学内共同教育研究施設として各研究科の学生の教育、教員による研究の支援を行うとともに、全学共通教育への科目提供、農学研究科、理学研究科へ協力講座として参画して大学院教育および学部教育を行い、大学院地球環境学舎へ協力分野として参画している。また、学内外の学生や研究者の教育研究を支援しており、5施設（3拠点）が文部科学省から教育関係共同利用拠点に認定されている。吉田キャンパス北部構内に森林系図書室、瀬戸臨海実験所に瀬戸臨海実験所図書室を有する。

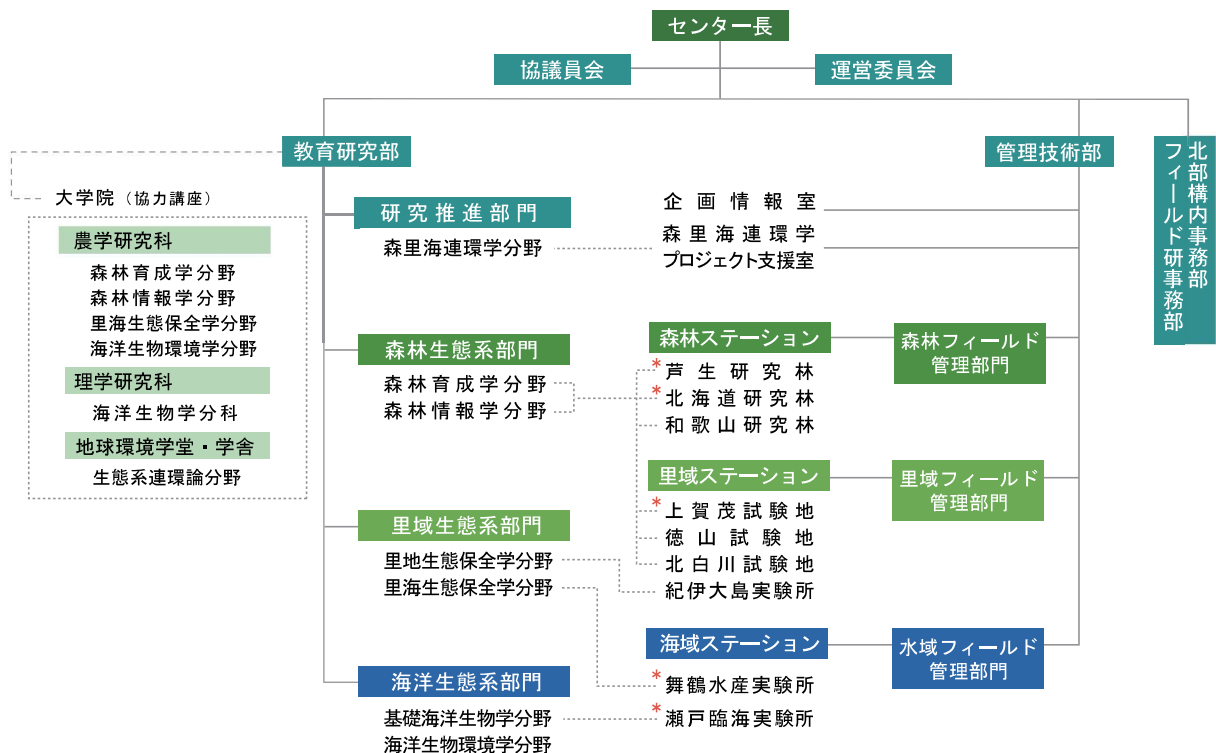
教員は教育研究部に属し、森一里一海の連環を軸とした教育・研究を進めている。技術職員は管理技術部に属し、フィールドの管理・運営および基礎情報の収集、情報管理、技術開発、教育研究支援を行っている。事務職員は、フィールド研事務部および共通事務部である北部構内事務部に属している。フィールド研本部は本学吉田キャンパス北部構内に置かれている。

センター長

朝倉 彰

副センター長

館野 隆之輔



(2) 施設等

森林ステーション

- 芦生研究林 京都府南丹市美山町芦生 林長 石原 正恵
1921年設置（芦生演習林）／面積4,185.6ha／ 常駐教職員11人
- 北海道研究林 林長 小林 和也
標茶区 北海道川上郡標茶町多和553
1949年設置（農学部附属北海道演習林標茶区）／面積1,446.8ha／ 常駐教職員10人
白糠区 北海道白糠郡白糠町西二条北8-1-10
1950年設置（農学部附属北海道演習林白糠区）／面積880.4ha
- 和歌山研究林 和歌山県有田郡有田川町上湯川76 林長 徳地 直子
1926年設置（農学部附属和歌山演習林）／面積842.0ha / 常駐教職員3人

里域ステーション

- 上賀茂試験地 京都市北区上賀茂本山2 試験地長 舘野 隆之輔
1926年設置（農学部附属演習林上賀茂試験地）、1949年移転／面積 46.8ha／ 常駐教職員7人
- 徳山試験地 山口県周南市徳山鉢窪10769 試験地長 徳地 直子
1931年設置（農学部附属徳山砂防演習地）、1942年移転（農学部附属演習林徳山試験地）、1966年再移転
／面積 41.9ha／常駐教職員0人
- 北白川試験地 京都市左京区北白川追分町 試験地長 徳地 直子
1924年設置（農学部林学科苗畑）1925年所管替（農学部附属演習林本部試験地）／面積1.3ha／常駐教職員2人
- 紀伊大島実験所 和歌山県東牟婁郡串本町須江 所長 甲斐 嘉晃
1937年設置（農学部附属大島暖帯植物試験地）、1967年改称（亜熱帯植物実験所）／面積11.8ha／常駐教職員0人

海域ステーション

- 舞鶴水産実験所 京都府舞鶴市長浜 所長 益田 玲爾
1947年設置（農学部水産学科）1972年設置（農学部附属水産実験所）／面積2.0ha／ 常駐教職員8人
- 瀬戸臨海実験所 和歌山県西牟婁郡白浜町459 所長 下村 通誉
1922年設置（理学部附属臨海研究所）、1930年水族館一般公開開始、1938年改称（瀬戸臨海実験所）、
1968年島島実験地を取得／面積6.8ha（島島実験地2.7haを含む）／常駐教職員15人

（京都本部地区（吉田キャンパス北部構内） / 常勤教職員 18人）

会議室・センター長室・森林系図書室・研究室・実験室・事務室など : 農学部総合館

j. Pod（京大フレーム工法）実証実験棟 *

連携研究推進棟 *・北部総合教育研究棟

隔地教員研究室 : 旧演習林事務室棟 *

森林/里域フィールド管理部門・森里海連環学プロジェクト支援室 : 北白川試験地事務室棟 *

* 北白川試験地内

(3) 教育研究部

教育研究部は、研究推進部門、森林生態系部門、里域生態系部門、海洋生態系部門の4部門、7分野から構成される。

研究推進部門

本部門では、森里海連環学に関わる研究プロジェクトや教育活動を実施している。この部門には、森里海連環学プロジェクト支援室が設置されており、フィールド調査や化学分析を支援している。

森里海連環学分野

日本の沿岸域生態系は、多様な海洋生物を育んできたが、近年は深刻な問題を抱えるようになった。人間の過剰な経済活動が、水質汚染や藻場・干潟の消失を引き起こし、ダム建設、埋立や河川横断構造物建設といった経済開発による水・砂の流系の分断が生態系間のつながりを破壊している。当分野では、森里海連環学を通して、森から海までのつながりと人間の関わり方を統合的に管理していくことによって、問題の解決を図ろうとしている。

[教員] 赤石 大輔（連携准教授）

森林生態系部門

本部門は、3ヶ所の研究林と3ヶ所の試験地の管理と運営を担当し、森林生態系に関するフィールド教育・研究活動を展開している。生態系サービスや多面的機能の定量的評価や社会的評価を目標として、森林生態学、森林育成学、森林管理学、生物地球化学などさまざまな分野にわたる手法と概念を用いて総合的に解析している。森里海連環学への取り組みとして、森林生態系と水域生態系の間の生物と物質のつながりも研究している。

森林育成学分野

森林育成学分野では、森林生態系サービスをバランス良く享受できる森林資源の育成と管理、利用方法の構築を目的とし、窒素等の物質循環を通じた森林生態系機能と更新機構を中心とした森林動態の解明に関する研究を行っている。さらに、シカによる植生被害の影響および対策や、生態系情報に基づく持続可能な森林資源の育成・利用方法に関する技術的研究にも取り組んでいる。当分野は、協力講座として農学研究科に森林育成学分野を提供している。

[教員] 徳地 直子（教授）・長谷川 尚史（准教授）・伊勢 武史（准教授）・石原 正恵（准教授）・佐藤 弥（連携准教授）

森林情報学分野

森林情報学分野では、森林から流域に流出する物質と森林環境の関係や、伐採等の人間活動が植生・土壌・流域の物質循環系におよぼす影響など、森と流域の連環について研究している。さらに、国産材の流通・消費の変化を解析することで、適切な森林資源の管理手法を検討している。これらの研究をもとに、地球環境変化や社会環境の変化のもとでの森林流域生態系の変化を把握するとともに、適切な森林利用と管理をするために人びとの森林環境に対する意識調査に取り組んでいる。当分野は、協力講座として農学研究科に森林情報学分野を提供している。

[教員] 館野 隆之輔（教授）・吉岡 崇仁（特任教授）・小林 和也（准教授）・坂野上 なお（講師）・松岡 俊将（講師）・中西 麻美（助教）・杉山 賢子（助教）・横部 智浩（特任助教）

里域生態系部門

山間部から沿岸部に至る広く、変化に富む地域は、人間の関与が様々な強度で継続しており、自然と人間の相互作用、もしくは人間と自然との共生によって生み出される特有の生態系を形成する。この生態系には、農業、林業、水産業という人間の生活を維持するために必要な基本的な生業による二次的自然が含まれるほか、居住域としての農山漁村や都市も含まれる。これらの人間が与えるインパクトを把握することは、現在の地球環境問題の本質の把握にも通じるものであり、本部門ではそのために不可欠な人間－自然相互作用環の解明を多くの視点から実践し、その共生システム構築のための教育研究を行う。

里地生態保全学分野

里地生態保全学分野では、人里と一部に里山や里海、里空を含む、いわゆる里地に分布するかく乱依存性植生ならびにかく乱依存性植物の起源、伝播、歴史および生態的特性を、文明や地域文化的多様性とその変容と関連付けながら明らかにし、それらの管理保全体系ならびに持続的共存に関して考察をしている。

〔教員〕

里海生態保全学分野

里海生態保全学分野では、魚介類の生態、行動、系統分類などについて、多様な視点から研究を進めている。また、陸域の環境と人間活動が沿岸域の生物生産機構に与える影響を調べている。森から海までの生態系のつながりの分断によって、海の生態系が劣化しているという仮説を検証し、そのメカニズムの解明をめざす。当分野は舞鶴水産実験所および教育研究ユニット生物多様性・生態学的メカニズムグループ（吉田キャンパス）を教育研究の拠点とし、協力講座として農学研究科に里海生態保全学分野、地球環境学舎に水域生物環境論分野を提供している。

〔教員〕 益田 玲爾（教授）・甲斐 嘉晃（准教授）・鈴木 啓太（助教）・邊見 由美（助教）・
高橋 宏司（助教）（-2023.11.）・伊藤 岳（特任助教）（-2024.3.）

海洋生態系部門

本部門では、海洋生物を研究材料として用い、分類学、進化生物学、発生生物学、生理生態学、生物地理学といった様々な基礎生物学的な研究教育活動を、分子レベルから生態系レベルにわたって広範囲に展開している。更にその研究フィールドを熱帯域・北方域へと地球規模に広げながら、環境生物学や保全生物学といった応用的な領域へと、その教育研究活動の内容を拡大している。

基礎海洋生物学分野

基礎海洋生物学分野では、海洋生物の多様性と進化プロセスを解明するための自然史研究を行っている。系統分類学は、形態および分子レベルにおける系統と分類学の研究、および、生物地理、地史をも含め、系統地理学、進化学的研究を進めている。機能形態学では、比較形態学的研究や、発生学、分子生物学的手法による形態形成のメカニズムを解明する研究を行うとともに、海洋生物の多様性を保全するために、多様な生物が環境の変動に対してどのように反応するのかを明らかにするべく、研究を行っている。当分野は瀬戸臨海実験所を教育研究の拠点とし、協力講座として理学研究科に海洋生物学分科を提供している。

〔教員〕 朝倉 彰（教授）・下村 通誉（准教授）・中野 智之（准教授）（2023.6.- / 講師 -2023.5.）・
河村 真理子（特定講師）（2023.10.-）・後藤 龍太郎（助教）・山守瑠奈（助教）・
Bao Sarina（特任助教）（2023.4.-2024.3.）

海洋生物環境学分野

海洋生物環境学分野では、海洋をはじめ、湖沼や河川を含む水圏における、持続的な生物生産をもたらす水圏生態系の仕組みや、その変動機構ならびに水圏生態系に生息する魚類や海産ほ乳動物などの行動生態を研究している。そのための手法として、安定同位体分析、生態系モデルによるシミュレーションならびにバイオテレメトリーやマイクロデータロガーによるバイオリギングを用いた研究を行っている。当分野は、時限的にフィールド研にも所属する農学研究科からの流動分野である。

教員 三田村 啓理（教授）・山下 洋（特任教授）・市川 光太郎（准教授）・小林 志保（助教）・
久米 学（特定助教）（-2024.3.）

(4) 管理技術部

企画情報室と、森林、里域、水域の3フィールド管理部門、9施設の管理技術班からなる。フィールドの管理・運営および基礎情報の収集、情報管理、技術開発、教育研究支援を行う。

技術部長 朝倉 彰

統括技術長 境 慎二郎

企画情報室 室長 三田村 啓理

森里海連環学プロジェクト支援室 室長 徳地 直子

森林フィールド管理部門 技術長 境 慎二郎

○芦生研究林管理技術班

○北海道研究林管理技術班

○和歌山研究林管理技術班

里域フィールド管理部門 技術長 藤井 弘明

○上賀茂試験地管理技術班

○徳山試験地管理技術班

○北白川試験地管理技術班

○紀伊大島実験所管理技術班

水域フィールド管理部門 技術長 加藤 哲哉

○舞鶴水産実験所管理技術班

○瀬戸臨海実験所管理技術班

(5) 事務部

フィールド研の事務は、フィールド科学教育研究センター事務部が担っている。また、共同事務部である北部構内事務部の各担当部署がフィールド研の業務を所掌している。

フィールド科学教育研究センター事務部		事務長	尾田 直之
		事務室長	椿野 康弘 (-2024.03)
北部構内事務部	(フィールド研担当部署のみ表示)	事務部長	八木 清隆 (-2024.03)
総務課	人事掛、給与掛	総務課長	野田 航多 (2023.04-)
	農学研究科等総務掛		
管理課	管理掛、財務掛、研究推進掛	管理課長	谷内 秀樹
経理課	フィールド研経理総括掛	経理課長	奥山 諭
	芦生研究林事務掛		
	北海道研究林事務掛		
	瀬戸臨海実験所事務掛		
	運営費・寄附金掛、旅費等経理事務センター事務掛、		
	産官学連携掛、科学研究費等補助金掛		
施設安全課	施設掛、設備掛、安全管理掛	施設安全課長	川邊 博之 (-2024.03)
教務・図書課	農学研究科等学術情報掛*、共通図書掛	教務・図書課長	尾田 直之
	(* 森林系図書室を所掌)		
国際室	国際企画支援掛	国際室長	江田 修身
学術研究支援室	北部地区担当チーム		

(6) 2023年度の活動（総括）

センター長／基礎海洋生物学分野 教授 朝倉 彰

フィールドワークを主たる研究と教育の活動としている当部局は、新型コロナウイルスの感染拡大の防止に鑑みた長期にわたった行動制限により大きな影響を受けてきて、教員にとっても学生にとっても長く困難な時代であった。2023年度はそれが解除され通常の活動に復帰した。教育面において、農学研究科、理学研究科および地球環境学舎の協力講座、協力分野として、研究科の教育ならびに学部教育に貢献している。全学教育に関しては、統合科学科目群「森里海連環学分野」の講義科目、実習科目、ILASセミナーの開講状況も通常通り実施された。

教育関係共同利用に関する拠点（舞鶴水産実験所、瀬戸臨海実験所、芦生研究林・北海道研究林・上賀茂試験地）においても、活動は正常に復帰し公開実習を実施した。また他大学の実習科目も受け入れたほか、他大学学生・院生による論文作成のための利用も受け入れた。これらの拠点がそれぞれの専門分野における全国の大学が活用するハブ機能を有する場として活用されているのは誠に喜ばしく、ますますの発展を期待したい。

本年度は当部局の創設20周年にあたり、その記念式典とシンポジウムを百周年時計台記念館 百周年記念ホールにて、11月に開催し、会場参加 約250人、オンライン参加 約100人と多くの関係者にご参加いただいた。基調講演として畠山重篤社会連携教授による「森は海の恋人 人の心に木を植える」があり、「フィールド研の誕生・歩みと未来」の講演を前センター長の、田中 克名誉教授、吉岡 崇仁名誉教授、ならびに私で行った。また隔地施設における教育と研究の歩みに関する紹介の講演を各施設の代表の教員が行った。

また当部局では、森里海連環学を標榜し地球環境問題や地域に密着した人と自然の関わりについての教育研究を行い、広く学生や若い世代にこうした問題の意識を高め、人材育成や広く社会に対しての啓蒙的な取り組みをしている。その一環として高大連携事業を行い、全国の高校にお声かけをして森里海連環学に関する自由研究をしていただき、1年に一度京都に集まっていただき発表会を実施している。本年度は、創設20周年記念式典のプレ企画として高校生研究ポスター発表会を百周年時計台記念館で開催した。

本年は当部局と公益財団法人イオン環境財団による「新しい里山・里海 共創プロジェクト」の2年目にあたる。本事業では、里山・里海の現状を知る、モデルとなる里山・里海をつくる、新しい里山里海を創る人たちとつながるを3本の柱としている。この事業を推進する新たな研究員の採用を実施して体制も整った。本年度は、この分野の教育・研究・社会連携活動を本格的に進め、里山・里海に関わる地域の方々が、研究者等と協働しプロジェクトから得られる科学的な知見を活用して、自立的・持続的な活動を共に創り出せるシチズンサイエンスを推進している。

当部局では、ここ数年の間に定年退職を迎える教員が多く、そのため大幅に人員が若返り、新しい体制が築かれつつある。研究と教育に今後の新たな展開が期待できると言える。

(7) 2023年度の主な取り組み（日記）

- (1) 2023年4月1日
森林生態系部門の坂野上なお助教、松岡俊将助教がそれぞれ講師に昇任。大阪産業大学の赤石大輔准教授が、研究推進部門の連携准教授に就任。海洋生態系部門に、Bao Sarina 特任助教が着任
- (2) 2023年4月～
2023年度新入生向けILASセミナーを開講
 - ・「フィールド実習“森は海の恋人”」 (舞根森里海研究所)
朝倉彰、下村通誉、中野智之、後藤龍太郎、山守瑠奈
 - ・「森での感動を科学する」 (芦生研究林) 伊勢武史
 - ・「京都の文化を支える森林―地域の智慧と生態学的知見」 (芦生研究林、上賀茂試験地ほか)
徳地直子、石原正恵、坂野上なお他
 - ・「貝類の不思議」 (瀬戸臨海実験所) 中野智之
 - ・「森を育て活かす―林業体験をとおして考える」 (和歌山研究林) 長谷川尚史
 - ・「甲殻類学入門」 (瀬戸臨海実験所) 下村通誉
 - ・「森と暮らしを繋ぐ持続可能なデザイン」 徳地直子ほか
 - ・「里山の物質循環―燃料・肥料・食料から考える―」 (上賀茂試験地) 舘野隆之輔
 - ・「京都の海の沿岸動物学入門」 (舞鶴水産実験所) 鈴木啓太、甲斐嘉晃、邊見由美
 - ・「海洋共生生態学入門」 (瀬戸臨海実験所) 後藤龍太郎、邊見由美
 - ・「北海道の昆虫相」 (北海道研究林) 小林和也、杉山賢子
 - ・「黒潮流域の海洋生物自然史」 (瀬戸臨海実験所) 山守瑠奈
 - ・「北海道のきのこの多様性と生き方」 (北海道研究林) 杉山賢子、小林和也
 - ・「芦生研究林の菌類多様性に触れよう」 (芦生研究林) 松岡俊将
- (3) 2023年4月～7月
全学共通科目「森里海連環学I：森・里・海と人のつながり」「森里海連環学II：森林学」開講
- (4) 2023年2月1日～5月14日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、企画展「海洋生物を究める！-JAMBIO 沿岸生物合同調査の紹介-」を開催
- (5) 2023年4月14日
舞鶴水産実験所共同利用運営委員会を開催
- (6) 2023年4月14日
瀬戸臨海実験所共同利用運営委員会を開催
- (7) 2023年4月14日
水産・臨海・臨湖実験所フィールド実習ワークショップ「コロナ禍に行われた瀬戸臨海実験所の実習（事例報告）」をオンラインで開催(参加者20人)
- (8) 2023年4月15日～2024年3月10日
上賀茂試験地において、里山おーぷんらば@上賀茂を実施(第1～11回)
- (9) 2023年4月16日
森林生態系部門に張曼青特定助教が着任
- (10) 2023年4月18日～2024年1月16日
和歌山研究林において、和歌山県立有田中央高等学校清水分校との共催でウッズサイエンスを開講(週1回・3年生1人)
- (11) 2023年4月18日～2024年3月19日
瀬戸臨海実験所において、瀬戸海洋生物学セミナーをオンラインで開催(第76～86回)

- (12) 2023年4月22日、5月20日、6月17日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の磯採集体験」を開催（4月12人・5月14人・6月18人）
- (13) 2023年4月22日、7月22日
舞鶴水産実験所において、イオン環境財団とともに「京都大学舞鶴水産実験所で木の枝を海に沈めて集まる魚を観察しよう！」を開催
- (14) 2023年4月26日
徳山試験地において、避難訓練を実施（4人）
- (15) 2023年5月1日
森林生態系部門に田中 拓弥特定研究員（新しい里山・里海 共創プロジェクト）が着任
- (16) 2023年5月14日～2024年2月10日
和歌山研究林において、有害鳥獣捕獲のための入林制限を実施（捕獲実施日数は計12日）
- (17) 2023年5月22日
和歌山研究林において、有田川町立八幡小学校との共催で、森林体験学習を実施（5年生12人、教諭2人）
- (18) 2023年5月26日、10月26日
和歌山研究林において、和歌山県立有田中央高等学校清水分校との共催で、森林ウォークを実施（1年生2人、教諭2人）
- (19) 2023年5月26日
徳山試験地において、周南市連携事業「鼓南中学校環境学習」を開催（中学生11人、引率8人）
- (20) 2023年5月27日
徳山試験地において、京都大学・周南市連携講座を開催（28人）
- (21) 2023年6月1日
海洋生態系部門の中野智之講師が准教授に昇任
- (22) 2023年6月5～15日
大雨の影響で研究林事務所への道が不通となったため、事務所機能を清水分室に仮移転
- (23) 2023年6月6日
芦生研究林・北海道研究林・上賀茂試験地共同利用運営委員会を開催
- (24) 2023年6月8～9日
芦生研究林において、芦生もりびと協会と共催で、美山小学校「芦生グリーンワールド」を開催（美山小4年生23人）
- (25) 2023年6月17日
瀬戸臨海実験所とイオン環境財団が主催して、「畠島ビーチクリーン活動」を実施（30人）
- (26) 2023年6月18日
北海道研究林白糠区において、初夏の花観察会プチフラワーソン2023を開催（参加者9人）
- (27) 2023年6月18～24日
白浜水族館にて、京都大学126周年記念 缶バッジ（全2種類）を配布
- (28) 2023年7月4日
吉田事業所産業医が、和歌山研究林を巡視
- (29) 2023年7月14日、2024年1月23日、3月21日
「新しい里山里海の勉強会」をオンラインで開催（7月第3回 参加者130人、1月第5回107人 3月第6回158人、連携高校9校56人を含む）
- (30) 2023年7月21日～8月31日
白浜水族館において、「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「大水槽エサやり体験」を開催（314人・151人）
- (31) 2023年8月5日

- 北白川試験地において、夏の自然観察会「大学キャンパスで虫みつけ」を開催(京大ウィークス参加イベント、参加者15人)
- (32) 2023年8月5～11日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習「*niona opoogan iona io og o a in n a s*」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学5人、理学部「臨海実習第2部」併催)
- (33) 2023年8月6～10日
北海道研究林標茶区において、「公開森林実習II：夏の北海道東部の人と自然の関わり」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学10人、全学共通科目ILASセミナー「北海道の昆虫相」併催)
- (34) 2023年8月7～11日
芦生研究林および舞鶴水産実験所において、全学共通科目「森里海連環学実習I：芦生研究林ー由良川ー丹後海のつながりを探る」を実施(5人)
- (35) 2023年8月7～11日
芦生研究林および舞鶴水産実験所において、公開実習「森里海連環学実習I：芦生研究林ー由良川ー丹後海のつながりを探る」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学5人)
- (36) 2023年8月9日
北白川試験地において、京都大学オープンキャンパス2023 共通企画「北部キャンパスツアー(農学部コース)」を実施(参加者135人)
- (37) 2023年8月25～30日
舞鶴水産実験所において、公開実習「魚類学実習」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学4人、農学部科目「海洋生物科学技術論と実習I」併催)
- (38) 2023年8月27日
京都府立植物園 植物園会館において、京都府立植物園、芦生生物相保全プロジェクト、芦生研究林が主催して、公開講演会「シカの食害による芦生の変化とときのこ相：新たなモニタリングと協働」を開催(58人)
- (39) 2023年8月30日～9月4日
舞鶴水産実験所において、公開実習「無脊椎動物学実習」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学2人、農学部科目「海洋生物科学技術論と実習II」併催)
- (40) 2023年9月6～8日
芦生研究林において、公開森林実習Iを実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学9人)
- (41) 2023年9月10～16日
北海道研究林標茶区および北海道大学厚岸臨海実験所において、全学共通科目「森里海連環学実習II京大・北大合同実習(夏の北海道実習)：北海道東部の森と里と海のつながり」を実施(教育関係共同利用拠点事業、京大6人・北大9人)
- (42) 2023年9月10～16日
北海道研究林標茶区および北海道大学厚岸臨海実験所において、公開実習「森里海連環学実習II京大・北大合同実習(夏の北海道実習)：北海道東部の森と里と海のつながり」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学4人)
- (43) 2023年9月11～18日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習「自由課題研究」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学2人、理学部「臨海実習第1部」併催)
- (44) 2023年9月19～24日
舞鶴水産実験所において、公開実習「魚類生態学実習」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学10人)
- (45) 2023年10月1日
海洋生態系部門に河村真理子特定講師が着任
- (46) 2023年10月1日～2024年3月17日
北海道研究林白糠区において、北海道のエゾシカ被害防止緊急捕獲事業の一環で銃器を用いた捕獲駆除のた

- めの入林制限を実施
- (47) 2023年10月2日
舞鶴水産実験所において、避難訓練を実施(27人)
 - (48) 2023年10月7日
北海道研究林標茶区において、自然観察会「秋の森の生態系」を開催(京大ウィークス参加イベント、18人)
 - (49) 2023年10月8～9日
京都府立植物園において「きょうと☆いきものフェス！2023」が開催され、ブースを出展
 - (50) 2023年10月12日
和歌山研究林が、マルカ林業株式会社社有林において、和歌山県紀の国森づくり基金活用事業（緑育推進事業）を実施（楠見西小5年生27人、教諭2人）
 - (51) 2023年10月14日
徳山試験地および周南市役所の多目的室において、周南市と共催で、周南市・京都大学フィールド科学教育研究センター連携公開講座を開催(京大ウィークス参加イベント、32人)
 - (52) 2023年10月14日、12月9日、2024年3月2日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の飼育体験」を開催（10月10人・12月11人・3月8人）
 - (53) 2023年10月14日
和歌山研究林において、ミニ公開講座を開催(京大ウィークス参加イベント、12人)
 - (54) 2023年10月14日～12月16日
上賀茂試験地において、公開森林実習III「森林・里山の生態系サービスを学ぶ」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学5人)
 - (55) 2023年10月15日
上賀茂試験地において、イオン環境財団とともに「里山フェスin上賀茂試験地：洛再Linksのみんなと里山で遊ぼう!!」を実施(44人)
 - (56) 2023年10月18日～12月22日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、特別標本展示「新種の貝とヨコエビ」を実施
 - (57) 2023年10月21日
芦生研究林において、一般公開を開催(京大ウィークス参加イベント、31人)
 - (58) 2023年10月21日
北海道研究林標茶区において、「しべちゃアドベンチャースクール」を実施（高校生5人、小学生15人）
 - (59) 2023年10月21日
瀬戸臨海実験所において、公開ラボ・施設見学「白浜の海の自然と発見」を実施（京大ウィークス参加イベント、15人）
 - (60) 2023年10月27～29日
芦生研究林において、芦生菌類ワークショップを開催（12人）
 - (61) 2023年10月29日
イオンモール京都桂川において、「里山里海つながるフェス@イオンモール京都桂川」を開催（第4回新しい里山里海の勉強会 併催）295人（午前91人、午後204人）
 - (62) 2023年11月1日
和歌山研究林において、有田川町立八幡小学校との共催で、森林体験学習を実施（5年生10人、教諭2人）
 - (63) 2023年11月2日
京都大学監事が、芦生研究林を視察
 - (64) 2023年11月17日
和歌山研究林が、マルカ林業株式会社社有林において、和歌山県紀の国森づくり基金活用事業（緑育推進事業）を実施（和歌山市立有功小学校5年生41人、教諭3人）

- (65) 2023年11月18日
上賀茂試験地において、秋の自然観察会を実施（京大ウィークス参加イベント、18人）
- (66) 2023年11月19日
百周年時計台記念館において、高校生森里海研究ポスター発表会を開催（連携高校12校）
- (67) 2023年11月19日
百周年時計台記念館とオンラインにて、京都大学フィールド研創設20周年記念式典およびシンポジウムを開催（会場250人、オンライン100人）
- (68) 2023年11月24日
和歌山研究林が、マルカ林業株式会社社有林において、和歌山県紀の国森づくり基金活用事業（緑育推進事業）を実施（和歌山市立新南小学校5年生40人、教諭3人）
- (69) 2023年11月28日
舞鶴水産実験所が、京都地区研究室とともに、海洋合同セミナーをオンラインで実施
- (70) 2023年11月30日
里域生態系部門の高橋宏司助教が退職（新潟大学へ転出）
- (71) 2023年12月5～9日
瀬戸臨海実験所において、全学共通科目「博物館実習（館園実務）」を実施（1人）
- (72) 2023年12月12日
国連大学 ウ・タント国際会議場とオンラインで開催された、イオン環境財団主催 第1回SATOYAMAフォーラム「里山が持つ新たな価値創造＝ネイチャーポジティブとウェルビーイング」において、舘野隆之輔教授とBao Sarina 特任助教が登壇
- (73) 2023年12月17日
芦生研究林が、京都丹波高原国定公園ビジターセンターと共催で、ビジターセンターにおいて、京都丹波高原国定公園ゼミ「第4講 “どうする？私たちと森とのつながり！”」を実施（参加者17人）
- (74) 2023年12月23～27日
舞鶴水産実験所において、全学共通科目「博物館実習（館園実務）」を実施（2人）
- (75) 2023年12月23～27日
舞鶴水産実験所において、公開実習「博物館実習（館園実務）」を実施（教育関係共同利用拠点事業、他大学2人）
- (76) 2023年12月23日～2024年4月7日
白浜水族館において特別企画展「絶滅のおそれのある海の生き物展：和歌山県レッドデータブックでひもとく」を開催
- (77) 2023年12月26日
バランカラヤ大学（インドネシア共和国）と、部局間学術交流協定を締結
- (78) 2024年1月1～3日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館にて、「白浜水族館からのお年玉」オリジナルステッカーを配布
- (79) 2024年1月11日
和歌山研究林のフィールド実習等の映像を作成し、フィールド研YouTubeチャンネルで公開
- (80) 2024年1月22日
芦生研究林長石原准教授他が『「大学の森」が見た森と里の再生学—京都芦生・美山での挑戦』が京都大学学術出版会から出版
- (81) 2024年1月23日
「新しい里山里海の勉強会（第5回）」をオンラインで開催（参加者107人）
- (82) 2024年1月30日
上賀茂試験地が、武田薬品工業株式会社と事業連携を目的とした協定を締結
- (83) 2024年2月5日

- 協議委員会を開催
- (84) 2024年2月7日
瀬戸臨海実験所において、防災防火訓練を実施（26人）
- (85) 2024年2月17日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、イオン環境財団と共催で、新しい里山・里海 共創プロジェクト「白浜の豊かな海と生き物について学ぼう！」を実施（参加者33人）
- (86) 2024年2月19日
北海道研究林標茶区において、防災訓練を実施（11人）
- (87) 2024年2月20～22日
芦生研究林において、全学共通科目「森里海連環学実習III：暖地性積雪地域における冬の自然環境」を実施（13人）
- (88) 2024年2月24日～3月2日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習「海産無脊椎動物分子系統学実習」を実施（教育関係共同利用拠点事業、他大学7人・京大1人）
- (89) 2024年3月2日
まつもと市民芸術館およびオンラインにて、第19回京都大学附置研究所・センターシンポジウム 京都大学 松本講演会 京都からの挑戦 ―地球社会の調和ある共存に向けて―「京大発の研究のながれ、そして未来へ」を開催
- (90) 2024年3月3日
「森里連環学に基づく豊かな森と里の再生」研究会および、京都丹波高原国定公園ビジターセンター運営協議会が主催して、京都丹波高原国定公園ビジターセンターおよびオンラインにて、「美山×研究つながる集会」第4回「地域を元気にするタネをみつける～人口減少社会における担い手不足と向き合う～」を開催（芦生研究林 協力、参加者57人）
- (91) 2024年3月4～8日
舞鶴水産実験所他において、公開実習「仔稚魚学実習」を実施（教育関係共同利用拠点事業、他大学3人、農学部科目「海洋生物科学技術論と実習IV」併催）
- (92) 2024年3月6日
芦生研究林、北海道研究林、上賀茂試験地が、森林系教育拠点フォローアップ検討会をオンラインで開催
- (93) 2024年3月8日
国際科学イノベーション棟において、朝倉 彰 教授 退職記念講演会「海産無脊椎動物の多様性と種分化―甲殻類を中心に」を開催（参加者85人）
- (94) 2024年3月11日
上賀茂試験地において、避難訓練を実施（8人）
- (95) 2024年3月11日
北白川試験地において、避難訓練を実施（3人）
- (96) 2024年3月11日
瀬戸臨海実験所 島実験地の映像を作成し、フィールド研YouTubeチャンネルで公開
- (97) 2024年3月13～17日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習「藻類と海浜植物の系統と進化」を実施（教育関係共同利用拠点事業、他大学5人・京大1人、理学部「臨海実習第3部」併催）
- (98) 2024年3月15～16日
瀬戸臨海実験所において、防災研究所、複合原子力科学研究所、フィールド研の3部局による「技術職員の将来のあり方に関する意見交換会」を実施
- (99) 2024年3月23～29日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習「沿岸域生態系多様性実習」を実施（教育関係共同利用拠点事業、他

- 大学7人、京大生1人、全学共通科目「森里海連環学実習IV」併催)
- (100) 2024年3月23～29日
瀬戸臨海実験所において、森里海連環学実習IV「沿岸域生態系に与える陸・川・人の影響」を実施(11人)
- (101) 2024年3月23～31日
瀬戸臨海実験所において、春休み特別イベント「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」を毎日開催(解説ツアー(一般61人)、バックヤードツアー(小学生以上87人))
- (102) 2024年3月25～27日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、春休み特別イベント「大水槽エサやり体験」を開催(小学生以上35人)
- (103) 2024年3月29日
芦生研究林において、避難訓練を実施(11人)
- (104) 2024年3月29日
和歌山研究林において、避難訓練を実施(4人)
- (105) 2024年3月31日
朝倉彰センター長・教授が定年退職。海洋生態系部門の久米学特定助教、Bao Sarina特任助教(特定研究員)および、里域生態系部門の伊藤岳特任助教(特定研究員)がそれぞれ退職。

2. フィールド研の活動

(1) フィールド研2023年度の主な取り組み

1) フィールド研創設20周年記念式典・シンポジウム

20周年事業実行委員会委員長／里海生態保全学分野 教授 益田 玲爾

2023年11月19日(日)、フィールド科学教育研究センターの創設20周年記念式典とシンポジウムを、時計台記念館の百周年記念ホールおよび国際交流ホールで開催しました。記念式典には、学内外の関係者・一般市民と現構成員ら約250人が出席し、オンラインの中継も約100人の方が視聴しました。

式典ではまず、朝倉彰センター長が式辞を述べ、湊長博総長と関係部局長からそれぞれ祝辞を、文部科学省の梅原弘史専門教育課長からビデオメッセージによる祝辞をいただきました。

シンポジウムでは、畠山重篤社会連携教授が「森は海の恋人 人の心に木を植える」と題して基調講演を行いました。長靴姿で登壇した畠山社会連携教授は、フィールド研の発足前夜から現在までを振り返り、気仙沼市舞根湾でのカキ養殖を題材とした教育や植林活動、さらには鉄を利用した温暖化対策の研究提案など最新の話題についても熱く語りました。

その後、フィールド研と連携している全国の高校11校も参加して、若手中心のポスターセッションを開催しました。各高校からは、森里海連環学、海洋ごみ、放置竹林、環境DNA、水質や生態系調査といった課題についての研究発表がありました。また大学教員や学生による研究ポスターも掲示され、公益財団法人イオン環境財団とともに進める「新しい里山・里海 共創プロジェクト」や、株式会社モンベルとの協働事業「山の健康診断」などの研究成果もあり、高校生発表とあわせて31件のポスター発表で賑わいました。

シンポジウムの後半では、初代センター長の田中克名誉教授、第4代センター長の吉岡崇仁名誉教授、現センター長の朝倉彰教授の3人がそれぞれ、「フィールド研の誕生・歩みと未来」と題して講演しました。続いて芦生研究林、北海道研究林、瀬戸臨海実験所、そして舞鶴水産実験所の施設長から、「隔地施設における教育と研究の歩み」として、それぞれの施設での過去20年間の成果についての話題提供がありました。

夕刻からの祝賀会には、学内外の関係者、栄転あるいは退職されたかつての教職員、そして現在の教職員、学生ら107人が参加し、旧交をあたためるとともに、新たな研究の種を肴に大いに盛り上がりました。

記念式典とシンポジウムの講演の映像および当日の写真については、フィールド研ホームページの「20周年記念式典・シンポの記録写真」サイトで公開しております。ぜひご覧ください。

(初出 FSERC NEWS 62号 p.1 2024年2月)



百周年記念ホールの舞台に集うご来賓と講演者ら



若手中心のポスターセッションでは
全国の11校から参加した高校生らも発表した

2)「きょうと☆いきものフェス！2023」へのブース出展

社会連携委員会委員長／海洋生物環境学分野 准教授 市川 光太郎

2023 年 10 月 8～9 日に京都府立植物園において開催された「きょうと☆いきものフェス！2023」に出展しました。京都府内の約 50 の生物多様性に関わる保全団体・企業及び自然関連施設等団体・企業・個人等が集結し、ブース展示や、ワークショップ、交流会、講演会を実施することで、一般参加者へ情報発信するイベントです。フィールド研もパネルやポスターおよびタブレット等を用いて研究活動をアピールしました。

当日は雨が降る中、子供から大人まで幅広い世代の方々に立ち寄っていただき活発に意見交換ができました。特に、芦生研究林における研究活動に関するご質問とご意見が多く寄せられ、一般の方々の関心の高さが伝わりました。また、フィールド研で対象としている生物や植物をモチーフにした缶バッジを記念品として配布したところ、とても好評でした。くじ引き形式にしたのが功を奏したようで、200 個のバッジはイベント終了前にすべてなくなってしまいました。なお、2023 年度の展示は来場者に見ていただく形式ばかりでした。生物や植物等のサンプルを展示して、来場者が実際に触れることができるとより盛り上がったかもしれません。

会場内の他のブースでも工夫を凝らした展示が多数ありました。それぞれ、来場者との間で活発に情報発信や意見交換がなされており、全体としてとても活気のあるイベントでした。

本イベントでは展示者、来場者ともに自然保全意識の高い方々が集まっていました。今後、研究活動のための情報ネットワークが強化される機会になることが期待されます。本イベント参加にあたり、公益財団法人イオン環境財団にご支援いただきました。ありがとうございます。



来場者へ研究活動の内容を説明しました
活発な意見交換ができました



パネルの説明を熱心に読む来場者
特に芦生研究林への関心が高かったです

3) 里山里海つながるフェス@イオンモール京都桂川

森林育成学分野 特定研究員 田中 拓弥

2023 年 10 月 29 日（日）、「里山里海つながるフェス@イオンモール京都桂川」を、公益財団法人イオン環境財団との共催で実施した。

京都洛西地域を中心とする高校・大学、活動団体、企業、行政機関等が集まり、里山里海や森里海のつながりをテーマに発信したり、出展者・来場者の交流を通じて、多様な人となつがり、これからの活動のヒントを得ていただくことを目的とした。

当日、午前の部には 91 人（事前申込・当日申込の 34 人と出展者・関係者の 57 人）が参加した。会場には 11 団体の出展ブースと 5 つの体験コーナーを設置した。午後の部では、会場を一般に公開し、204 人が来場した。

午前の部の冒頭で、フィールド研・徳地教授による趣旨説明の後、かせやまの森創造社（木津川市）の中村事務局長による基調講演を行った。続いて、出展した団体等の代表者から一言ずつ活動を紹介した。

出展した 11 団体は、工藝の森、吉田山の里山を再生する会、森川田んぼプロジェクト（大阪産業大学）、森里海と文化研究会（京都大学）、エルセラーン化粧品株式会社、京都薬用植物園（武田薬品工業株式会社）、きょうと生物多様性センター、京都府立海洋高等学校、洛再 Links（京都府立洛西高等学校）、および、公益財団法人イオン環境財団・京大フィールド研であった。

午後の部では、それぞれの展示ブースにおいては、出展者同士や出展者と来場者が交流した。また、松ぼっくりのクリスマスツリー、マイクロプラスチックを用いた万華鏡などの工作コーナー、顕微鏡で植物・昆虫を観察したり、樹木のかおりを楽しむ体験コーナーなど、里山・里海を身近に感じられるように工夫されたコーナーにおいて、ショッピングのついでに立ち寄ったお子様連れの来場者が過ごされた。さらに、舞鶴水産実験所で行われた柴漬け漁で用いられた柴の見本、芦生研究林の概要や課題について紹介するポスター、上賀茂試験地から持ち込まれた木切れを用いた工作コーナーなど、フィールド研の特徴を生かした展示・体験のブースを設け、それぞれ楽しまれている様子が見られた。

参加者アンケート（67 人）からは多様な年齢層・職業の人が参加されていることがわかった。また、4 分の 1 の人は、「たまたま面白そうだから、通りがかりに立ち寄った」と回答していた。多くの人が訪れるショッピングモールの催事場で発信することによって、里山・里海にあまり行くことがない人や森・海の活動に馴染みがない人に対して、関心を持っていただく機会を提供することができた。

現場の感覚では、来場者への対応で忙しく、出展者同士の交流が少なかったのではないかと感じられたが、出展者向けアンケートからは交流が行われていた例もあったことがわかった。全体を振り返ると会場は盛況であり、発信・交流する目的をある程度果たすことができたと思われる。他方、ポスター掲示や入館手続き等の面で意思疎通の課題が見られた。次回同様の場をつくる際には、今回の試みを踏まえて、ブラッシュアップした機会にできればと考えている。



午前の部の基調講演



午後の部の体験コーナー

4) 芦生研究林における超学際研究教育

芦生研究林長／森林育成学分野 准教授 石原 正恵

「超学際 (Transdisciplinary)」とは、多様な分野の研究者と様々なステークホルダーが協働して課題解決を目指すことをいいます。2015 年に設立された Future Earth (持続的な社会を目指す国際的な研究ネットワーク) の中でも新たな科学のスタイルとして提唱されました。自然科学と人文・社会科学の研究者が協働するだけでなく、研究者と多様な主体 (ステークホルダー) が協働し、研究計画の立案 (Co-design)、知見の創出 (Co-production)、活動の実践 (Co-action/Co-delivery)、評価 (Co-evaluation) までを行うものです。

フィールド研は設立された 20 年前から森里海連環学を提唱してきましたが、それは超学際を先取りしていたと考えられます。初代センター長の田中克先生の言葉「“森は海の恋人”の世界を科学する新たな統合学問領域であり、社会運動と連携して初めてゴールに到達する」からそのことが感じられます。さらに隔地施設として美山町に 100 年間にわたり存在しつづけてきた芦生研究林の歴史を紐解くと、森林経営、ダム問題、クマハギ被害、地域振興など様々な課題に対し、社会の皆さまとともに歩んできました。

こうしたフィールド研や芦生研究林の歴史と、社会的な動きとを踏まえ、2018 年 10 月から日本生命財団の研究助成を受け、「森里連環学に基づく豊かな森と里の再生 : 「芦生の森」における研究者と地域との協働に基づく学際実践研究」(「森里連環学に基づく豊かな森と里の再生」研究会、代表徳地直子) が始まりました。このプロジェクトでは、従来個別に扱われてきた過疎化・高齢化という「里」の課題と、ニホンジカによる食害や気候変動などの「森」の課題を統合的に扱い、課題解決を目指しています。生態学、多様性学、保全学、農村計画学、経営学などを専門とする研究者が学際研究に取り組みました。研究計画の立案段階では、芦生や美山町に関わる様々な方々へのインタビューや座談会などを通じ、課題として感じておられることを学びながら、各研究者がテーマや協働相手を選定しつつ、協働相手とともに co-design, co-production, co-action を行ってきました。具体的には、ガイド、芦生山村活性化協議会、京都丹波高原国定公園ビジターセンター、美山観光まちづくり協会、行政、猟師、京都府立植物園、市民科学者、企業などと協働・連携し、トキノキの保全と活用 (坂野上なお¹・石原正恵¹)、わさびを材料とした森の豊かさの発信・経済価値化 (内田恭彦²)、希少植物種の域外保全 (阪口翔太³)、効果的な植生回復方法の解明 (石原正恵¹)、観光戦略立案のための観光客へのアンケート調査 (清水夏樹¹)、ガイドとのきのこ相調査 (赤石大輔¹)、研究者と地域がつながるプラットフォームづくり (福島誠子⁴・赤石大輔¹) などに取り組みました。(¹ 京都大学フィールド科学教育研究センター、² 山口大学経済学部、³ 京都大学大学院人間・環境学研究科、⁴ 京都大学野生動物研究センター (いずれも当時))

プロジェクト助成期間の 3 年間で、論文などの成果物や様々な活動を展開でき、また多様なステークホルダーとの協働の体制なども整ってきました。その成果は、『「大学の森」が見た森と里の再生学 京都芦生・美山での挑戦』(2024 年、石原正恵・赤石大輔・徳地直子編、京都大学学術出版会) に取りまとめました。本書は、超学際に取り組む様々な人にも実践的に参考になるように、さらに読み物としても楽しんでいただけるように平易な記述を心がけました。さらに、学術的に未確立な超学際研究の評価についても挑戦しました。本プロジェクトを経て、人と自然とのつながりがどのように変化したのかを IPBES のフレームワークで評価したり、Most Significant Change という手法により研究者自身がどのようにプロジェクトを捉えたのかを評価しました。さらに超学際研究の課題についても、研究者個人レベルの課題から、学術界の課題までを議論しました。当センターの今後の森里海連環学の発展にも寄与すると幸いです。

多くのプロジェクトでは助成期間が終わると、取り組みも終わってしまいます。しかし、超学際研究というのはとても長い時間がかかるものです。そうでなければ、森の再生や農山村の過疎・高齢化にともなう課題は解消できません。森里海連環学、そして芦生研究林の目標「様々な生き物が棲む森、多様な人がともに学ぶ場」を推進するため、本プロジェクトをきっかけとして始まった取り組みは、芦生研究林として、あるいは研究会として、プロジェクト終了後も継続しています。

教育面では、2023 年に実施した森里海連環学実習 III、ILAS セミナー「京都の文化を支える森林：地域の知恵と生態学的知見」、公開森林実習 I、総合生存学館「サービスマーケティング A」、人間環境大学「奥山里山管理実習/森林管理実習 B/共同フィールドワーク」において、地域の皆さまにもご協力いただき、栃やわさびなどの超学際研究をプログラムの中に組み込んでいます。

また、2024 年 3 月 3 日には、第 4 回美山×研究つながる集会「地域を元気にするタネを見つける～人口減少社会における担い手不足と向き合う～」を開催しました（「森里連環学に基づく豊かな森と里の再生」研究会・京都丹波高原国定公園ビジターセンター運営協議会主催、芦生研究林協力）。美山×研究つながる集会は、美山町に関わる研究者同士、地域と研究者、地域の方同士が繋がり、研究成果を共有し、協働を促進する場の創出を目指し、2020 年 2 月に第 1 回を開催しました。第 4 回は、株式会社さとゆめの嶋田俊平代表取締役役に「ふるさとの夢をかたち～地域に価値を生み出す持続可能な事業モデル」と題して講演いただき、人口減少に直面する農山村での取り組み事例や考え方を紹介いただきました。その後、美山町地域振興連絡協議会の下伊豆仁史会長から「美山町の振興会の取組紹介」、知井振興会の河野賢司事務局長から「知井振興会の課題」、美山まちづくり委員会の大野光博委員長から「美山まちづくり委員会の取組」をご紹介いただきました。57 人の研究者・地域関係者が参加し、美山町のまちづくりについて議論しました（ハイブリット開催）。

このように、教職員が常駐し、拠点として地域に継続的にある芦生研究林の利点を活かし、今後とも、超学際研究教育拠点として継続・発展させていきたいと思っています。



『「大学の森」が見た森と里の再生学』表紙



実習において地域の方から農山村での暮らしや課題をお話いただいている様子

5) 里山おーぷんらぼ@上賀茂

森林育成学分野 特定研究員 田中 拓弥

公益財団法人イオン環境財団との協働で 2022 年度から実施している「新しい里山・里海 共創プロジェクト」の活動の一環として、上賀茂試験地（以下、試験地）では、2023 年 4 月から月 1 回程度「里山おーぷんらぼ@上賀茂」（以下、らぼ）を実施した。小中学生・高校生・大学生・企業、NPO、アーティスト等、多様な人々が集まり、試験地での里山づくりや山・畑の産物の利用を楽しみながら体験した（表 1）。延べ人数では合計 301 人の参加があった。

表1 里山おーぷんらぼ@上賀茂の活動内容

日程	活動内容	参加者数
4月15日(土)	第1回 里山エリアの視察	11
5月13日(土)	第2回 らぼ参加者の交流	40
6月10日(土)	第3回 NPO 森守協力隊との連携による交流	40
7月8日(土)	第4回 里山のビジョン共有	17
9月9日(土)	第5回 工芸の森コンセプトの共有	22
10月13日(金)	第6回 里山エリア・道沿いの植生調査①	22
10月14日(土)	第6回 里山エリア・道沿いの植生調査②	14
11月11日(土)	第7回 植生調査の結果を共有	15
12月16日(土)	第8回 2024年の活動について意見交換	34
1月13日(土)	第9回 植樹の準備・畑作業	18
2月10日(土)	第10回 植樹の準備・畑／基地活動	27
3月10日(日)	第11回 里山エリアの植樹	47

試験地にある外国産針葉樹の見本林エリアは、台風などの攪乱で荒廃しており、里山エリアとしての再生が目指されている。その1区画18林班に対する管理方法の検討や管理作業に、らぼの参加者が参画した。話し合いの結果、工芸や暮らしで利用される樹種を含み、その活用を体験できる森づくりを目指すことになった。参加者により植生調査を実施し、その結果を踏まえ、3月に植樹した。また、植生調査の結果を土台に、フィールドガイドをらぼ参加者で作成した。

らぼからスピニアウトした「チアーズクラブのための里山体験プログラムづくり」を計6回実施した(表2)。洛西LINKSの高校生・教員を中心に、延べ人数で合計116人(小学生以下15人を含む)が参加した。

表2 高校生によるチアーズへの里山体験プログラムの提供 活動内容

日程	高校生によるチアーズへの里山体験プログラムの提供	参加者数
7月15日(土)	洛再Links ①プログラム案について意見交換	11
8月1日(火)	洛再Links ②ネイチャーゲームの体験	10
8月3日(木)	洛再Links ③草木染の体験	13
8月8日(火)	洛再Links ④炭焼きの見学	12
9月24日(日)	洛再Links ⑤プログラムの試行	19
10月15日(日)	洛再Links×チアーズ ⑥里山体験プログラムの提供	51

1年間実施する中で、一度だけ参加する人もあるが、他方で繰り返し参加している人もあり、関わり方は様々であった。過去の参加者による紹介や口コミで参加希望する人も増加してきた。試験地の中期的ビジョン等と整合させつつ、参加者の積極的に実践したい気持ちを支援するスタンスが、今後に向けて大切ではないかと思われる。



里山おーぷんらぼ@上賀茂参加者による植生調査



高校生による小学生向けプログラムの提供

6) 京都大学舞鶴水産実験所で木の枝を海に沈めて集まる魚を観察しよう！

舞鶴水産実験所長／里海生態保全学分野 教授 益田 玲爾

柴漬けとは、木の枝を集めてしばったもの（柴）を海に沈めて、集まる魚を採集する、伝統的な漁法のことです。この柴漬けを子供たちに体験してもらうイベント「京都大学舞鶴水産実験所で木の枝を海に沈めて集まる魚を観察しよう！」を、イオン環境財団との「新しい里山・里海 共創プロジェクト」の一環として実施しました。

4月22日、舞鶴水産実験所内に生えている樹木から枝を切り落とし、これらをロープで結わえて、柴を作りました。柴は広葉樹（シラカシ）と針葉樹（スギ）の2種類でそれぞれ作製し、舞鶴水産実験所前の海に沈めました。設置してしばらくは、定期的に潜水して柴に集まる魚の様子を観察し、共創プロジェクトのホームページで報告しました（https://collabo.fserc.kyoto-u.ac.jp/news/p9qHpwi_）。

7月22日、これらの柴に集まった魚の採集を試みました。あらかじめ柴の下には網を敷いておき、皆で引き上げます。採集された魚はアミメハギ、キジハタ、ササノハベラなど全部で9種類、31個体いました。

採集した魚を用いて、簡単な行動実験もしました。細長い水槽の両端に、広葉樹と針葉樹のミニチュア柴を設置します。中央に魚を放し、どちらを選ぶか、という実験です。広葉樹の柴から採集した魚は水槽内でも広葉樹を好むのでしょうか？子供たちとともに、予想を立てながら実験してみました。



ノコギリで木を切り柴を作ります



水槽で魚の行動を観察しました

7) 白浜水族館特別企画展 「絶滅のおそれのある海の生き物展」

基礎海洋生物学分野 助教 後藤 龍太郎

2023年12月23日から2024年4月7日にかけて京都大学白浜水族館にて企画展「絶滅のおそれのある海の生き物展 ～和歌山県レッドデータブックでひもとく～」を開催しました。開期中の来館者数は、合計31,487人です。冬休み・春休みに多くの方に展示を観ていただけました。

「レッドデータブック」とは、レッドリスト（絶滅の恐れのある生物や絶滅した生物のリスト）の掲載種についてその生態や生息状況等を取りまとめ編纂した書籍です。和歌山県では『保全上重要なわかやまの自然：和歌山県レッドデータブック』として2001年に初版が発行され、2012・2022年に改訂版が発行されました。2022年改訂版の掲載生物の総種数は1,655種で、多くの種が写真とともに分かりやすく掲載されています。そして、本改訂版では、これまでの版では掲載されてこなかった海や汽水域に生息する絶滅危惧種・絶滅種（貝類、その他の無脊椎動物、魚類など）が新たに追加されました。しかし、これらの生物のほとんどは、多くの方にとって馴染みの薄いものだと思います。本改訂版の執筆に参加していたことや、絶滅危惧種を多く含む干潟の生物を普段から研究していることもあり、是非多くの方にこのレッドデータブックに掲載されている海洋生物とその魅力を知ってもらい、そして、その生息環境が失われつつ

ある現状や保全の必要性についても知ってほしいと思い、本企画展を立案し、和歌山県自然環境室や和歌山県立自然博物館等の協力の下、実施しました。

展示では、歴代の3冊の和歌山県レッドデータブック、80点以上の絶滅種・絶滅危惧種の標本、レッドデータブックの内容・意義や掲載生物の紹介パネル、絶滅危惧種の生態紹介の6分間の動画などを設置いたしました(図1、2)。また、玉石海岸の間に生息する準絶滅危惧のオオミズハゼの生体展示も行いました。標本は、絶滅危惧ランクごとにカテゴリー分けして展示しました。例えば県内の絶滅種ではニホンアシカ、カブトガニ、アオギス、オカミミガイ等、絶滅危惧Ⅰ類ではシオマネキ、ユウスイミズハゼ、ワカウラツボ、スナウロコムシヤドリガイ等、絶滅危惧Ⅱ類ではハマグリ、クシテガニ等、準絶滅危惧種ではヘナタリ、シオヤガイ等、情報不足ではサナダユムシ、ミドリシヤミセンガイ类等、学術的重要ではハチザクラ、ベニシオマネキ等です。絶滅種や絶滅危惧種の標本・写真は入手が難しいものが多く、本企画展を開催するにあたり、和歌山県立自然博物館、奈良女子大学、大阪市立自然史博物館などの各機関や約30人以上の方々から貴重な資料や写真、標本提供、採集等のご協力をいただきました。フィールド研別施設の舞鶴水産実験所の甲斐先生・邊見先生、北海道研究林の杉山先生にもお世話になりました。心より御礼申し上げます。また企画展実施にあたり、開催委員に加わっていただいた下村通誉館長・白浜水族館技術職員の皆様にもお世話になりました。パネル準備・設営等に加えて、下村館長にはシオマネキ標本の作成(図3)、加藤哲哉さんにはスナウロコムシヤドリガイ標本の作成、山内洋紀さんには標本搬送や絶滅危惧魚類の展示、原田桂太さんには企画展ロゴ作成などを担当していただきました。

企画展の開催中は、県内の絶滅種であるニホンアシカやカブトガニの標本の前に子供達が集まってきて興味深そうに見ている様子がよく見られました。また、干潟の有名なカニであるシオマネキ(図3)が県内では絶滅の危機に瀕しているを知って驚かれる方もおられました。その他、サナダユムシやマゴコロガイ、シタゴコロガニなど、他ではなかなか観られない珍しい海の生物の標本やその生態動画も興味深く見てもらえたように思います。展示脇に和歌山県レッドデータブックを配置したところ、実際に手にとって読んでくださっている様子がよく見られました。本企画展は、紀伊民報・毎日新聞、和歌山テレビなどで取り上げてもらえました。この企画展が和歌山の海の豊かな生物多様性の理解や保全に繋がることを願っています。



図1. 企画展の様子1



図2. 特別企画展の様子2



図3. 絶滅危惧Ⅰ類シオマネキの標本

(2) 実習報告

1) 少人数教育科目群 ILASセミナー 「黒潮流域の海洋生物自然史」

基礎海洋生物学分野 助教 山守 瑠奈

2023年8月25～26日に、ILASセミナー「黒潮流域の生物自然史」を実施しました。4人の1回生が参加し、水族館見学・磯採集・プランクトン採集・近海産魚類の解剖を行いました。1日目は到着してからすぐに水族館に行き、展示生物の見学を行いました。白浜水族館は動物門ごとに海洋無脊椎動物が展示されているので、それぞれの水槽の前で、主要な動物門の体のつくりを学びます。棘皮動物はウニ、ナマコ、ヒトデ、クモヒトデ、ウミユリ、と全く見た目の異なる5綱に分けられますが、それらは五放射相称性や骨片等、共通する構造を持つことなどに学生さんは驚かれています。

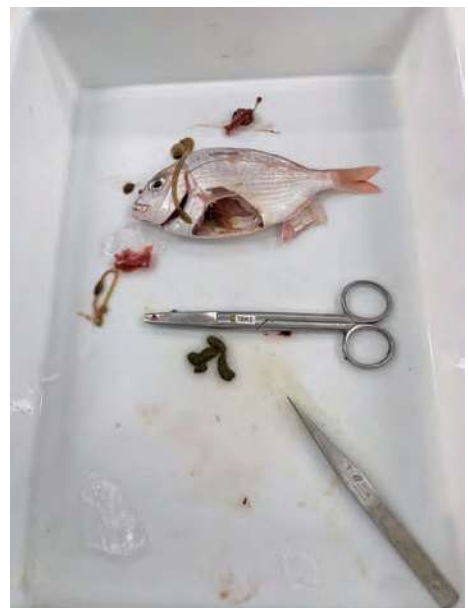
2日目は、潮の都合上早朝から磯採集を行いました。磯採集では、ウニの巣穴の共生生物や共生藻類を持ったイソギンチャクの観察を行い、また一部の生物を同定・観察用に実験室に持ち帰りました。実験所が発行している磯の生物観察ガイドや専門的な図鑑を用いて、採集した生物を同定してゆきます。中には貝殻などを標本として持ち帰ろうという熱心な学生さんもありました。普段の生活の中で出会う動物門は食用種等に限られますが、磯ではヒラムシ（扁形動物）やヒモムシ（紐型動物）、イソメ・ゴカイのなかま（環形動物）等、今までおよそ目にすることが無かったであろう動物たちとも出会え、生物の多様さを学びました。また、ウニやナマコ、カメノテなどは体内や体表に寄生・共生生物が見られることがあります。実習中にも、カメノテの中に住むヨツメヒモムシ等、さまざまな共生生物を観察することができました。

磯観察の後、市場に出て近海産魚類を購入しました。黒潮の洗う白浜では、外用性の魚が多く水揚げされるだけでなく、田辺湾に育まれる内湾の魚も見られます。観察と魚種の記録の後、幾つかの魚を購入して解剖観察用に持ち帰りました。魚類は脊椎動物なので、基本的な体の作りは人間とよく似ています。内臓などをひとつひとつ確認しながら魚類の体勢を理解し、そしてもう一步踏みこんだ内容として、鰓や鰭、また体表に付く寄生虫を探しました。白浜近海で採れる魚類の寄生虫は少なく、学生さんがこの先魚を食べることを躊躇するような結果にはなりませんでした。鰓にわずかに吸虫類が見られ、皆で顕微鏡を覗いて動きや形を観察しました。

時系列が少し遡りますが、市場の帰りにプランクトン採集を行いました。漁港でプランクトンネットという目あい100 mほどの網を投げ、動物プランクトンを採集します。これを実験室に持ち帰り、魚類解剖の後に顕微鏡で観察をしました。コペポダの仲間をはじめ、数多くのプランクトンが観察されました。コペポダは「海の米」とも呼ばれるほど海洋に卓越する一次消費者で、海洋の基礎生産の基底に近い位置において重要な立ち位置を持ちます。こうして、普段食卓に上がる魚類たちを支える生態系を学びました。最後に、夜間に水族館見学を行い、海洋生物の夜の行動を観察しました。昼間と違って活発になる無脊椎動物や、底に沈んで静かに眠っている魚類などを観察し、昼夜で異なる海の様子にも思いを馳せました。3日間で盛り沢山の内容でしたが、学生さんたちはレポートを中心とした事前学習・事後学習を含め、とても意欲的に取り組まれました。



プランクトン採集の様子。プランクトンネットを用います。



魚類解剖の様子。体の作りを学び、寄生虫を探しました。

2) 少人数教育科目群 ILASセミナー 「北海道のきのこの多様性と生き方」

森林情報学分野 助教 杉山 賢子、准教授 小林 和也

2023 年 9 月 26 日から 30 日にかけて、北海道研究林標茶区において、ILAS セミナー「北海道のきのこの生き方と多様性」を開催しました。本実習は、北海道研究林でのきのこ相調査や菌類の機能に関する講義解説を通じて、森林における菌類の多様性と機能の一端に触れてもらうことを目的とするものです。今年度初開講となった本実習には、6 人の学生が参加しました。

27 日-28 日は、北海道研究林の広葉樹天然林とトドマツ人工林という 2 タイプの林できのこ相調査を行い、林相の違いがきのこの多様性や機能群組成にどのような違いをもたらしているのかを考察しました。調査では 100 種を超えるきのこが記録され、受講生は図鑑と格闘しながらきのこの同定を行いました。29 日には、芦生研究林で同時開催の「ILAS セミナー：芦生研究林の菌類多様性に触れよう」と Zoom で接続して植生やきのこ相の比較を行い、芦生と北海道でのきのこ相の違いを実感しました。きのこの多様性というテーマで課したレポートでは、林間でのきのこ相の違いがどのような要因で説明されるかについて、きのこの機能による環境応答の違いを含めて考察したものが多く、菌類の多様性と機能に触れてもらうという当初の目的が達成できたのではないかと思います。

本 ILAS では、北海道での実習に先駆けて 5 月に上賀茂試験地でもきのこ相調査を行っています。各地のフィールド研施設を活用させていただくことで、4 泊 5 日の北海道実習だけでは体感できないような菌類の多様性に触れられたことが、本実習の目的の達成には不可欠でした。最後に、本実習のサポートをしてくださった TA、技術職員の皆様にお礼申し上げます。



人工林でのきのこ相調査



同定作業

3) 少人数教育科目群 ILASセミナー 「芦生研究林の菌類多様性に触れよう」

森林情報学分野 講師 松岡 俊将

芦生研究林において菌類の多様性に実際に触れて学ぶ機会を提供する目的で、2023 度より新たに ILAS セミナー「芦生研究林の菌類多様性に触れよう」を開講しました。本実習はまず、5 月 20 日に ILAS セミナー「里山の物質循環―燃料・肥料・食料から考える―」と「北海道のきのこの多様性と生き方」の教員・受講生が合同で上賀茂試験地において、そして 9 月 28 日から 30 日にかけて、芦生研究林において野外実習を行いました。

上賀茂試験地では、最初に試験地の概要や取り組み、菌類の生き方や森林におけるはたらきに関する講義を行いました。次に、暖温帯性の常緑広葉樹を中心とする関西低地林の植生観察と、薪割りやシイタケの駒打ち体験を行いました。普段スーパーや食卓でしか目にすることのない菌類(きのこ)が、森林ではどのように生きているのか、そしてどのように生産されているのか、座学と野外体験を組み合わせることで、目に見えない菌糸の存在を想像しながら学びました。

芦生研究林では、植生の観察ときのこ調査を通じて、植生ごとの菌類多様性の違いやその要因を考えました。まず、ブナやミズナラを中心とした林やトチやカツラを中心とした畦畔林などの冷温帯性の落葉広葉樹林の観察ときのこ調査を行い、上賀茂試験地との植生の違いを体験し学びました。次に、スギ人工林で調査を行うことで、林業による景観や林床の環境、そしてきのこ相の変化を学びました。それぞれの林で見つけたきのこのうち、一部は標本として持ち帰り、図鑑と見比べたり顕微鏡を用いた詳細な形態の観察を行ったりしながら同定することで、各林で見られたきのこのリストを作成しました。

29 日の夜には、同日程で北海道研究林において開催されていた ILAS セミナー「北海道のきのこの多様性と生き方」の参加者と Zoom ミーティングを行い、芦生・北海道それぞれの植生や見つけたきのこ、そして参加者それぞれの「推しきのこ」を発表し合いました。芦生研究林と北海道研究林は、ミズナラなど共通の樹種がいる一方で、樹種の多様性や造林樹種が異なります。また、芦生はシカの過採食により林床の植生がほとんどないのに対して、北海道研究林は一面がササに覆われています。こうした植生の違いや見つかったきのこの違いなどを参加者間で話し合うことで、国内の森林や人と森林の関わりの違いを学び合いました。30 日は、菌類の多様性はどのように生まれ・維持されているのか、実習を通じて学んだことと考察をレポートにまとめて発表してもらいました。

参加者には、きのこを研究したいというきのこマニアから、スーパーと食卓以外できのこは初めて見るというきのこ初心者まで、さまざまな背景を持つ学生がいました。人の顔ほどもある大きなアカヤマドリを見つけてみんなで歓声をあげたり、寄生菌であるカメムシタケに寄生するマユダマタケなどマニアにしか見つけられないきのこの発見と解説に感心したり、ツキヨタケの発光を暗い部屋で観察したり、みんなで歩くフィールドでしか得られない体験と学びが多い実習でした。



屋内でのきのこ同定作業



カメムシタケ(上)とカメムシタケに寄生するマユダマタケ(下)

(3) 全学共通科目

(講義・実習：統合科学科目群)

講義名	担当教員	形態	対象	開講期	単位
森里海連環学I：森・里・海と人のつながり	徳地、館野、益田、三田村、下村、長谷川、伊勢、坂野上	講義	全回生	前期	2
森里海連環学II：森林学	徳地、館野、長谷川、伊勢、石原、小林(和)、坂野上、中西、松岡、杉山、横部ほか	講義	全回生	前期	2
森里海連環学実習I：芦生研究林ー由良川ー丹後海のつながりを探る	益田、中西、甲斐、鈴木、石原、邊見、松岡	実習	全回生	前期集中	2
森里海連環学実習II：北海道東部の森と里と海とのつながり	館野、小林 和、中西、杉山ほか	実習	全回生	前期集中	2
森里海連環学実習III：暖地性積雪地域における冬の自然環境	石原、坂野上、松岡	実習	全回生	後期集中	1
森里海連環学実習IV：沿岸域生態系に与える陸・川・人の影響	朝倉、下村、中野、後藤、山守ほか	実習	全回生	後期集中	2

(講義・実習：キャリア形成科目群)

講義名	担当教員	形態	対象	開講期	単位
博物館実習（館園実務）	甲斐、下村、邊見ほか	実習	3回生～	後期集中	1

(ILASセミナー：少人数教育科目群)

講義名	担当教員	形態	対象	開講期	単位
フィールド実習“森は海の恋人”	朝倉、下村、中野、後藤、山守	ゼミ	1回生	前期集中	2
森での感動を科学する	伊勢	ゼミ	1回生	前期集中	2
京都の文化を支える森林ー地域の智慧と生態学的知見	徳地、石原、坂野上	ゼミ	1回生	前期集中	2
貝類の不思議	中野	ゼミ	1回生	前期集中	2
森を育て活かすー林業体験をとおして考える	長谷川	ゼミ	1回生	前期集中	2
甲殻類学入門	下村	ゼミ	1回生	前期集中	2
森と暮らしを繋ぐ持続可能なデザイン	徳地	ゼミ	1回生	前期	2
里山の物質循環ー燃料・肥料・食料から考えるー	館野	ゼミ	1回生	前期集中	2
京都の海の沿岸動物学入門	鈴木、甲斐、邊見	ゼミ	1回生	前期	2
海洋共生生態学入門	後藤、邊見	ゼミ	1回生	前期集中	2
北海道の昆虫相	小林(和)、杉山	ゼミ	1回生	前期集中	2
黒潮流域の海洋生物自然史	山守	ゼミ	1回生	前期集中	2
北海道のきのこの多様性と生き方	杉山、小林 和)	ゼミ	1回生	前期集中	2
芦生研究林の菌類多様性に触れよう	松岡	ゼミ	1回生	前期集中	2

(4) 大学院教育・学部教育

フィールド研は、協力講座として、京都大学大学院農学研究科へ3分野、理学研究科へ1分野が参画して、大学院教育および学部教育を行っている。また、大学院地球環境学舎へ協力分野として参画している。

協力講座としての教員配置と学生数（2023年12月現在）

	専攻	分野	教員	ポストドク など	博士後期 課程	修士課程	学部生 (4回生)
農学研究科	森林科学専攻 森林資源学講座	森林育成学分野	徳地 直子（教授） 長谷川 尚史（准教授） 伊勢 武史（准教授） 石原 正恵（准教授）	-	1	7	-
		森林情報学分野	舘野 隆之輔（教授） 小林 和也（准教授） 坂野上 なお（講師） 松岡 俊将（講師） 中西 麻美（助教） 杉山 賢子（助教）	-	1	3	-
	応用生物科学専攻	海洋生物環境学分野 （流動分野）	三田村 啓理（教授） 市川 光太郎（准教授） 小林 志保（助教） 久米 学（特定助教）	-	3	11	4
		里海生態保全学分野 ＜舞鶴水産実験所＞	益田 玲爾（教授） 甲斐 嘉晃（准教授） 鈴木 啓太（助教） 邊見 由美（助教）	1	1	8	-
理学研究科	生物科学専攻	海洋生物学分科 ＜瀬戸臨海実験所＞	朝倉 彰（教授） 下村 通誉（准教授） 中野 智之（准教授） 後藤 龍太郎（助教） 山守 瑠奈（助教）	2	4	5	-
地球環境学舎	資源循環学廊 （協力分野）	生態系連環論分野	徳地 直子（教授） 舘野 隆之輔（教授） 鈴木 啓太（助教）	-	-	-	-

（）内は、休学中の学生数

大学院での提供科目

大学院農学研究科 森林科学専攻

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
森林情報学特論 II	舘野、松岡	BA14	修士1回生以上	後期集中	2
森林育成学特論 II	伊勢、石原	BA16	修士1回生以上	後期	2
森林情報学専攻演習1	舘野、小林(和)、坂野上、中西、松岡、杉山	BB44	修士1回生以上	通年	4
森林情報学専攻演習2	舘野、小林(和)、坂野上、中西、松岡、杉山	BB45	修士2回生以上	通年	4
森林育成学専攻演習1	徳地、長谷川、伊勢、石原	BB46	修士1回生以上	通年	4
森林育成学専攻演習2	徳地、長谷川、伊勢、石原	BB47	修士2回生以上	通年	4
森林情報学専攻実験1	舘野、小林(和)、坂野上、中西、松岡、杉山	BC44	修士1回生以上	通年	5
森林情報学専攻実験2	舘野、小林(和)、坂野上、中西、松岡、杉山	BC45	修士2回生以上	通年	5

森林育成学専攻実験1	徳地、長谷川、伊勢、石原	BC46	修士1回生以上	通年	5
森林育成学専攻実験2	徳地、長谷川、伊勢、石原	BC47	修士2回生以上	通年	5

大学院農学研究科 応用生物科学専攻

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
海洋生物環境学特論I	三田村、市川、小林(志)、久米ほか	DA50	修士1回生以上	後期	2
海洋生物環境学特論II	三田村、市川、小林(志)、久米ほか	DA51	修士1回生以上	前期集中	2
海洋生物環境学演習1	三田村、市川、小林(志)、久米ほか	DB38	修士1回生以上	通年	3
海洋生物環境学演習2	三田村、市川、小林(志)、久米ほか	DB39	修士2回生以上	通年	3
海洋資源生物学演習1	益田、甲斐、鈴木、高橋、邊見ほか	DB40	修士1回生以上	通年	3
海洋資源生物学演習2	益田、甲斐、鈴木、高橋、邊見ほか	DB41	修士2回生以上	通年	3
海洋資源生物学演習1	益田、甲斐、鈴木、高橋、邊見	DB50	修士1回生以上	通年	3
海洋資源生物学演習2	益田、甲斐、鈴木、高橋、邊見	DB51	修士2回生以上	通年	3
海洋生物環境学専攻実験1	三田村、市川、小林(志)、久米ほか	DC38	修士1回生以上	通年	6
海洋生物環境学専攻実験2	三田村、市川、小林(志)、久米ほか	DC39	修士2回生以上	通年	6
里海生態保全学専攻実験1	益田、甲斐、鈴木、高橋、邊見	DC50	修士1回生以上	通年	6
里海生態保全学専攻実験2	益田、甲斐、鈴木、高橋、邊見	DC51	修士2回生以上	通年	6

大学院理学研究科 生物科学専攻（動物学系）

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
海洋生物学特論	朝倉、下村、中野、後藤、山守	8040	修士1・2回生	前期	2
機能形態・系統特論A	朝倉、下村、中野、後藤、山守	8131	修士1・2回生	前期	2
機能形態・系統特論B	朝倉、下村、中野、後藤、山守	8132	修士1・2回生	後期	2
海洋生物学ゼミナールA	朝倉、下村、中野、後藤、山守	8133	修士1回生	前期	2
海洋生物学ゼミナールB	朝倉、下村、中野、後藤、山守	8134	修士1回生	後期	2
海洋生物学ゼミナールC	朝倉、下村、中野、後藤、山守	8135	修士2回生	前期	2
海洋生物学ゼミナールD	朝倉、下村、中野、後藤、山守	8136	修士2回生	後期	2
海洋生物学ゼミナール	朝倉、下村、中野、後藤、山守		博士後期課程		

大学院地球環境学舎 環境マネジメント専攻

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
森里海統合管理学	徳地、舘野、石原、益田、朝倉、三田村、鈴木ほか	3304	修士1・2回生	前期	2
（生態系連環論）国際環境マネジメント基礎演習	徳地、舘野	3363	修士2回生	前期・後期	1
（生態系連環論）環境マネジメント基礎演習	徳地、舘野	3380	修士2回生	前期・後期	1
（生態系連環論）修士論文	徳地、舘野		修士2回生		
（生態系連環論）地球環境学特別実験及び演習 Ia Ib IIa IIb IIIa IIIb	徳地、舘野	5004-9	博士後期課程	前期・後期	各1
（生態系連環論）環境マネジメント演習 Ia Ib IIa IIb	徳地、舘野	7015-8	博士後期課程	前期・後期	各1

大学院情報学研究科

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
プラットフォーム学セミナー	三田村ほか	8702	修士1・2回生	前期	2
認知科学基礎論	佐藤ほか	3151	修士1・2回生	前期	2
計算論的認知神経科学	佐藤ほか	3163	修士1・2回生	前期	2

学部での提供科目

農学部 森林科学科

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
森林科学概論B	徳地、館野、長谷川、伊勢ほか	E104	1回生	前期集中	2
森林育成学	徳地、長谷川、石原	E191	3回生	後期	2
森林環境学	館野、坂野上、松岡、杉山	E192	3回生	後期	2
森林土木学	長谷川	E193	3回生以上	前期集中	1
生態系シミュレーション	伊勢、石原、小林(和)	E194	4回生	前期集中	2
森林基礎科学実習II	坂野上ほか	E222	2回生	後期	2
森林フィールド系実習及び実習法	長谷川、坂野上ほか	E231	3回生	前期	3
研究林実習I	石原、松岡ほか	E251	2回生	前期集中	1
研究林実習II	伊勢ほか	E252	3回生	前期集中	1
研究林実習III	小林(和)、中西、杉山ほか	E253	3回生	前期集中	2
研究林実習IV	小林(和)、中西、杉山ほか	E254	3回生	後期集中	2
課題研究（森林科学科）	森林科学科教員	E302	4回生		10

農学部 資源生物科学科

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
資源生物科学概論B	三田村ほか	A106	1回生	前期	2
海洋生物科学技術論と実習I	三田村、市川、小林(志)、益田、甲斐、鈴木、邊見、高橋ほか	A205	2回生	前期集中	2
海洋生物科学技術論と実習II	益田、甲斐、鈴木ほか	A206	2回生	前期集中	2
海洋生物環境学I	三田村、市川、小林(志)、久米ほか	A223	3回生	前期	2
海洋生物生態学	益田、邊見、高橋ほか	A224	3回生	前期	2
海洋生物科学技術論と実習IV	益田、甲斐、鈴木、邊見、高橋	A258	2回生	後期集中	2
海洋生物科学	三田村、市川、小林(志)、益田ほか	A259	2回生	後期	2
海洋資源生物学基礎	三田村、益田、市川、小林(志)、久米、鈴木、高橋、邊見ほか	A272	2回生	前期	2
魚類学	甲斐	A275	3回生	後期	2
資源生物科学専門外書講義	三田村、市川ほか	A281	3回生	前期	2
海洋生物環境学II	三田村、市川、小林(志)、久米	A307	3回生	後期	2
海洋生物資源学演習	三田村、市川、小林(志)、久米ほか	A512	4回生	通年	2
課題研究	資源生物科学科教員	A518	4回生		10

理学部 生物科学科

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
海洋生物学	朝倉、下村、中野、後藤、山守	2705	2回生以上	前期	2
無脊椎動物学	朝倉、下村、中野、後藤、山守	2708	2回生以上	後期	2
臨海実習第1部	朝倉、下村、中野、後藤、山守	2733	2回生以上	前期集中	2
生物学セミナーB	朝倉、下村、中野、後藤、山守	3761	3回生以上	後期	2
臨海実習第2部	朝倉、下村、中野、後藤、山守	3767	3回生以上	前期集中	2
臨海実習第4部	朝倉、下村、中野、後藤、山守	3769	3回生以上	前期集中	2

◆学位授与

(農学：森林情報学分野)

修士 浜中 啓樹 小林式誘因捕獲法を用いたくくり罟誘引捕獲地点におけるニホンジカ *Cervus nippon* の利用頻度を決定する要因の推測

修士 吉岡 亜姫 シデムシによる子の保護行動と個体数制御機構に関する研究

(農学：森林育成学分野)

博士 高屋 浩介 *n i i a i n i i a i o n o a p a n s g i a n s a a a n s A n d r i a s j a p o n i c u s a n i o n o i i s i a g o n i o n s i n g p a n i n g* (深層学習を用いたオオサンショウウオ *Andrias japonicus* の個体識別及び交雑種判別手法の開発)

修士 坪田 和也 ドローンを用いた 解析による広葉樹形状の評価

修士 孔 琪嫻 *o n g i i a n* 固相分光光度法による全国溪流水のリン酸濃度に関する研究

(農学：里海生態保全学分野)

修士 *n o n s p i i i n a i o n o g o i i i s s i n a i o n o a i n g a n o p i*

修士 史 翔寿 植食性動物に対するイセエビの捕食生態

修士 橘 聡毅 魚類における不安情動の伝染および社会的緩衝効果の検証

(農学：海洋生物環境学分野)

博士 小川 真由 *s s s s n o s o s s n o i s o n s o n a a i s i s a n i s i i o n o n a o i g i n s s p o p o i s s i n g s o n o s a s o n a i n a n i n g a p p o a*

修士 田嶋 宏隆 スナガニ属2種の餌としてのウミガメ卵の役割の検証

修士 長尾 元椰 超音波テレメトリーを用いたキジハタの産卵期における生息地利用と摂餌生態に関する研究

修士 吉川 雄大 暗視カメラシステムを用いた長期モニタリングによるニホンウナギにおける堰の遡上に関する生態学的研究

修士 中陳 遥香 海棲哺乳類のテロメア長および変化量とその要因に関する研究

修士 中川 こずえ 高水温と貧酸素が養殖トリガイに及ぼす複合影響の解明

学士 角野 和史 被食検出機能付き発信機を用いたホシガレイ人工種苗の大量-少数放流群間における生残および移動の比較

学士 三内 悠吾 タグを用いた都市河川におけるオオシマドジョウの季節的なマイクロハビタット利用に関する研究

学士 森口 裕太 野生ニホンウナギにおける継続的なストレス評価に適したテロメア長測定組織の検討

学士 山本 玲 ジュゴンの鳴き交わし機構に関する研究

(理学：基礎海洋生物学分野)

博士 *a i s s i a o o n a a n p i a i o n i n P a t e l l o i d a s a c c h a r i n a s p i s o p a o s s a p a n s i p a g o* (日本列島に分布するウノアシガイ種群の種分化)

博士 *i i a n i a i i s i s s a i s a n p o g n o o i i a s s a a a a p o o i a o i i a i n n o n s i a n i p a g o* (インドネシア列島における コメツキガニ科のカニ類 甲殻亜門 短尾亜目 スナガニ上科 の多様性とその系統分類学的研究)

修士 四ノ宮 千遥 *p i s i s i p o g n a n a o n o o P h a s c o l o s o m a a s o o s o a i a n n i a s i p n a n s i n a i n g a i n a s s a s* (海洋硬質基盤に生息するホシムシ類サメハダホシムシ属 (環形動物門サメハダホシムシ科) の種多様性と系統分類)

(地球環境学舎：生態系連環論分野)

修士 *i n i a n i n o o p a n k o n n a i s i n a i a a o a p a n i n s n o 2 0 1 a n s n o 2 0 1*

(5) 教育関係共同利用拠点事業

1) 公開実習科目一覧

フィールド研9施設のうち、2011年4月に舞鶴水産実験所および瀬戸臨海実験所が、2015年7月に芦生研究林・北海道研究林・上賀茂試験地が、文部科学省から教育関係共同利用拠点到認定され、拠点事業として、公開実習を実施するほか、他大学による実習、および他大学生、大学院生による論文作成のための利用を受け入れている。2023年度に実施した公開実習は以下の17科目である。

黒潮海域における海洋生物の自然史科学に関するフィールド教育共同利用拠点（瀬戸臨海実験所）

科目名	担当教員	実習期間	日数	学生数	学生の所属等
博物館実習（館園実務）	朝倉、下村、中野、後藤	2023-06-13/17	5	2	帯広畜産大学、三重大学
niona opoogan oionaioogoain nas	朝倉、下村、中野、後藤、山守	2023-08-05/11	7	5	鹿児島大学、神戸大学、宇都宮大学、東京大学、室蘭工業大学
自由課題研究	朝倉、下村、中野、後藤、山守	2023-09-11/18	8	2	信州大学、京都工芸繊維大学
海産無脊椎動物分子系統学実習	朝倉、下村、中野、後藤、山守	2024-02-24/03-02	8	8	北里大学(2)、鹿児島大学、京都工芸繊維大学、東京農工大学、埼玉大学、京都大学、島根大学
藻類と海浜植物の系統と進化	朝倉、下村、中野、後藤、山守	2024-03-13/17	5	6	東京農工大学(2)、信州大学、東京大学、京都大学、愛媛大学
沿岸域生態系多様性実習	朝倉、下村、中野、後藤、山守	2024-03-23/29	7	8	宇都宮大学、三重大学、東京農工大学(2)、京都大学、北里大学、京都工芸繊維大学、九州大学

日本海における水産学・水圏環境学フィールド教育拠点（舞鶴水産実験所）

科目名	担当教員	実習期間	日数	学生数	学生の所属等
森里海連環学実習I	益田、甲斐、鈴木、邊見ほか	2023-08-07/11	5	6	京都工芸繊維大学、大阪教育大学、北海道大学、龍谷大学(2)、新潟大学
魚類学実習	益田、甲斐、鈴木、高橋、邊見ほか	2023-08-25/30	6	4	東海大学、倉敷芸術大学、長崎大学、高知大学
魚類生態学実習	益田、甲斐、鈴木、高橋、邊見ほか	2023-09-19/24	6	10	鹿児島大学(2)、近畿大学(2)、東京農工大学、摂南大学、倉敷芸術大学、名古屋工業大学、長崎大学、岡山理科大学
無脊椎動物学実習	益田、甲斐、鈴木、高橋、邊見ほか	2023-08-30/09-04	6	2	広島大学、北海道大学
博物館実習（館園実務）	甲斐、鈴木、邊見	2023-12-23/27	5	2	北海道大学、摂南大学
仔稚魚学実習	益田、甲斐、鈴木、邊見、高橋	2024-03-04/08	5	3	東京海洋大学、北海道大学、広島大学

人と自然のつながりを学ぶ森林フィールド教育共同利用拠点（芦生研究林・北海道研究林・上賀茂試験地）

科目名	担当教員	実習期間	日数	学生数	学生の所属等
森里海連環学実習I （舞鶴水産実験所と共同開催）	徳地、石原、坂野上、中西	2023-08-07/11 (2023-08-07)	5	6	京都工芸繊維大学、大阪教育大学、北海道大学、龍谷大学(2)、新潟大学
森里海連環学実習II （北海道大学と共同開催）	館野、小林（和）、中西、杉山ほか	2023-09-10/16	7	4	佐賀大学、東北大学、東京農業大学、東京海洋大学
公開森林実習I 近畿地方の奥山・里山の森林とその特徴	徳地、石原、坂野上、松岡	2023-09-06/08	3	9	鳥取大学、琉球大学(2)、静岡大学、同志社大学、東北大学、酪農学園大学、福井県立大学、近畿大学

公開森林実習II 夏の北海道東部の人と自然の関わり	小林 (和)、杉山	2023-08-06/10	5	10	京都外国語大学、京都橘大学、京都工芸繊維大学、京都府立医科大学、立命館大学(2)、愛媛大学、筑波大学、京都府立大学、山形大学
公開森林実習III 森林・里山の生態系サービスを学ぶ	舘野、赤石	2023-10-14/12-16	5	5	京都工芸繊維大学(3)、同志社大学、京都府立大学

2) 舞鶴水産実験所における教育関係共同利用拠点事業

舞鶴水産実験所長 益田 玲爾

■他大学生を対象とした公開実習

全国共同利用教育拠点としての活動は、本年度が3期3年目となる。全国の大学生を対象に以下の6科目の公開実習を開講した。「森里海連環学実習I」は、芦生研究林内の由良川上流域から舞鶴市神崎の河口までの調査定点にて魚類と水生昆虫、プランクトン等を採集し、同時に水質や環境データを取得して、河川を経由した陸域と海域のつながりについて理解を深める実習である。本学の学生に加え、他大学生6人が参加した。「魚類学実習」では、由良川河口付近での魚類と餌生物の採集や魚類の解剖、仔稚魚の食性分析等を指導した。特別聴講学生を含む他大学生4人を受け入れた。「無脊椎動物学実習」では、緑洋丸に乗船しての底生生物の採集・分類とDNA分析、および環境観測を通して、沿岸生物の多様性と環境の関係を学んでもらった。他大学生2人を特別聴講学生として受け入れた。「魚類生態学実習」を開講し、シュノーケリングによる魚類の観察や魚類の行動実験の実習に、他大学生10人が参加した。「博物館実習（館園実務）」では、魚類標本の作製とそのデータベース化について経験させ、他大学生2人が参加した。「仔稚魚学実習」では、教育研究船・緑洋丸に乗船しての生物採集と分類、またスズキ仔魚を材料とした耳石日周輪の解析や餌生物の分析等を経験してもらった。特別聴講学生を含む他大学生3人が参加した。これら実習における他大学からの受講者は延べ151人であった。

■他大学による実習の受け入れ

近畿大学農学部3回生を対象とした環境管理学専門実験・実習Iを6月に実施し、延べ100人が参加して、海洋観測、魚類学、底生動物学等の実習を経験した。関西学院大学生命環境学部1・2回生を対象とした実習を8月に実施し、延べ100人の学生が参加して、魚類学習心理学、発生学、魚類・無脊椎動物分類学、沿岸海洋生態学等を学んだ。岐阜大学教育学部1・2回生を対象とした実習を9月に実施し、述べ52人が参加して、藻類学、発生学、魚類学、無脊椎動物学、沿岸海洋生態学等を学んだ。

■他大学生、大学院生による論文作成のための利用

共同利用研究として、全国の7大学から延べ42人の利用を受け入れた。

■運営実施体制

専任教員・研究員に加えて技術補佐員1人が共同利用を担当し、各自の専門性を活かしたサポートを行った。宿泊施設担当の労務職員を雇用し、宿泊棟を管理している。共同利用運営委員会を4月に開催し、拠点としての質の向上を目指した。フィールド実習教育に関するワークショップを開催し、瀬戸臨海実験所の下村通誉准教授から「コロナ禍に行われた瀬戸臨海実験所の実習（事例報告）」と題して講演頂いた。実験所のX（旧ツイッター）(https://x.com/mai_fish_res_st)では、実習に関する情報に加えて、当実験所で行われている調査研究や、市場に上がる魚などの情報を、基本的に毎日発信している。

3) 黒潮海域における海洋生物の自然史科学に関するフィールド教育共同利用拠点

瀬戸臨海実験所長 下村 通誉

■公開実習

瀬戸臨海実験所では、国立大学法人臨海臨湖実験所長会議に所属する施設が開講する公開臨海実習を文部科学省の財政的支援を受けながら 1989 年度から実施しており、2011 年度に文部科学省から教育関係共同利用拠点（教育拠点）に認定されてからは、当該事業として開講している。2012 年度からは概算要求による運営費交付金を獲得し、従来年間 2 科目の開講していたものを 5 科目に拡充し 2015 年度まで行った。2016 年度に教育拠点第 2 期の申請が認められ 5 ヶ年事業として実施した。2017 年度からはさらに 1 科目を増やし合計 6 科目とした。2021 年度に教育拠点第 3 期の申請が認められ 5 ヶ年事業の予定で実施中であり、2023 年度は公開実習 6 科目を実施した。

1. 博物館実習（館園実務）：2023年6月13日～17日。2大学2人延べ10人参加。
2. n i o n a o p o o g a n o i o n a i o o g o a i n n a s : 2023年8月5～11日。5大学5人延べ35人参加。理学部臨海実習第2部と日程・内容を重ねた。
3. 自由課題研究：2023年9月11～18日。2大学2人延べ16人参加。理学部臨海実習第1部と日程・内容を重ねた。
4. 海産無脊椎動物分子系統学実習：2024年2月24～3月2日。7大学8人延べ64人参加。
5. 藻類と海浜植物の系統と進化：2024年3月13～17日。5大学6人延べ30人参加。理学部臨海実習第3部と日程・内容を重ねた。
6. 沿岸域生態系多様性実習：2024年3月23～29日。7大学8人延べ56人参加。全学共通科目「森里海連環学実習 IV：沿岸域生態系に与える陸・川・人の影響」と日程・内容を重ねた。

■他大学による実習の受け入れ

瀬戸臨海実験所では、施設・設備を活用して行った他大学による臨海実習を共同利用実習として受け入れており、本年度は新型コロナウイルスが5類に移行したことから全て対面で行った。受け入れ数は、8大学（5国立校、2公立校、1私立校）、8科目、39日間、延べ686人であった。

■他大学学部生、大学院生による研究利用

瀬戸臨海実験所では、他大学の学部生および大学院生による研究目的での利用を共同利用研究として受け入れている。本年度の受け入れ数は、7大学（6国立校、1私立校）、10課題、延べ107人であった。

■運営実施体制

4 月 14 日に共同利用運営委員会（学内委員 4 人・学外委員 6 人）を Zoom でオンライン開催し、2022 年度実績報告、2023 年度事業計画の検討、2023 年度実施計画書の検討を行った。

各拠点事業（公開臨海実習・共同利用実習・共同利用研究）については、実験所教員 6 人（教授 1 人・准教授 2 人・講師 1 人・助教 2 人）、技術職員 5 人、事務職員 5 人が分担して運営にあたった。

■その他

拠点に対する運営費交付金を使って、拠点事業で用いる物品を充実させ、教育研究環境の向上を図った。また拠点事業による船舶の使用については、使用料を徴収しないようにした。

2023 年 4 月 14 日に水産・臨海・臨湖実験所フィールド実習ワークショップをオンラインで行った。京都大学瀬戸臨海実験所の下村通誉准教授による講演「コロナ禍に行われた瀬戸臨海実験所の実習（事例報告）」を舞鶴水産実験所と共催で行った。

4) 人と自然のつながりを学ぶ森林フィールド教育共同利用拠点（芦生・北海道・上賀茂）

森林情報学分野 准教授 小林和也

■公開森林実習等の実施

本事業は全国の大学生への共同利用実習科目提供を拡充するとともに、他大学による実習科目や学部生・院生の卒業・修士論文のための教育研究利用を広く公募し、施設の共同利用の推進を目的としている。2023年度は、芦生研究林・上賀茂試験地・北海道研究林で単位互換を伴う公開森林実習I・II・IIIを対面で実施し、新型コロナウイルス流行前の水準まで利用者数が回復し、流行中に整備したオンライン教材は対面実習でも活用され、好評を得ている。

■拠点施設が主体となる共同利用実習の提供

公開森林実習Iを芦生研究林および上賀茂試験地で開催し、特別聴講生として鳥取大学1人、琉球大学2人、静岡大学1人、一般聴講生として同志社大学1人、東北大学1人、酪農学園大学1人、福井県立大学1人、近畿大学1人が参加し、延べ27人・日が受講した。原生的な森林である芦生研究林や里山である上賀茂試験地を見学し、森林と人の関わりの変遷について学習した。また、北海道研究林からオンライン講義を行い、北海道の森林と関西の森林を比較した。

公開森林実習IIは2023年度から大学コンソーシアム京都の単位互換制度を活用し、京都外国語大学1人、京都橘大学1人、京都工芸繊維大学1人、京都府立医科大学1人、立命館大学2人が参加したほか、特別聴講生として愛媛大学1人、筑波大学1人、京都府立大学1人、山形大学1人が参加し、延べ53人・日が受講した。北海道の自然環境と人間活動の関係として、地域生態系への影響が少ない林業についての実習を行った。

公開森林実習IIIは大学コンソーシアム京都の提供科目として開講し、上賀茂試験地で行い、京都工芸繊維大学2人、同志社大学1人、特別聴講生として京都府立大学1人、一般聴講生として京都工芸繊維大学1人が参加し、延べ22人・日が受講した。過去の実習の経緯や目的を踏まえつつ、受講生とともに今年度の目的や方針を議論し、森林整備やバイオマス利用を中心に里山の生態系サービスを学ぶ実習を行った。

■他の教育拠点との協働による共同利用実習の提供

森里海連環学実習Iを芦生研究林と舞鶴水産実験所が共同で実施し、本学学生5人、一般聴講生として新潟大学1人、京都工芸繊維大学1人、大阪教育大学1人、北海道大学1人、龍谷大学2人が参加し、延べ11人・日が受講した。芦生研究林を源流域とする由良川に着目し、原流域の森林から河口までの生態系の講義、景観の観察、水質や生物相調査を行った。講義や調査結果について、過去のデータなどと比較しながら各参加者が学んだ内容について発表・議論を行った。

森里海連環学実習IIは北海道研究林と北海道大学厚岸臨海実験所が共同で実施し、本学学生6人、北海道大学9人（うち留学生1人）に加え、一般聴講生として佐賀大学1人、東北大学1人、東京農業大学1人、東京海洋大学1人が参加し、延べ80人・日が受講した。講義資料を用いたオンデマンド講義に加え、安全教育、ガイダンス、森から海までの生態系と人間活動の影響に関する各種講義と森林、河川、沿岸海域での調査を行って、集めたデータをもとにグループディスカッション通して班ごとに実習で学んだ内容の発表を行った。

■他大学の实習科目等、卒業研究・修士研究・博士研究に関する教育へのフィールドの提供と支援

実習利用としては京都教育大学1件、京都精華大学2件、京都府立大学2件、四天王寺大学1件、神戸大学1件、人間環境大学1件、大阪産業大学2件、東邦大学1件、福井県立大学1件、放送大学3件、北海道大学1件、酪農学園大学1件のほか、京都府立林業大学校の実習1件の合計18件を受け入れ、拠点施設の教職員が講義や実習を担当・支援した。

研究利用として神戸大学、龍谷大学、大阪公立大学、同志社大学、愛媛大学、東北大学大学院、和歌山大学、日本大学、立命館大学、岡山理科大学、酪農学園大学、高知大学、九州大学、金沢大学、北海道大学、京都工芸繊維大学、京都府立大学の学部生・院生を受け入れ、拠点3施設の教職員がフィールドの提供並びに研究支援を行った。

■教育プログラムの新規開発・提案・改善

大学院生向けの高度な実習の開発に向けて、芦生研究林において菌類ワークショップを開催した。講師として信州大学、栃木県立博物館、理化学研究所の若手研究者を招聘し、フィールド調査から室内でのサンプル処理まで、菌類を対象とした研究手法の実践的な講義と実習を行った。京都大学3人、三重大学1人、同志社大学3人、神戸大学1人、広島大学1人、龍谷大学1人の計10人、延べ30人・日が参加した。

(6) 研究活動・外部資金の獲得状況

研究プログラム委員会委員長／徳地 直子

2023年度 受託研究

(金額の単位はすべて千円)

委託者	事業名	研究担当者	職種	研究課題名	2023年度 交付額
国立研究開発法人 科学技術振興機構	共創の場形成支援プログラム 本格型(COI-NEXT) ゼロカーボンバイオ産業創出による資源循環共創拠点	徳地 直子	教授	バイオ・高分子材料の生産基盤の開発	7,475
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所	-	徳地 直子	教授	A I 等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業	5,000
国立研究開発法人 水産研究・教育機構	水産資源調査・評価推進委託事業	三田村 啓理	教授	くろまぐろユニットのうちクロマグロ幼魚の成長量の個体差及び季節差の発現機序に関する研究	1,960
国立大学法人 福島大学	令和5年度農林水産分野の先端技術展開事業	三田村 啓理	教授	I C Tインフラを用いた効果的な種苗放流による資源の安定化	20,194
国立大学法人 福島大学	福島国際研究教育機構(F-REI) 令和5年度「原子力災害からの復興に向けた課題の解決に資する施策立案研究」委託事業	三田村 啓理	教授	原子力災害に関するデータや知見の集積・発信(放射性物質の魚類への取込・排出メカニズム)	5,500
受託研究 計5件					40,129

2023年度 受託事業

委託者	委託事業名	研究代表者	職種	2023年度 交付額
京都府	令和5年度京都丹波高原国定公園生態系維持回復事業生態系モニタリング調査等業務	石原 正恵	准教授	2,087
一般財団法人リモート・センシング技術センター	陸域炭素収支算定に関する高精度バイオマスマップ等の整備手法の開発と検証に係る支援作業	石原 正恵	准教授	15,516
受託事業 計2件				17,603

2023年度 学術指導

委託者	学術指導名	研究担当者	職種	2023年度 交付額
いであ株式会社	海洋哺乳類の水中鳴音判別に関する指導	市川 光太郎	准教授	864
学術指導 計1件				864

2023年度 共同研究

委託者	委託研究名	研究担当者	職種	研究担当者	2023年度 交付額
パナソニックホールディングス株式会社	森里海連環学のテーマ探索	徳地 直子	教授		3,900
パナソニックホールディングス株式会社	持続可能性を志向する自然・こころ・社会の連環に関する超学際研究	徳地 直子	教授		2,860
パナソニックホールディングス株式会社	パナソニック先進共同研究部門（研究題目：中長期的視点での社会的課題型研究テーマ、異分野融合型研究テーマ、未踏型研究テーマの探索と検討）	徳地 直子	教授		3,000
パナソニックホールディングス株式会社	森里海連環学のテーマ探索およびフィジビリティスタディ	徳地 直子	教授		3,318
株式会社アクアサウンド	スマート・バイオテレメトリー技術の開発	三田村 啓理	教授		572
国立極地研究所	情報通信超音波テレメトリーシステムを用いたアデリーペンギンの群れ行動解析	三田村 啓理	教授		100
京都大学生態学 研 究 セ ン タ ー 共同研究b	個体識別を行ったニホンウナギの季節変化および成長に伴う食性変化の解明	三田村 啓理	教授		0
京都大学生態学 研 究 セ ン タ ー 共同研究b	砂浜の食物網における餌資源としてのアオウミガメ卵の寄与率の解明	三田村 啓理	教授		0
国立研究開発法 人理化学研究所	自然環境における感情センシング研究	吉川 左紀子	特任教授		910
鳥取大学乾燥地 研究センター共 同研究	半乾燥地における主要緑化樹種の根圏における微生物多様性と樹木の生理特性	舘野 隆之輔	教授		1,216
共同研究 計 10件					15,876

2023年度 機関経理補助金

委託者	委託研究名	研究担当者	職種	2023年度 交付額
京都府	学生とともにのぼす京都プロジェクト共同事業費補助金「ビクターセンター×京大×未来知プロジェクト」	石原 正恵	准教授	750
京都府	学生とともにのぼす京都プロジェクト共同事業費補助金「IT・SNSを活用した地域資源ブランド「京・美山 芦生原生林」の開発と農産品生産組合商品の販売数量拡大プロジェクト」	石原 正恵	准教授	750
機関経理補助金 計 2件				1,500

2023年度 寄附金

寄付者（団体）	プロジェクト名	担当教員	職種	2023年度 交付額
公益財団法人 イオン環境財団	新しい里山・里海 共創プロジェクト研究	舘野 隆之輔・徳地 直子・益田 玲爾	教授	30,000
一般社団法人 自然環境研究センター	森林生態系の長期動態に関する研究助成金	舘野 隆之輔	教授	1,800
吉川 左紀子	森林生態系の長期動態に関する研究助成金	徳地 直子	教授	1,000
一般社団法人 自然環境研究センター	森林生態系の長期動態に関する研究助成金	徳地 直子	教授	1,860
パナソニックホールディングス株式会社	再生可能資源・生物多様性に関する超学際研究を想定した課題把握のため	徳地 直子	教授	2,000
株式会社ツカサペトコ	海洋生物（植物）と環境に関する研究のため	益田 玲爾	教授	1,500

認定特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン	環境DNAを用いた魚類調査プロジェクト	益田 玲爾	教授	145
公益財団法人 日本生命財団	塩性湿地の創出を基軸とした災害に強い森里海まちづくり	益田 玲爾	教授	500
公益財団法人 河川財団	都市河川におけるニホンウナギの護岸利用の評価	三田村 啓理	教授	1,000
サントリーホールディングス株式会社	都市近郊の里山林における「環境林施業と持続可能なバイオマス利用」に関する研究の助成のため	長谷川 尚史	准教授	1,000
弁天前置水産株式会社	和歌山県串本町檜野における魚類研究	甲斐 嘉晃	准教授	100
一般社団法人 芦生もりびと協会	芦生研究林の環境保全を目的とする助成	石原 正恵	准教授	229
一般社団法人 自然環境研究センター	森林生態系の長期動態に関する研究助成金	石原 正恵	准教授	1,610
一般社団法人 芦生もりびと協会	芦生研究林の環境保全を目的とする助成	石原 正恵	准教授	180
宮津湾とり貝育成組合	宮津湾の環境調査助成	鈴木 啓太	助教	120
公益財団法人 京都大学教育研究振興財団	国際研究集会発表助成	後藤 龍太郎	助教	350
公益財団法人 日本生命財団	2023年度環境問題研究助成 水中ドローンを用いた造巢性ベントス群集モニタリング技術の確立	邊見 由美	助教	850
公益財団法人 京都大学教育研究振興財団	国際研究集会発表助成	山守 瑠奈	助教	350
公益財団法人 京都大学教育研究振興財団	同属に体外受精・体内受精種を有するカジカ類における精子タンパク質の網羅的解析	伊藤 岳	特任助教	1,000
公益財団法人 阪本奨学会	無人航空機の実験・研究利用に対応する技術的サポート体制の整備	藤井 弘明	技術専門員	300
寄附金 計20件				45,894

2023年度 京都大学芦生研究林基金

期間	件数	2023年度 入金額
第1四半期	14	106
第2四半期	14	107
第3四半期	14	166
第4四半期	16	1,391
京都大学芦生研究林基金 計58件		1,770

2023年度 科学研究費補助金（代表者）

（交付機関はすべて独立行政法人日本学術振興会）

研究種目	研究者	職種	研究期間 (年度)	課題番号	研究課題名	交付額合計 ※予定含む	2023年度 交付額
基盤研究 (B)	舘野 隆之輔	教授	2021-2024	21H02235	斜面地形に沿った立地条件の違いに土壤微生物群集の機能や多様性が果たす役割の解明	17,160	4,160
基盤研究 (B)	徳地 直子	教授	2022-2025	22H02385	市民協力による広域多点採水と高精度分析技術を用いた河川リン酸濃度決定機構の解明	17,290	4,420
基盤研究 (B)	小林 和也	准教授	2021-2024	21H02205	シロアリにおける性決定遺伝子とその多様化プロセスの解明	17,290	3,770
基盤研究 (B)	中野 智之	講師	2022-2024	22H02682	小笠原諸島西之島の生物相の起源	13,130	4,030
基盤研究 (C)	朝倉 彰	教授	2023-2025	23K05888	日本列島と周辺海域の東亜固有種の成立プロセス-潮間帯性ヤドカリを例として	4,680	1,560
基盤研究 (C)	中西 麻美	助教	2017-2023	17K07840	酷暑がヒノキの花粉生産と幹成長に及ぼす影響	4,810	-
基盤研究 (C)	小林 志保	助教	2022-2024	22K12460	間欠的に貧酸素化する浅海域に生息する底生貝類の斃死リスクに温暖化が及ぼす影響評価	4,160	910
基盤研究 (C)	鈴木 啓太	助教	2020-2023	20K06206	気候変動にともなう水循環の変化が日本海側沿岸域の低次生物生産に与える影響	4,290	650

基盤研究(C)	後藤 龍太郎	助教	2023-2025	23K05906	宿主内種分化による多様化プロセスの解明：海産共生貝類における検証	4,680	1,820
基盤研究(C)	駒井 幸雄	研究員	2023-2025	23K05316	西日本全域の溪流河川水中窒素濃度の実態とランダムフォレスト法による要因解析	4,680	2,210
学術変革領域研究(A)	石原 正恵	准教授	2022-2023	22H05722	樹木における匂い受容を介した環境ストレスと病虫害への応答トリプルトークの解明	4,940	2,470
学術変革領域研究(A)	伊勢 武史	准教授	2022-2023	22H05724	AIとUAVを活用したリモートセンシングの強化	9,360	5,490
学術変革領域研究(B)	高橋 宏司	助教	2023-2025	23H03867	知性の源流を探る「認知進化生態学」研究の総括と推進支援	35,490	22,100
学術変革領域研究(B)	高橋 宏司	助教	2023-2025	23H03871	魚類の社会的知性の基盤と神経基盤の解明：生態との関連性から探る魚類の高次認知	25,090	4,550
国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(B))	舘野 隆之輔	教授	2020-2024	20KK0134	半乾燥生態系での植物-根圏微生物相互作用系を活用した緑化技術の開発	18,850	4,550
若手研究	山守 瑠奈	助教	2023-2027	23K14263	岩盤穿孔者の持つ生態系エンジニア機能の解明	4,680	780
挑戦的研究(萌芽)	伊勢 武史	准教授	2018-2023	18K19876	人はどのように、自然に感動するのか：フィールドで計測する文化的生態系サービス	6,500	-
挑戦的研究(萌芽)	高橋 宏司	助教	2022-2024	22K19207	魚類の心理特性に注目した新たな増養殖技術基盤の開発	6,370	2,210
挑戦的研究(萌芽)	伊勢 武史	准教授	2023-2025	23K17569	表情認識と人物トラッキングによる「滞在と感動」の推定と地域特性に沿った観光振興	6,370	2,210
研究成果公開促進費(データベース)	石原 正恵	准教授	2021-2023	21HP7003	森羅(森林プロット統合アーカイブ)	5,900	0
科学研究費補助金 計20件						67,890	

2023年度 科学研究費補助金(分担者)

(交付機関はすべて独立行政法人日本学術振興会)

研究種目	研究者	職種	代表者名 (所属)	研究期間 (年度)	課題番号	研究課題名	2023年度 交付額
基盤研究(A)	舘野 隆之輔	教授	木庭 啓介 (京都大学)	2022-2025	22H00383	動的マルチオミクス解析による土壌有機物分解機構の解明	390
基盤研究(B)	舘野 隆之輔	教授	鶴川 信 (鹿児島大学)	2020-2023	20H03034	多種樹木の窒素獲得戦略の解明とそれに基づく窒素循環プロセスモデルの構築	195
基盤研究(B)	舘野 隆之輔	教授	中村 誠宏 (北海道大学)	2021-2023	21H02226	森林土壌微生物群集の機能と環境応答の広域スケール評価と空間スケール依存性の解明	390
基盤研究(B)	舘野 隆之輔	教授	福澤 加里部 (北海道大学)	2022-2024	22H02376	樹木・林床植生系の菌根タイプの多様性を考慮した森林の土壌窒素動態メカニズムの解明	780
基盤研究(B)	舘野 隆之輔	教授	智和 正明 (九州大学)	2022-2025	22H02386	窒素沈着量の減少によって森林の生態系機能は回復するか	520
基盤研究(B)	徳地 直子	教授	酒井 佳美(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)	2019-2023	19H03012	樹木根の分解と炭素貯留機能の持続性—土壌深度の影響解明と広域評価—	299
基盤研究(B)	徳地 直子	教授	舘野 隆之輔 (京都大学)	2021-2024	21H02235	斜面地形に沿った立地条件の違いに土壌微生物群集の機能や多様性が果たす役割の解明	260
基盤研究(C)	徳地 直子	教授	駒井 幸雄 (京都大学)	2023-2025	23K05316	西日本全域の溪流河川水中窒素濃度の実態とランダムフォレスト法による要因解析	520
基盤研究(S)	益田 玲爾	教授	近藤 倫生 (東北大学)	2019-2023	19H05641	沿岸生態系における構造転換：高度観測と非線形力学系理論に基づく実証アプローチ	7,540
基盤研究(B)	三田村 啓理	教授	和田 敏裕 (福島大学)	2020-2023	20H03056	福島の漁業再興にむけた魚類の調査・放流・飼育試験による放射能汚染機序の統合的解明	234
基盤研究(B)	長谷川 尚史	准教授	鈴木 保志 (高知大学)	2021-2024	21H03672	持続可能な次世代分散定住社会のために今必要な森林地域の道路網整備の隘路はどこか？	433
基盤研究(B)	石原 正恵	准教授	山崎 理正 (京都大学)	2021-2023	21H02234	カシノナガキクイムシの寄主選択におけるエラー回避機構の解明と防除への応用	0

基盤研究(B)	石原 正恵	准教授	門脇 浩明 (京都大学)	2021-2025	21H02233	シカ食害が招く森林衰退:植物土壌フィードバックに着目して	260
基盤研究(A)	下村 通誉	准教授	小島 茂明 (東京大学)	2019-2023	19H00999	北西太平洋の海溝域に生息する深海底生動物の多様性と進化機構の網羅的解明	130
基盤研究(B)	下村 通誉	准教授	藤田 喜久(沖縄県立芸術大学)	2020-2024	20H03313	琉球列島の洞窟水圏環境における生物多様性の解明	260
基盤研究(C)	中野 智之	准教授	朝倉 彰 (京都大学)	2023-2025	23K05888	日本列島と周辺海域の東亜固有種の成立プロセス-潮間帯性ヤドカリを例として	910
国際共同研究 加速基金(国際 共同研究強化(B))	松岡 俊将	講師	深澤 遊 (東北大学)	2020-2023	20KK0139	環北極北方林における枯死木分解に関わる菌類群集と倒木更新の生物地理	1,300
基盤研究(B)	松岡 俊将	講師	門脇 浩明 (京都大学)	2021-2025	21H02233	シカ食害が招く森林衰退:植物土壌フィードバックに着目して	325
学術変革領域 研究(A)	松岡 俊将	講師	塩尻 かおり (龍谷大学)	2023-2027	23H04970	生物間相互作用によるBVOCの改変	5,720
学術変革領域 研究(A)	小林 志保	助教	杉本 亮 (福井県立大学)	2022-2026	22H05202	陸海境界領域を含む沿岸域における陸起源物質の動態解明と縁辺海への輸送量の定量	4,810
基盤研究(B)	鈴木 啓太	助教	杉本 亮 (福井県立大学)	2021-2024	21H02271	沿岸浅海域における地下水湧出と低次生産過程の統合的研究	390
基盤研究(B)	後藤 龍太郎	助教	岡本 朋子 (岐阜大学)	2021-2024	21H02562	植物と送粉者の種特異性における化合物のブレンドとキラリティーの役割	390
基盤研究(B)	邊見 由美	助教	安房田 智司 (大阪公立大学)	2022-2024	22H02703	海産動物の共生・寄生関係の実態と進化・維持機構を「認知進化生態学」で紐解く	520
挑戦的研究 (萌芽)	邊見 由美	助教	杉本 亮 (福井県立大学)	2023-2024	23K18053	生物巣穴は浅海域の物質循環に重要か:生態系エンジニアリング効果の定量技術開発	3,796
国際共同研究 加速基金(国際 共同研究強化(B))	伊藤 岳	特任助教	安房田 智司 (大阪公立大学)	2020-2024	20KK0168	アフリカ古代湖産魚類の婚姻形態と子育ての多様化機構を生態・認知・脳から探る	260
基盤研究(B)	野田 琢嗣	研究員	和田 敏裕 (福島大学)	2020-2023	20H03056	福島の漁業再興にむけた魚類の調査・放流・飼育試験による放射能汚染機序の統合的解明	234
科学研究費補助金 計26件							30,866

2023年度 科学研究費補助金（特別研究員奨励費）

（交付機関はすべて独立行政法人日本学術振興会）

研究者	職種	指導教員名	研究期間 (年度)	課題番号	研究課題名	交付額合計 ※予定含む	2023年度 交付額
杉山 高大	特別研究員 (DC2)	朝倉 彰	2022-2023	22J12554	体表寄生者における宿主の体色と一致した保護色の獲得メカニズムの解明	1,700	400
藤田 大樹	特別研究員 (PD)	下村 通誉	2023-2025	23KJ1170	魚類寄生虫ウオノエ科における幼期形態と寄生戦略の解明	4,680	1,560
科学研究費補助金（特別研究員奨励費） 計2件						1,960	

2023年度 研究助成金(学生取得分)

助成名	課題名	学生氏名	所属・学年	担当指導教員	2023年度 交付額
公益財団法人 京都大学 教育研究振興財団	国際研究会発表助成	杉山 高大	博士後期課程3年	朝倉 彰	350
笹川科学研究助成	ブランド水産物の成長率と生残率を最大化する養殖適地の迅速推定手法の開発	中川 こずえ	修士課程2年	三田村 啓理	1,300
京都大学野生動物研究 センター 共同利用・共同研究	海棲哺乳類のテロメア長および変化量とその要因に関する研究	中陳 遥香	修士課程2年	三田村 啓理	100
京都大学野生動物研究 センター 共同利用・共同研究	船舶の航行頻度が小型鯨類スナメリの長期的来遊に与える影響評価	小川 真由	博士後期課程3年	三田村 啓理	120

京都大学野生動物研究センター 共同利用・共同研究	ドローン映像における小型鯨類スナメリの撮影可能深度の検証	池田 岳弘	修士課程1年	三田村 啓理	80
卓越大学院プログラム履修者研究活動経費	砂浜の食物網における餌資源としてのウミガメ卵の寄与率の解明	田嶋 宏隆	修士課程2年	三田村 啓理	267
卓越大学院プログラム履修者研究活動経費	網羅的・継続的モニタリングを基にしたニホンウナギの河川利用形態および人間活動による環境変化が本種に与える影響を提示するプラットフォームの構築	小木曾 奏斗	修士課程1年	三田村 啓理	285
研究助成金(学生取得分) 計7件					2,502

2023年度 次世代研究者挑戦的研究プログラム支援事業(京都大学大学院教育支援機構プログラム)

氏名	学年	指導教員名	研究期間	研究課題名	2023年度 交付額
小川 真由	博士後期課程 回生	三田村 啓理	2021.10- 2024.3	船舶から発せられる超音波騒音が小型鯨類の来遊と短期的行動に与える影響についての研究	400
橋添 なな実	博士後期課程2 回生	三田村 啓理	2022.4- 2025.3	クロマグロ当歳魚の回遊経路解明のための高精度位置推定技術の確立	400
田嶋 宏隆	修士課程2回生	三田村 啓理	2023	国際ウミガメ会議への参加と調査地選定のための予備調査(タイ)	371
大上 迪士	博士後期課程1 回生	舘野 隆之輔	2023.4- 2026.3	河川源流域の森林渓流水中の微生物群集構造の時空間的変動とその機構の解明	2,204
n a o	博士後期課程1 回生	益田 玲爾	2023.10- 2026.9	人工魚礁の有効性についての目視調査および環境を用いた評価	200
次世代研究者挑戦的研究プログラム支援事業 計5件					3,575

(7) 社会連携活動

1) フィールド研主催事業

- ① 京都大学フィールド研創設20周年記念式典およびシンポジウム
日時：2023年11月19日
会場：百周年時計台記念館とオンライン
- ② 高校生森里海研究ポスター発表会
日時：2023年11月19日
会場：百周年時計台記念館
- ③ 新しい里山里海の勉強会
日時：2023年7月14日, 2024年1月23日, 3月21日(第3, 5, 6回)
場所：オンライン
- ④ 里山おーぷんらぼ@上賀茂
日時：2023年4月15日～2024年3月10日(第1～11回)
会場：上賀茂試験地
主催：フィールド科学教育研究センター、公益財団法人イオン環境財団
- ⑤ 里山里海つながるフェス@イオンモール京都桂川
日時：2023年10月29日
会場：イオンモール京都桂川
主催：フィールド科学教育研究センター、公益財団法人イオン環境財団
(第4回 新しい里山里海の勉強会 併催)

2) フィールド研共催・後援事業

- ① 第19回京都大学附置研究所・センターシンポジウム 京都大学松本講演会 京都からの挑戦 ―地球社会の調和ある共存に向けて― 「京大発の研究のながれ、そして未来へ」
日時：2024年3月2日
会場：まつもと市民芸術館およびオンライン
主催：京都大学、京都大学研究連携基盤

3) 各施設等主催共催事業

- ① 芦生研究林
京都府立植物園において、公開講演会「シカの食害による芦生の変化と
きのこ相：新たなモニタリングと協働」を開催 8月27日
芦生研究林一般公開<京大ウィークス参加イベント> 10月21日
芦生菌類ワークショップ 10月27～29日
京都丹波高原国定公園ゼミ「第4講 “どうする？ 私たちと森とのつながり！”」 12月17日
「美山×研究つながる集会」第4回「地域を元気にするタネをみつける：
人口減少社会における担い手不足と向き合う」 2024年3月3日
- ② 北海道研究林
初夏の花観察会プチフラワーソン2023（白糠区） 6月18日
自然観察会「秋の森の生態系」（標茶区） <京大ウィークス参加イベント> 10月7日
- ③ 和歌山研究林
和歌山県立有田中央高等学校清水分校 ウッズサイエンス 4月18日～2024年1月16日
和歌山県立有田中央高等学校清水分校 森林ウォーク 5月26日、10月26日
有田川町立八幡小学校との共催で、森林体験学習 5月22日、11月1日
和歌山県紀の国森づくり基金活用事業（緑育推進事業） 10月12日、11月17日、24日
(株式会社マルカ林業との共催)

	ミニ公開講座<京大ウィークス参加イベント>	10月14日
④	上賀茂試験地	
	「里山フェスin上賀茂試験地：洛再Linksのみんなと里山で遊ぼう!!」	10月15日
	秋の自然観察会 <京大ウィークス参加イベント>	11月18日
⑤	徳山試験地	
	周南市連携事業「鼓南中学校環境学習」	5月26日
	京都大学・周南市連携講座	5月27日
	周南市・フィールド研連携公開講座 <京大ウィークス参加イベント>	10月14日
⑥	北白川試験地	
	夏の自然観察会「大学キャンパスで虫みつけ」<京大ウィークス参加イベント>	8月5日
⑦	舞鶴水産実験所	
	京都大学舞鶴水産実験所で木の枝を海に沈めて集まる魚を観察しよう！	4月22日、7月22日
⑧	瀬戸臨海実験所	
	第76～86回瀬戸海洋生物学セミナー	4月18日～2024年3月19日
	きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の磯採集体験」	4月22日、5月20日、6月17日
	島島ビーチクリーン活動	6月17日
	「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「大水槽エサやり体験」	7月21日～8月31日
	きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の飼育体験」	10月14日、12月9日、2024年3月2日
	特別標本展示「新種の貝とヨコエビ」	10月18日～12月22日
	公開ラボ・施設見学「白浜の海の自然と発見」<京大ウィークス参加イベント>	10月21日
	特別企画展「絶滅のおそれのある海の生き物展：和歌山県レッドデータブックでひもとく」	12月23日～2024年4月7日
	白浜の豊かな海と生き物について学ぼう！	2024年2月17日
	「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」	2024年3月23～31日
	「大水槽エサやり体験」	2024年3月25～27日

(8) 広報活動

1) フィールド研の刊行物

☐ フィールド研年報

『京都大学フィールド科学教育研究センター 年報 第20号』、京都大学フィールド科学教育研究センター、78p.、2022.

☐ FSERC News

<No. 60 2023年6月>

— 目次 —

社会連携ノート	第8回森里海シンポジウムを開催	(徳地 直子)
研究ノート	全国源流域河川水質調査 「山の健康診断」のご紹介	(徳地 直子)
技術ノート	芦生研究林のドローン活用	(芦生研究林 北川 陽一郎)
新人紹介：	坂野上 なお (森林情報学分野 講師)	
	松岡 俊将 (森林情報学分野 講師)	
	伊藤 岳 (舞鶴水産実験所 特任助教)	
	Sarina Bao (瀬戸臨海実験所 特任助教)	
	張 曼青 (森林育成学分野 特定助教)	

受賞の記録：

研究者の異動：

活動の記録： 2023年1月～4月

新刊紹介：

フィールド散歩： 冬から春にかけての各施設及びその周辺の写真 12枚

<No. 61 2023年10月>

目次

社会連携ノート 新しい里山・里海 共創プロジェクト：楽しみながら地域の方々と森里海のつながりを学ぶ
(田中 拓弥)

教育ノート コロナ禍に行われた瀬戸臨海実験所の実習（事例報告） (下村 通誉)

新人紹介 中野 智之（基礎海洋生物学分野 准教授）

技術ノート 舞鶴水産実験所の船舶関連業務 (舞鶴水産実験所 小倉 良仁)

受賞の記録：

研究者の異動：

活動の記録： 2023年5月～8月

予定：

フィールド散歩： 夏から秋にかけての各施設及びその周辺の写真 6枚

<No. 62 2024年2月>

目次

社会連携ノート： 京都大学フィールド科学教育研究センターの創設20周年記念式典と (益田 玲爾)
シンポジウムを開催

「里山里海つながるフェス@イオンモール京都桂川」を開催 (田中 拓弥)

新人紹介 河村 真理子（基礎海洋生物学分野 特定講師）

技術ノート： 和歌山研究林における地域の学校への取り組み (和歌山研究林 上西 久哉)

受賞の記録：

活動の記録： 2023年9月～12月

予定：

フィールド散歩： 秋から冬にかけての各施設及びその周辺の写真6枚

□概要パンフレット

『京都大学フィールド科学教育研究センター』（第9版），京都大学フィールド科学教育研究センター 発行，12p.，2023. 9

□20周年記念冊子

『京都大学フィールド科学教育研究センター 20年の歩みとこれから』，京都大学フィールド科学教育研究センター 発行，16p.，2023. 11

□森里海ラボ

『第8回森里海シンポジウム報告書 みんなで創る里山・里海の未来 VISUAL REPORT』，京都大学フィールド科学教育研究センター 発行，24p.，2023. 10

□新しい里山・里海 共創プロジェクト

『GOOD PRACTICE 2023 里山編』，京都大学フィールド科学教育研究センター 発行，19p.，2024. 3. 31発行

『里山おーぶんらぼフィールドガイド：暮らしとかかわる樹木マップ』，京都大学フィールド科学教育研究センター 発行，A3両面見開き，2024. 3発行

2) 施設等の刊行物

□森林研究（森林生態系部門紀要）

『森林研究』第82号，京都大学フィールド科学教育研究センター森林生態系部門発行
(オンライン公開先行 p . an . n 24 2 1 2)

〈論文〉芦生研究林のきのこ相：過去の文献調査と2019-2021の現地調査から
(赤石大輔)

〈資料〉芦生研究林の大型土壌動物相
(渡辺 弘之)

〈資料〉京都府南部の市街地内(京都大学・宇治キャンパス)で確認されたフクロウ *Strix uralensis* の記録
(久野 真純)

□瀬戸臨海実験所紀要
(202 年度は発行なし)

□研究林・試験地情報

『研究林・試験地情報 2022 (令和4) 年度』, 京都大学フィールド科学教育研究センター森林・里域フィールド管理
部門, 95p., 2024-02-21

— 目次 —

各施設年次報告

芦生研究林年次報告	(石原 正恵)
北海道研究林年次報告	(小林 和也)
和歌山研究林年次報告	(徳地 直子)
上賀茂試験地年次報告	(舘野 隆之輔)
徳山試験地年次報告	(徳地 直子)
北白川試験地年次報告	(徳地 直子)

個別報告

VR動画等オンライン教材制作に関する技術検討会	(柴田 泰征)
VR同時視聴システムを用いた広報・社会教育	(永井 貴大)

研修報告

研究資料

業務資料

□瀬戸臨海実験所年報
(202 年度は発行なし)

3. 各施設等の活動

(1) 各施設等の活動概要

1) 芦生研究林

芦生研究林長 石原 正恵

■教育研究

新型コロナウイルス感染症が5月8日に5類へ移行されたが、感染対策をできる限り心がけ、合計35件を実習などの教育利用で受け入れた。公開森林実習Ⅰ、森里海連環学実習Ⅰ、本学実習12件、他大学実習8件、ゼミ・課外実習など13件。冬の動物たちの動画「芦生冬の定点観測2021～2022」を公開し、既存のデジタル教育コンテンツとともに実習等で活用した。構内の希少植物種のミニ植物園においては2018年から開始した芦生希少植物域外保全プロジェクトを継続し、実習等で見学・解説を行った。12～3月の積雪が少なく、森里海連環学実習Ⅲでは雪の観察ができなかった。また、遠方もしくは日程の関係等で試料採取に来研できない利用者などに代わり、職員が試料を採取するなどの支援も行った。利用者数は、教育・研究利用者3,857人（教育1,516人、研究2,341人）、その他・一般2,913人、合計6,770人であった。コロナ以前と同水準近くまで利用数が回復した。

生態系プロジェクト、モニタリングサイト1000、水質・気象モニタリング、河川水の環境DNA（ANEMONE）などのプロジェクトを実施・協力すると同時に、世界規模の生物多様性調査プロジェクト「LIFEPLAN」を継続して行った。京都丹波高原国定公園生態系維持回復事業を京都府から受託し、防鹿柵の維持および柵内外での植生調査を芦生生物相保全プロジェクト（ABCプロジェクト）とともに行った。ウツロ谷の防鹿柵のネットの張替えを全周完了した。長治谷・野田畑湿原の防鹿柵の維持管理を行った。芦生研究林基金をもとに3人の学生に公募研究の支援を行った。また教育関係共同利用拠点事業の一環として、10月27～29日に菌類ワークショップを実施し、2024年3月15日に芦生Open Science Meeting 2023も実施した。

また芦生研究林を基準標本産地とする種・変種として、新たにヤマボウシニセキンホソガ（新種・北大と京都府大の共同研究）、ウスギゼンテイカ（ゼンテイカの新品種・京大他との共同研究）が発表された。芦生や美山町での超学際研究をまとめた『「大学の森」が見た森と里の再生学：京都芦生・美山での挑戦』（石原 正恵・赤石 大輔・徳地 直子 編）が出版された。木造人工衛星に用いるため、ホオノキを提供した。

■社会連携、広報

8月27日に京都府立植物園にて講演会「シカの食害による芦生の変化とこのこ相～新たなモニタリングと協働」を開催した（参加者58人）。京大ウィークス参加事業として一般公開を10月21日に開催した。応募者116人のうち、抽選で選ばれた31人が参加した。12月17日に京都丹波高原国定公園ビジターセンターとともに、講演会「第4回 京都丹波高原国定公園ゼミ どうする？ 私たちと森とのつながり！」を開催した（20人）。また、2024年3月3日に「第4回 美山×研究つながる集会」を京都丹波高原国定公園ビジターセンターにてハイブリット開催した（57人）。小中学校の実習等を芦生もりびと協会と協力し受け入れ、他に高校生の実習2件を受け入れた。芦生研究林基金へは177万円の寄付があった。2022年6月に芦生研究林内にて撮影が行われた映画「唄う6人の女」が10月に公開され、南丹市における特別視聴会等も開催された。

■施設の特記事項

前年に引き続きKDDI株式会社との連携を進めた。コシノヤバネゴケの生育を保全すべく、7月29日に社員有志ボランティアにより、防鹿柵を新設した（36人参加、全周150m）。さらに、LPWA（省電力・長距離のデータ通信を可能とする無線通信技術）を用いたIoT鳥獣対策通知システムによるシカの有害駆除と林内通信の実証実験を進めた。IoTシカ捕獲檻により6月と10月に計3頭を捕獲し、上述の生態系維持回復事業等での5頭とあわせて合計8頭を捕獲した。

Diversity & Inclusionを目指し、全学経費およびセンター長裁量経費にて2022年度冬に整備したシャワーブース3室とユニットバス2室が活用され、利用者からは好評であった。また、事業用物品倉庫のシャッターおよび、研究に使用する冷凍庫、実習用冷蔵庫、消防ポンプを部局経費で更新・修繕した。芦生研究林基金を用いて資料館の改修を行い、2024年6月末にリニューアルオープン予定である。なお、2022年1月に発生した土砂崩れによる、府道38号線の通行止めについては2023年春より改修工事が行われ、2024年1月末に復旧した。2023年度の実習においては、道幅が狭い仮設道のままであり、実習のマイクロバス・ダンプ等の大型車両の通行に苦労した。

2) 北海道研究林

北海道研究林長 小林 和也

■教育研究

教育利用は、学内の実習として、全学共通科目の「森里海連環学実習 II」、農学部「研究林実習 III」、「研究林実習 IV」と少人数の「ILAS セミナー：北海道の昆虫相」「ILAS セミナー：北海道のきのこの多様性と生き方」が行われ、延べ 502 人の利用があった。全学共通科目の「森里海連環学実習 II」は北海道大学厚岸臨海実験所と共同で行い、9 月 10～16 日の日程で、本学 6 人と北海道大学の 9 人に加え、佐賀大学 1 人、東北大学 1 人、東京農業大学 1 人、東京海洋大学 1 人が一般聴講生として参加し、別寒辺牛川の最上流部に近い標茶区から、牧草地として使われている中流、そして下流の厚岸湖にいたる流域の植生、土壌、水質、水生生物調査を通じて、森-里-海の繋がりについて学んだ。「研究林実習 III」は、9 月 1～8 日の日程で 19 人が参加し、北方の森林・湿原植生、森林の垂直分布や火山性土壌、道東の林業・林産業の現況を学ぶとともに間伐施業体験などを実施した。「研究林実習 IV」は、2 月 25 日～3 月 2 日の 7 日間の日程で 15 人が参加し、季節凍土が発達する道東において、冬の森林、積雪・凍土の調査法を修得し、環境資源としての森林の役割や持続的な管理について学んだ。「ILAS セミナー：北海道のきのこの多様性と生き方」は、9 月 26～30 日の日程で 6 人が参加し、菌類多様性の調査・研究手法および森林生態系における菌類の機能について学んだ。また 8 月 6～10 日に開催された「ILAS セミナー：北海道の昆虫相」には、7 人が参加し、北海道の森林生態系における昆虫相について調査・研究手法を学び、データ解析の基礎を習得した。「ILAS セミナー：北海道の昆虫相」と同時開講した他大学生向けの「公開森林実習 II」には、コンソーシアム京都から京都外国語大学 1 人、京都橘大学 1 人、京都工芸繊維大学 1 人、京都府立医科大学 1 人、立命館大学 2 人（うち留学生 1 人）、特別聴講生として愛媛大学 1 人、筑波大学 1 人、京都府立大学 1 人、山形大学 1 人が参加した。その他、学外の実習として、酪農学園大学の「水圏・地圏総合実習」を受け入れた。

研究活動は前年に引き続き野生動物モニタリングとして自動撮影カメラを用いたカメラトラップ調査、エゾシカのライトセンサス、エゾシカ目撃調査を行った。また、カラマツ樹冠下地掻きを行った箇所の植生調査、研究林全域を対象としたインベントリ調査、生態系プロジェクトとして白糠区の天然林の毎木調査、環境系プロジェクトとして雨水と渓流水の水質測定と天然林のリターフォールの調査を行った。

研究利用は 33 件、延べ 1,669 人の利用があった。本学 20 件延べ 1,548 人、他大学 9 件延べ 87 人、他機関 2 件延べ 8 人、一般 2 件延べ 26 人で、研究内容は森林の植生と土壌の関わりに関する研究、道東特有の気象条件と大気窒素沈着に関する研究、森と川の繋がりに関する研究、森林内の植物・動物・菌類に関する研究など多岐にわたった。

■社会連携

社会教育として、例年利用のあった小学校の遠足や木工教室は実施されず、2022年度に新規利用のあった標茶幼稚園の遠足は継続して実施された。例年、冬に行われていた標茶町教育委員会と共催の「しべちゃアドベンチャースクール」は10月21日に実施し、標茶区構内および林内でクイズやゲームを行いながら秋の自然を観察した。また標茶高校で行われた進路座談会に技術職員を派遣し、高校生に大学における技術職員の業務を紹介した。京大ウィークスは募集定員をコロナ前と同等に戻し、10月7日に標茶区で自然観察会を開催し、参加者は18人であった。また6月18日に白糠区において初夏の花観察会として、昨年参加した北海道全域の植物調査イベント「北海道フラワーソン2022」と同様の調査を行い、9人が参加した。社会教育全体で4件、延べ147人の利用があった。

■施設の特記事項

造林事業として、直営により 0.69ha のカラマツ造林地を皆伐し、1.29ha の伐採跡地にグイマツ F1 を植栽した。また、4.28ha の造林地の間伐、植栽地の保育作業として下刈、獣害対策として電気柵の管理、殺鼠剤の散布を行った。8 月 7 日標茶区構内に落雷があり、管理棟事務室の電子機器、気象観測露場の観測装置、車庫電動スライダが故障し、部局経費および文部科学省災害復旧費により修理を行った。

その他、和歌山研究林から油圧ショベル日立 ZX135 およびグラップルを移管し、公用車の三菱トライトンをトヨタハイラックスに更新した。

3) 和歌山研究林

和歌山研究林長 徳地 直子

■教育研究

教育利用としては6件の申請を受け、延べ210人の利用があった。有田中央高校清水分校のウッズサイエンス（3年生向け）、八幡小学校の森林体験学習（春、秋）、和歌山県農林大学校林業研修部の講義が行われた。ILAS セミナーは宿泊を伴うプログラムでの実施となった。

研究利用としては11件の申請を受け、延べ141人の利用があり、その内外国人の研究利用者は学生1人であった。学内からは農学研究科、理学研究科、生態学研究センターの利用があったほか、学外からは宮崎大学によるサケ科魚類の地理的遺伝系統に関する研究、同志社大学による菌類の多様性に関する研究、その他には菌類および粘菌類やカイガラムシを対象とした研究が行われた。

■社会連携

2021年3月に締結した「林業振興及び人材育成に向けた包括連携協定」に基づき、通年の開催となった有田中央高校の森林ウォーク事業は、春と秋の2回開催した。

マルカ林業株式会社との共催で「緑育推進事業」（和歌山県紀の国森づくり基金活用事業）をマルカ林業社有林で3回実施し、和歌山市内の小学校から5年生計109人が参加した。

10月に京大ウィークス2023参加イベントとして開催したミニ公開講座は、17人の応募があり、当日は12人が参加した。

また、1月には有田川町教育委員会からの依頼による新たな取り組みとして、町内の八幡中学校で「京大ゼミ」というイベントが実施され、教員と京大生が中学校を訪問し、勉強方法や今後の進路について生徒からの質問に答える交流の場が設けられた。

■施設の特記事項

6月に発生した台風2号による大雨の影響で、林内の林道10か所で土砂崩れや路面洗堀、事務所の電気および電話回線の断線などの被害を受けた。電気等が復旧するまでの間は、清水分室へ事務所機能を移転し、林道の復旧工事は重機をリースするなどして、職員による直営事業として実施した。

油圧ショベルや2トンダンプの所属換え、資材倉庫の撤去、下がり滝からの取水に代わる新たな取水設備を事務所構内に設置するなど、2025年1月の地上権返還に向けた事業を進めた。

また、劣化が進んでいた教育研究棟（j.Pod）の階段を取り換える工事を行った。

4) 上賀茂試験地

上賀茂試験地長 舘野 隆之輔

■教育研究

2023 年度は 5 月から新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に位置づけられ、活動制限がなくなったことから利用申請数は 110 件、教育、研究、見学の利用総数は 2,637 人で前年度の申請数、利用総数ともに増加した。

学生実習など教育関係は 39 件の申請があり、利用者数は延べ 1,436 人でこちらも増加した。今年度も公開森林実習 III を開催し、コンソーシアム京都の科目としても実習生を受入れ単位認定を行った。この実習では、京都工芸繊維大学（3 人）、京都府立大学（1 人）、同志社大学（1 人）を受け入れた。

他大学の実習等では京都教育大学、京都府立大学、京都精華大学、放送大学から延べ 459 人の利用があった。研究利用では、学内外から 58 件延べ 841 人の利用があり、研究成果として 1 件の査読論文、12 件の学会発表、1 件の卒業論文、1 件の修士論文、1 件の博士論文が公表された。

■社会連携

社会連携活動として、秋の自然観察会を京大ウィークス 2023 の事業として 11 月 18 日（土）に開催した。参加募集人数 20 人に対して 18 人の参加があり、参加者を少人数の 2 グループに分けて散策コースを歩いた。

前年度まで新型コロナで中止になっていた社会連携活動のうち、関西菌類談話会の「きのこ観察会」、NPO シニア自然大学の「森林管理の観察」講座の 2 つが開催された。

2022 年度から始まった京大フィールド研と公益財団法人イオン環境財団との共同事業の「新しい里山・里海 共創プロジェクト」に関連して、2023 年度から里山おーぷんらぼ@上賀茂を開始し、関連する活動を含め多くの利用があった。

■施設の特記事項

2024 年 1 月 30 日、上賀茂試験地と武田薬品工業株式会社京都薬用植物園との間で種子交換事業に関する事業連携を目的とした協定締結が行われた。締結式は武田薬品京都薬用植物園研修棟大ホールで行われ取材の新聞 3 社の他、上賀茂試験地職員、武田薬品植物園職員が見守る中、上賀茂試験地長と薬用植物園長が協定書への署名を行った。

また 2023 年度は「新しい里山・里海 共創プロジェクト」の一環として、里山おーぷんらぼ@上賀茂をスタートした。里山活動を行う団体、クラブ活動としてフィールドワークを行う高等学校、里山活動に興味のある大学生、一般市民らが参加して月 1 回、計 11 回のらぼを開催した。モデルになる里山づくりとして工芸の森エリアや野菜やハーブを作る畑エリア、染色材料を育てる花壇エリアなどの整備を行った他、里山作業の体験や草木染の体験、竹を使った食器づくり等を行った。

またおーぷんらぼとは別に、らぼメンバーの企画による小学生を対象とした里山体験プログラム、上賀茂の森でクリスマスリースづくり、里山里海つながるフェス@イオンモール京都桂川等のイベントを開催した。

その他、2022 年度に試験地に設置した太陽光発電設備の 2023 年度の受給電力量は 4,913kW であった。

5) 徳山試験地

徳山試験地長 徳地 直子

■教育研究

2023 年度における徳山試験地の利用延べ人数は 181 人であり、昨年度とほぼ同じであった。

ILAS セミナーなどの学生実習による教育の利用、ならびに研究に関する利用はなかった。周南市との連携で実施した中校生の体験学習による教育利用 11 人、公開講座等での一般人の教育利用 60 人であった。

■社会連携

引き続き、山口県周南市との連携協定締結により連携事業に関する協力・利用などを行った。周南市役所の公園花とみどり課と協力して実施している春・秋の連携講座のうち、春の連携講座（第 20 回）は 5 月 27 日に実施し、受講者は 28 人であった。今回の講座では、周南市役所庁舎 1 階の多目的室において適切なソーシャルディスタンスを保ち、徳地直子教授によるフィールド研と徳山試験地の紹介と現在の研究についての説明の後、「環境 DNA で探る森の“目に見えない”生物多様性」を演題に、松岡俊将講師による講座講演を行った。午後からは、徳山試験地教職員の案内による試験地の見学とともに、松岡講師の解説によるキノコの観察が行われた。秋の連携公開講座（京大ウィークス 2023）は 10 月 14 日に開催し、周南市や宇部・防府市などから 31 人の参加者があった。今回の連携公開講座も午前と午後で場所を変えて実施した。午前は周南市役所庁舎 1 階の多目的室において「”きのこ”の生き方と森での働き」をテーマに、杉山賢子助教が講演を行った。午後からは、タブノキ・カシ類、クロキなどの暖温帯常緑広葉樹林や約 100 年生のヒノキ林（文化庁より「ふるさと文化財の森（檜皮）」に指定）ならびにクヌギ植栽実験林などの実験林を有する徳山試験地のフィールド見学とともに、杉山助教の解説による菌類の観察を行った。

周南市との連携事業の一環として実施した周南市立鼓南中学校の環境学習では、徳山試験地にて講義と作業体験を行った。午前中は、徳地教授による水質に関する講義を受けた後、パックテストなどを用いた水質分析の実習を行った。午後からはノコギリの取扱いなどの安全教育を実施した上で、ヒノキ林の雑木伐採の体験を行った。

■特記事項

修繕を要する老朽化した建物・設備が多く、特に建物北側の外壁の劣化・破損が著しいため、請負工事により事務所外壁補修（杉板重ね張り）を行った。昨年度に引継ぎ、3試験地合同の業務支援として、5月に上賀茂試験地より2人の技術職員が徳山試験地へ出張し、見本林園の排水路の泥上げ作業を行い、さらに2月には給水施設の取水口に堆積した土砂の取り除きなどを行った。

6) 北白川試験地

北白川試験地長 徳地 直子

■教育研究

北白川試験地では2023年度には、20件の教育・実習利用、33件の研究利用、合計53件の利用申請を受け付けた。年間利用者の延べ人数は、教育利用が656人、研究利用が2,331人の合計2,987人（2022年度は3,119人）であった。近年、増加する利用申請に対応するため、研究跡地の整理（研究終了後放置された樹木の伐採および抜根の整理）を行い、苗畑用地の拡充を行ってきたが、その効果もあり利用人数は高く推移している。

教育利用では、例年行われている食品有機化学実習によるサワラの枝葉から抗菌物質を精製する実験、森林水文学・砂防学実習や土壌物理学実習による計測機器の使用法や土壌採取方法の習得、森林科学実習による樹木識別や葉の形質測定に加え、複数のILASセミナーなど、本学学生を対象とする実習利用に加え、他大学学生対象の公開森林実習Ⅰを受け入れた。

研究利用では主となるフィールド研や本学森林科学専攻の他、食品生物科学専攻、アジア・アフリカ地域研究研究科、白眉センター、また、他大学では福井県立大学学術教養センター、京都府立大学生命環境学部森林科学科、東北大学生命科学研究科などの利用があった。また、研究成果として1件の査読論文、16件の学会発表、7件の卒業論文が公表された。

■社会連携

社会教育利用は、京都大学オープンキャンパス、ひらめき☆ときめきサイエンスなど5件の利用申請を受け付けた。また、今年度は、京大ウィークス事業に初めて参画し、2023年8月5日（土）に夏の自然観察会「大学キャンパスで虫みつけ」を実施した。募集人員15人に対し67人の応募があり、応募者の殆どは小学生とその保護者というグループであった。事業は自然観察、セミの抜け殻採集、ペットボトルトラップによる昆虫採集等を行った。セミの抜け殻観察では、分別できた抜け殻は1,181匹（ニイニイゼミ131匹、アブラゼミ832匹、クマゼミ211匹、ツクツクボウシ7匹）。調査結果は、企画を見て連絡してきたNHKシチズンラボのセミ大調査2023に報告している。ペットボトルトラップは、上賀茂試験地と北白川試験地に各20個を1週間前から設置しておき、講義室でトラップに入った虫を観察した。カブトムシやクワガタなど人気のある甲虫も採集でき、アンケートは総じて好評な意見であった。

■施設の特記事項

教育や研究に利用されている多数の見本樹は高木化や老齢化が進み、毎年予算を別途申請し、危険木の剪定および樹高調整を行っている。今年度は、旧演習林のハクショウ（半枯れ）の伐採および北側境界付近の7本（クロガネモチ、ブナ2本、イヌブナ、フジキ、スギ、ヤクシマスギ）の剪定を実施した。

7) 紀伊大島実験所

紀伊大島実験所長 甲斐嘉晃

■教育研究

2020年11月以降、施設への常駐教員の配置がされていないが、教職員が定期的に訪問し、施設の維持管理を行っている。紀伊大島産を中心とする植物標本は、適切な状態で保管できるように一部を総合博物館に移管した（塚本洋太郎植物標本ほか、2783点）。現存している標本についても他施設の移管の可能性を探りつつ整理を進めている。立地的に海にも近い施設として、黒潮の影響を直接的に受ける海洋生物相に関する調査を続けており、日本初記録となる魚類の発見にも繋がった。引き続き、南紀地域の森里海連環学の基礎となる情報を収集している。

■施設の特記事項

研究室実験室棟は1970年、実習宿泊棟は1981年に建設されており、どちらも老朽化が著しい。特に両建物とも水道の水圧が低く、水漏れも頻発しており、早急に修理できるように手配している。また、トイレについても、一部が男女共用になっていること、十分な水圧がないために日常的に詰まりが発生していることなどの問題があり、適切な改修工事を行う必要がある。

8) 舞鶴水産実験所

舞鶴水産実験所長 益田 玲爾

■教育研究

2023年12月に、高橋宏司助教が新潟大学の准教授として転出した。また、イオン環境財団との共創プロジェクトを担当していた研究員の伊藤岳博士は3月に転出したため、後任を公募し、八柳哲博士の着任が決まった。

2023年度に舞鶴水産実験所の里海生態保全学分野に所属する大学院生の数は、修士課程8人、博士後期課程1人であり、これには3人の外国人留学生（インド、中国、アメリカ合衆国）が含まれる。大学院生の研究テーマは、魚類の系統分類学、稚魚の生活史戦略、魚類および水産無脊椎動物の行動、水圏生物の環境DNA・環境RNAなどと幅広く、教員6人が各専門分野から指導している。大学院生の各研究テーマについては、毎週月曜日に行われるゼミでの発表を通して、全教員および研究員からの指摘も取り入れて進められている。

■社会連携

京都府下を中心に、市民団体等の企画への講師派遣に協力し、小中学校への出前授業を提供した。京都府立西舞鶴高等学校については7月に2日間にわたる日帰りの実習を、京都教育大学附属高等学校からは7月に2泊3日の実習を受け入れた。京都府立香住高等学校からは4月に日帰りの研修を受け入れた。京都府立海洋高等学校については教員が訪れて研究指導を行った。

4月22日および7月22日に、イオン環境財団と連携したイベントとして、伐採した木を海に沈めて集まる生物を観察する「柴漬け体験」を開催した。6月10・11日に京都市内の私立光華小学校の研修「海の京都調査隊」を受け入れ、施設見学・シュノーケリング体験・ウニの解剖・講義等を提供した。その様子は京都新聞に記事として紹介された。8月22日に舞鶴市理科教員研修として講義、体験活動と施設見学を提供した。10月13日に京都府生物教育会の例会として、府内の高校理科教員を対象とした施設見学と講義を提供した。

舞鶴市立由良川小学校、京丹後市立網野南小学校、亀岡市立本梅小学校、京田辺市立桃園小学校、京都府立聾学校舞鶴分校、私立湘南学園中学校高等学校、および京都府立宮津天橋高等学校を教員が訪問し出前授業を提供した。京都府海の民学舎、京都水族館、舞鶴市中公民館等の講師派遣に協力した。このほか、当実験所教員が京都府漁業調整委員などを担当し、京都府北部地域や舞鶴市の地域産業の活性化において重要な役割を担っている。

■施設の特記事項

宿泊棟の共有スペース（ホール）にカーテンと局所エアコンを設置し、夏季の酷暑対策とした。また、厨房施設について、小規模の改装を行い、厨房担当の労務補佐員を追加で雇用するなど、実習中の食事の質の向上に努めた。

2002年3月に建てられた研究棟は、本年度末で築22年を迎えた。軽量鉄骨による簡易的な建造物であり、耐久性が低いことから、日本海の風雪にさらされる環境で今後長期間使用できるとは考えられない。同時期に建設された飼育棟も、既に老朽化が進み、特に錆による支柱の劣化は著しく、補修を適宜行っているものの、大型の台風が襲来すれば倒壊の危険性すらある。今後さらなる増加が見込まれる実習や研究目的の利用者の安全および利便性を確保するためにも、飼育棟と研究棟を統合した建物を早期に建築する必要がある。

9) 瀬戸臨海実験所

瀬戸臨海実験所長 下村 通誉

■教育研究

2023 年度は講師であった中野智之氏が 10 月 1 日付で准教授に昇任した。2023 年度は教育関係共同利用拠点事業の第 3 期の 3 年目である。当実験所は、日本でも特に海洋生物相の豊かな場所に立地しており、その特徴を活かした、より充実した臨海実習や共同利用のために、この教育拠点活動を推進してきている。2023 年度は 10 月から河村真理子氏を特定講師として採用した。新型コロナウイルスは 5 月に 5 類に移行したことから実習は全て対面で実施した。

2014 年度から、当実験所と京大本学のラボとの合同ゼミを行っている。2023 年度は農学研究科海洋生物増殖学分野、農学研究科海洋生物環境学分野、舞鶴水産実験所、福井県立大学海洋生物資源学部との合同ゼミを行った。前年度に引き続き毎月「瀬戸海洋生物学セミナー」をオンラインで実施した。外部の研究者を招いた研究紹介セミナーで、全国から参加者を募集している。

■社会連携

新型コロナウイルスが 5 類に移行したことから、白浜水族館の団体入場者の人数制限を撤廃した。水族館の夏休み、冬休みの「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」・「バックヤードツアー」を再開した。

■施設の特記事項

2023 年度末で朝倉彰教授が退職されることから 2024 年 3 月 8 日に朝倉彰教授退職記念講演会・祝賀会をそれぞれ国際科学イノベーション棟 5 階 シンポジウムホールと百周年時計台記念館内のレストラン「ラ・トゥール」で行った。

島島には近年、レジャー客による無断上陸が絶えなかったが、新型コロナウイルスの感染拡大により観光業の大半が自粛となったため、無断上陸はほとんど確認されなかった。

10) 森里海連環学プロジェクト支援室

森里海連環学プロジェクト支援室長 徳地 直子

2023 年度、森里海連環学プロジェクト支援室は、室長、副室長、技術職員 1 人の 3 人体制で、森里海連環学に関する試料分析、実験室・分析機祈等の管理を行った。支援室として担当した業務は以下の通りである。

- ・森里海連環学実習の水試料分析（栄養塩）
- ・西舞鶴高校実習等の水試料分析（栄養塩）
- ・分析機器の保守管理
- ・化学物質の管理
- ・実験廃液の管理
- ・無機廃液の処理
- ・不用試薬等の廃棄（外部委託処理）
- ・その他（機器類の修理や事務的な調書対応等）

11) 企画情報室

企画情報室長 三田村 啓理

■特記事項

<会議業務>

企画情報室は、教授会や、新しい里山・里海 共創プロジェクト等のテレビ会議等の運用を担当している。2023 年度における会議室のテレビ会議機器の利用回数は 86 回であった。

<広報>

広報委員会の指示の下、定期刊行物として、年報を 1 号（第 20 号）、ニュースレターを 3 号（60～62 号）、ニュースメールの配信を 7 回、編集・発行・発送した。フィールド研ウェブページを随時更新し、2023 年度に公開したページは 193 ページ、写真の公開は 442 枚、旧 Twitter（現 X：7 月 3 日頃から仕様変更により部局ページでの新着表示ができなくなった）投稿数は 266 件となった。

京都大学 OCW の後継として「KyotoU Channel」が 11 月に公開され、部局 YouTube チャンネルに映像を公開し、KyotoU Channel に掲載を依頼する形となった。今年度は、瀬戸臨海実験所島島実験地の記録映像を編集した映像（日英 2 種類：各 4 分 53 秒）を作成したほか、前年度に撮影した和歌山研究林の記録映像（2 件 計 7 分 32 秒：和歌山研究林内部資料として編集した映像は計 35 件 5 時間 21 分 13 秒）、11 月の創設 20 周年記念式典・シンポジウム（3 時間 44 分 13 秒）を公開した。また、新しい里山里海の勉強会の記録映像を編集し限定公開し（5 件 計 7 時間 26 分 07 秒）、各施設や山の健康診断プロジェクト等の映像を部局チャンネルに表示した。

部局紹介概要パンフレットの 5 年ぶりとなる大改訂を 9 月に行った。2023 年 3 月に実施された森里海シンポジウム報告書のデジタル出稿、校正、共創プロジェクトパンフのオンライン印刷支援（5 月）、広報映像の更新等を行った。

<情報システムの企画、開発、運用>

情報セキュリティ委員会の指示の下、学内ネットワークの設定、メーリングリストの管理、共用機器類の管理、各施設等の不具合等に対応した。公開ウェブページでは、ログを逐次確認して設定を調整するとともに、WordPress によるシステムを 8 回更新し、年度末で 6.4.3 となった。4 月に 20 周年記念式典特設ページを公開し、新しい里山・里海 共創プロジェクトのページを部局ドメイン内のサブドメイン collabo で公開した。旧森里海連環学教育研究ユニットのサーバが 10 月 13 日に公開停止されたため、刊行物 PDF ファイルなど主要なファイルを部局サーバ内で再公開した。

KUINS VLAN の総点検、サーバ脆弱性診断を実施した。その他、Microsoft 365 利用 A3 ライセンスの全学展開（7 月より）への対応、瀬戸臨海実験所への無線 LAN 基地局追加設置申請、紀伊大島実験所管理パソコン類の廃棄処理、農学部総合館ネットワーク停止対応（10 月 4 日）、その他各種トラブル等に対応した。

<各施設およびフィールド研教職員の各種情報の収集>

フィールド研および教職員の各種活動状況を収集するため、各施設から毎月報告される利用実績報告書の集計、新聞等のフィールド研関連記事の収集、事業の記録、研究業績・外部資金・各種活動等の業績調べを行った。

<フィールド研常設各種委員会に係る実務>

その他各委員会の実務として、シラバス調べ、調書への対応等を行った。

<フィールド研行事（イベント）に係る実務>

11 月 19 日に開催した創設 20 周年記念式典・シンポジウムでは、当日配布パンフレットの編集、プレスリリース、缶バッジのデザイン、看板等作成、マニュアル作成調整、招待状リストの確認修正、オンライン配信と記録映像編集、記録写真の整理、報告原稿作成、午前中に開催された高校生森里海研究ポスター発表会の印刷等を担当した。

新しい里山・里海 共創プロジェクトにおいては、里山里海つながるフェス（10 月 29 日・イオンモール京都桂川）の開催支援、第 2-6 回新しい里山里海の勉強会 Zoom オペレーション等を担当した。その他、きょうと☆いきものフェス（10 月 8-9 日・京都府立植物園）展示の準備支援、オンラインイベントの設定、接続等を担当した。上賀茂試験地の武田薬品工業京都薬用植物園との包括連携協定締結（1 月 30 日）の準備、連絡調整、撮影記録等を担当した。

<その他>

台湾演習林関連資料の貸し出し、芦生研究林の資料館「斧蛇館」展示リニューアルに関する資料の提供・確認等、和歌山研究林の写真の確認や貸し出しを行った。共用施設マネジメントセンターに依頼し、旧演習林事務室ラウンジの椅子を更新いただいた（6 月）。その他、各種申請・提出書類の作成の支援、施設・教職員による業務の支援等を弾力的に行った。

(2) 各施設を利用した学生実習等

(上段:京大生対象、下段:他大学生対象、学生数(受講者)・教員等数(TA含む)は、延人数)

芦生研究林

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
23. 07. 13 ～ 23. 07. 14	2	京都大学	農学研究科	ユネスコチェアフィールドワーク：水と森と社会	大学院生	10	13	
23. 07. 31	1	京都大学	理学研究科	数理を基盤として新分野の自発的創出を促す理学教育プログラム スタディグループ「自然界に潜む規則性を探る」		1	4	
23. 08. 01 ～ 23. 08. 03	3	京都大学	総合生存学館	サービ斯拉ーニングA	大学院1回生	12	16	
23. 08. 01	1	京都大学	経済学部	多文化教養演習：見・聞・知@京都「受容から発信 へ」	全回生	58	12	
23. 08. 07	1	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習I	全学1～4回生	7	12	
23. 08. 28 ～ 23. 09. 01	5	京都大学	農学部	研究林実習I	2回生	147	26	
23. 09. 05 ～ 23. 09. 06	2	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「森での感動を科学する」	全学1回生	20	8	
23. 09. 13 ～ 23. 09. 15	3	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「京都の文化を支える森林：地域の知恵と生態学的知見」	全学1回生	24	12	
23. 08. 20 ～ 23. 08. 21	2	京都大学	宇宙総合学研究ユニット	有人宇宙キャンプ	学部生	22	10	
23. 09. 11 ～ 23. 09. 13	3	京都大学	学術情報メディアセンター	サイバーフィジカル混成によるフィールド実習記録とその分析		21	22	
23. 09. 19 ～ 23. 09. 22	4	京都大学	農学部	研究林実習II	3回生	79	14	
23. 09. 25 ～ 23. 09. 28	4	京都大学	農学部	森林利用学実習及び実習法	3回生	116	21	
23. 09. 28 ～ 23. 09. 30	3	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「芦生研究林の菌類多様性に触れよう」	全学1回生	21	8	
23. 11. 11 ～ 23. 11. 12	2	京都大学	農学研究科	農学部・大学院生セミナー(Informal annual event for doctoral and master's students)		25	9	
24. 02. 20 ～ 24. 02. 22	4	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習III(暖地性積雪地域における冬の自然環境)	全学部1～4回生	42	18	
23. 05. 22 ～ 23. 05. 26	5	東邦大学	理学研究科	野外生態学実習II	3年生	75	24	
23. 05. 13	1	同志社大学	理工学研究科	生命環境保全研究室ゼミ	大学院生	7	1	
23. 06. 24	1	大阪産業大学	デザイン工学部・環境理工学科	生物資源活用演習	3年生	6	4	
23. 06. 12 ～ 23. 06. 28	2	京都府立林業大学校		森林科学1	1年生	18	2	
23. 07. 08	1	四天王寺大学	教育学部教育学科	教育専門演習Ⅰ、教育専門演習Ⅲ 大学生を対象とした自然体験活動の教育効果		16	2	
23. 08. 03 ～ 23. 08. 05	3	神戸大学	理学部生物科学科	野外実習II		54	4	
23. 08. 07	1	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習I(公開実習)		6	0	(併催)
23. 08. 12	1	京都光華女子大学	キャリア形成学部	ブナ・アシウスギ天然林サイエンスツアー2023		9	5	
23. 08. 23 ～ 23. 08. 25	3	人間環境大学	人間環境学部・環境科学科	奥山里山管理実習/森林管理実習B/共同フィールドワーク	1～4年	54	10	
23. 09. 06 ～ 23. 09. 08	3	京都大学	フィールド研	公開森林実習I		27	22	
23. 10. 17 ～ 23. 10. 19	3	大阪公立大学		緑地保全学研究グループ実習		48	10	
計	64		(26件)			925	289	

北海道研究林

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
23. 08. 06 ～ 23. 08. 10	5	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「北海道の昆虫相」	主として1回生	37	61	
23. 09. 01 ～ 23. 09. 08	8	京都大学	フィールド研	研究林実習III	3回生	153	67	標茶区
23. 09. 04	1	京都大学	フィールド研	研究林実習III	3回生	19	10	白糠区
23. 09. 10 ～ 23. 09. 13	4	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習II	主として1回生	24	24	
23. 09. 26 ～ 23. 09. 30	5	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「北海道のきのこの多様性と生き方」	主として1回生	34	31	
24. 02. 25 ～ 24. 03. 02	7	京都大学	フィールド研	研究林実習IV	3回生	110	62	
23. 08. 06 ～ 23. 08. 10	5	京都大学	フィールド研	公開森林実習II	主として2-3回生	53	0	(併催)
23. 08. 28 ～ 23. 08. 31	4	酪農学園大学	環境共生学類	水圏地圏総合実習	3年	80	33	
23. 09. 10 ～ 23. 09. 13	4	北海道大学	北方生物圏フィールド科学センター	森里海連環学 北大・京大合同演習	B1～	36	25	(併催)
23. 09. 10 ～ 23. 09. 13	4	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習II(北海道大学と共催：公開実習)	B1	20	0	(併催)
計	47		(10件)			566	313	

和歌山研究林

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
23. 08. 09	1	和歌山県農林 大学校	林業研修部	講義		12	3	
23. 08. 21 ～ 23. 08. 24	4	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「森を育て活かすー林業 体験をとおして考える」		20	14	
計	5		(2件)			32	17	

上賀茂試験地

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
23. 04. 16	1	京都大学	地球環境学堂	里山再生論	修士	24	5	
23. 04. 18 ～ 23. 05. 09	2	京都大学	農学研究科	森林基礎科学実習Ⅰ	森林科学 科2回生	56	4	
23. 05. 13	1	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「森と暮らしを繋ぐ持続 可能なデザイン」	全学1回生	18	3	
23. 05. 20	1	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「北海道のきのこの多様 性と生き方」	全学1回生	6	1	
23. 05. 20	1	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「芦生研究林の菌類多様 性に触れよう」	全学1回生	6	1	
23. 05. 20 ～ 23. 08. 10	4	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「里山の物質循環:燃 料・肥料・食料から考える」	全学1回生	36	7	
23. 07. 22	1	京都大学	地球環境学堂	里山再生論	修士	21	2	
23. 07. 24 ～ 23. 09. 27	2	京都大学	東南アジア地域研 究研究所	水循環・風土論	修士課程1 年	20	3	
23. 09. 13	1	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「京都の文化を支える森 林：地域の知恵と生態学的知見」	全学1回生	8	5	
23. 04. 21 ～ 23. 11. 17	7	京都府立大学	生命環境学部	生物学実験及び同実験法	1回生	135	13	
22. 05. 07 ～ 23. 06. 10	3	京都精華大学	人間環境デザイン プログラム	自然環境演習	1年生	15	15	
23. 05. 20 ～ 23. 05. 21	2	放送大学	京都学習センター	森林に対する環境意識		18	6	
23. 06. 05 ～ 23. 07. 24	3	京都府立大学	生命環境学部	森林植物学実習	2回生	67	8	
23. 08. 23	1	人間環境大学	環境科学部 フィー ルド生態学科	奥山里山管理実習/森林管理実習/共同 フィールドワーク	1, 2年生	18	3	
23. 09. 06	1	京都大学	フィールド研	公開森林実習Ⅰ	他大学全 学年	9	7	
23. 10. 12	1	京都精華大学	デザイン学部ビ ジュアルデザイン 学科	ビジュアルデザイン応用実習5	1回生	20	2	
23. 10. 14 ～ 23. 12. 16	5	京都大学	フィールド研	公開森林実習Ⅲ	主として 2・3年次 生対象	22	15	
23. 11. 04 ～ 23. 11. 05	2	放送大学	京都学習センター	森里海連環学入門		30	6	
23. 11. 11 ～ 23. 11. 12	2	放送大学	京都学習センター	身近な森との付き合い方		30	7	
23. 11. 22	1	京都教育大学	教育学部産業技術 科学科	生物育成実習	2回生・3 回生	11	3	
23. 12. 09	1	大阪産業大学	デザイン工学部・ 環境理工学科	生物資源活用演習	3年生	2	1	
計	43		(21件)			572	117	

徳山試験地 (該当案件なし)

北白川試験地

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
23. 04. 03 ～ 23. 06. 30	7	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「群集生態学入門」	全学1回生	112	7	
23. 04. 12	1	京都大学	農学部	食品有機化学実験および実験法	3回生	3	2	
23. 04. 19 ～ 23. 07. 12	2	京都大学	農学部	土壌物理学・水環境工学実験	3回生	36	2	
23. 04. 27	1	京都大学	農学部	海洋生物科学実験及び実験法Ⅰ	3回生	25	1	
23. 05. 16 ～ 23. 06. 20	4	京都大学	農学部	森林基礎科学実習Ⅰ	3回生	128	4	
23. 05. 17 ～ 23. 05. 31	3	京都大学	農学部	森林フィールド系実習及び実習法	3回生	89	5	
23. 06. 07	1	京都大学	農学部	応用生命科学実験（有機化学実験）	3回生	4	2	
23. 09. 15	1	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「京都の文化を支える森 林：地域の知恵と生態学的知見」	全学1回生	8	3	
23. 10. 30 ～ 23. 12. 18	2	京都大学	農学部	森林水文・砂防学実験及び実験法	3回生	28	3	
23. 11. 29	1	京都大学	農学部	応用生態学実験及び実験法	3回生	19	1	
23. 09. 08	1	京都大学	フィールド研	公開森林実習Ⅰ	他大学全 学年	9	5	
23. 09. 08	1	京都大学	農学研究科	カセサート大学-京都大学農学部短期 学生交流プログラム		19	3	
計	25		(12件)			480	38	

紀伊大島実験所（該当案件なし）

舞鶴水産実験所

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
23.07.15 ～ 23.07.17	3	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「京都の海の沿岸動物学入門」		15	9	
23.07.21 ～ 23.07.22	2	京都大学	理学研究科	地質科学野外巡検IA（大島半島巡検）		15	0	
23.08.07 ～ 23.08.11	5	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習I		25	18	
23.08.25 ～ 23.08.30	6	京都大学	農学部	海洋生物科学技術論と実習I		36	30	
23.08.30 ～ 23.09.04	6	京都大学	農学部	海洋生物科学技術論と実習II		66	32	
23.09.09 ～ 23.09.10	2	京都大学	農学研究科	応用生物科学専攻動物機能開発学講座研究室セミナー		24	6	
23.12.23 ～ 23.12.27	5	京都大学	フィールド研	博物館実習（館園実務）		10	11	
24.03.04 ～ 24.03.08	5	京都大学	農学部	海洋生物科学技術論と実習IV		70	21	
23.05.24 ～ 23.05.28	5	近畿大学		環境管理学専門実験・実習		100	20	
22.08.07 ～ 22.08.10	2	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習I（公開実習）		25	0	併催
23.08.18 ～ 23.08.22	5	関西学院大学		海洋生物実習		100	20	
23.08.25 ～ 23.08.30	6	京都大学	フィールド研	魚類学実習（公開実習）		21	0	併催
23.08.30 ～ 23.09.04	6	京都大学	フィールド研	無脊椎動物学実習（公開実習）		12	0	併催
23.09.10 ～ 23.09.13	4	岐阜大学		臨海実習		52	13	
23.09.19 ～ 23.09.24	6	京都大学	フィールド研	魚類生態学実習（公開実習）		60	31	
23.12.23 ～ 23.12.27	5	京都大学	フィールド研	博物館実習（館園実務）（公開実習）		10	0	併催
24.03.04 ～ 24.03.08	5	京都大学	フィールド研	仔稚魚学実習（公開実習）		15	0	併催
計	78		(17件)			656	211	

瀬戸臨海実験所

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
23.05.03 ～ 23.05.05	3	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「甲殻類学入門」	1回生	12	3	
23.05.03 ～ 23.05.05	3	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「貝類の不思議」	1回生	6	3	
23.08.27 ～ 23.08.28	2	京都大学	総合生存学館	UNESCO Field Work 受講生および大学内同好会による白浜水族館見学	1回生	18	2	
23.08.05 ～ 23.08.11	7	京都大学	理学部	臨海実習第2部	全学年	35	26	
23.08.25 ～ 23.08.27	3	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「海洋共生生態学入門」	1回生	15	6	
23.08.25 ～ 23.08.27	3	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「黒潮流域の海洋生物自然史」	1回生	12	3	
23.09.11 ～ 23.09.18	8	京都大学	理学部	臨海実習第1部	全学年	40	35	
23.09.11 ～ 23.09.18	8	京都大学	理学部	臨海実習第4部	全学年	0	0	併催
23.11.10 ～ 23.11.11	2	京都大学	理学部	地質科学野外巡検IB		12	4	
23.12.05 ～ 23.12.09	5	京都大学	フィールド研	博物館実習（館園実務）	3回生以上	17	5	
24.03.13 ～ 24.03.17	5	京都大学	理学部	臨海実習第3部	全学年	10	52	
24.03.23 ～ 24.03.29	7	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習IV	全学年	77	54	
23.04.19 ～ 23.04.24	6	和歌山大学	教育学部	共同利用実習「臨海実習」		49	18	
23.06.03 ～ 23.06.05	3	大阪教育大学	教育学部	共同利用実習「臨海実習」		41	5	
23.06.13 ～ 23.06.17	5	京都大学	フィールド研	公開臨海実習「博物館実習」	3回生以上	10	14	
23.06.30 ～ 23.07.06	7	大阪公立大学	理学部	共同利用実習「臨海実習」		133	10	
23.07.15 ～ 23.07.19	5	奈良教育大学	教員養成課程	共同利用実習「臨海実習」	2回生以上	103	25	
23.08.05 ～ 23.08.11	7	京都大学	フィールド研	公開臨海実習「Functional Morphology and Evolutionary Biology of Marine Invertebrates」	3回生以上	35	0	併催
23.08.14 ～ 23.08.18	5	関西学院大学	生命環境学部	共同利用実習「臨海実験1」		80	25	
23.08.21 ～ 23.08.24	4	滋賀県立大学	環境科学部	共同利用実習「環境学野外実習I・II・III」		64	10	
23.08.24 ～ 23.08.25	2	京都大学	野生動物研究センター	海棲哺乳類調査実習	日本生態学会員を中心とする大学生、大学院生	16	4	
23.08.28 ～ 23.08.31	4	奈良女子大学	理学部	共同利用実習「海洋生物学野外実習」		36	14	
23.09.11 ～ 23.09.18	8	京都大学	フィールド研	公開臨海実習「自由課題研究」	3回生以上	16	0	併催
23.09.25 ～ 23.09.29	5	大阪大学	理学部	共同利用実習「生物学臨海実習」		85	8	
24.02.24 ～ 24.03.02	8	京都大学	フィールド研	公開臨海実習「海産無脊椎動物分子系統学実習」	全学年	64	57	
24.03.13 ～ 24.03.17	5	京都大学	フィールド研	公開臨海実習「藻類と海浜植物の系統と進化」	全学年	30	0	併催
24.03.23 ～ 24.03.29	7	京都大学	フィールド研	公開臨海実習「沿岸域生態系多様性実習」	全学年	56	0	併催
計	137		(27件)			1072	383	

(3) 各施設を利用した社会連携教育および野外学習等

(上段:小中高校生等対象、下段:一般対象、参加者数(対象者+引率者等)・教員等数(京大教職員)は、延人数)

芦生研究林

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
23. 06. 08	1	美山小学校	芦生グリーンワールド		23	4	
23. 07. 27 ~ 23. 07. 29	3	大阪府立泉陽高等学校	高校生による植生、水生生物を中心とした生物観察		18	2	
23. 08. 02 ~ 23. 08. 03	2	大阪府立刀根山高等学校	刀根山高校生物エコ部 森林生物観察実習		36	0	
23. 05. 10	1	兵庫県立人と自然の博物館	芦生研究林でのコケ植物観察		8	1	
23. 07. 26 ~ 23. 07. 29	2	KDDI株式会社社員有志	森林ボランティア	一般	36	6	
23. 10. 21	1	フィールド研 芦生研究林	芦生研究林一般公開（京大ウィークス）		31	13	
23. 10. 27 ~ 23. 10. 29	1	フィールド研 芦生研究林	芦生菌類ワークショップ		38	8	
24. 03. 15	1	フィールド研 芦生研究林	芦生研究林 Open Science Meeting		20	13	
計	12	(8件)			210	47	

北海道研究林

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
23. 10. 21	1	標茶町教育委員会	しべちャアドベンチャースクール	小学生	25	6	
23. 06. 18	1	フィールド研 北海道研究林	初夏の花観察会 プチフラワーソン 2023	一般	9	6	白糠区
23. 10. 07	1	フィールド研 北海道研究林	自然観察会「秋の森の生態系」（京大ウィークス）	一般	18	26	標茶区
計	3	(3件)			52	38	

和歌山研究林

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
23. 04. 18 ~ 24. 01. 16	20	和歌山県立有田中央高等学校清	ウッズサイエンス		60	37	
23. 05. 26 ~ 23. 10. 26	2	和歌山県立有田中央高等学校清	森林ウォーク		8	6	
23. 05. 22 ~ 23. 11. 01	2	有田川町立八幡小学校	森林体験学習	5, 6年生	26	7	
23. 10. 14	1	フィールド研 和歌山研究林	ミニ公開講座（京大ウィークス）	一般	12	4	
計	25	(4件)			106	54	

上賀茂試験地

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
23. 04. 15 ~ 24. 03. 10	22	フィールド研	里山おーぷんらぼ@上賀茂		306	106	
23. 09. 09	1	京都光華女子大学キャリア形成学部	里山サイエンスツアー2023	女子中高 校生	10	5	
23. 09. 15	1	フィールド研・イオン環境財団	里山フェスin上賀茂試験地：洛再Linksのみんなと里山で遊ぼう!!	小学生	44	6	
23. 11. 14	1	光華女子学園 光華小学校	環境学習		31	4	
23. 11. 10 ~ 23. 12. 16	3	フィールド研	芸術家との融合によるアウトリーチ活動の展開		3	4	
23. 11. 15 ~ 23. 11. 16	2	シニア自然大学校	植物の生き方を楽しむ講座		24	1	
23. 11. 18	1	フィールド研 上賀茂試験地	秋の自然観察会（京大ウィークス）		18	8	
24. 03. 24	1	京都大学地球環境学堂	農業と環境を土から考える		16	1	
計	32	(8件)			452	135	

徳山試験地

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
23. 05. 26	1	周南市	鼓南中学校環境学習		22	5	内中学生11人
23. 05. 27	1	周南市・京大フィールド研	第20回連携講座		30	3	
23. 10. 14	1	周南市・京大フィールド研	連携公開講座（京大ウィークス）		34	3	
計	3	(3件)			86	11	

北白川試験地

期 間	日数	主催者	科 目 名	対象者	参加者数	教員等数	備考
23. 08. 05	1	フィールド研 北白川試験地	夏の自然観察会（京大ウィークス）		15	4	
23. 08. 05	1	京都大学	オープンキャンパス2023共通企画北部キャンパスツアー（農学部コース）		135	10	
23. 08. 18	1	京都大学白眉センター	ひらめき☆ときめきサイエンス		10	2	
計	3	(3件)			160	16	

紀伊大島実験所 （該当案件なし）

舞鶴水産実験所

期 間	日数	主催者	科 目 名	対象者	参加者数	教員等数	備考
23. 04. 21	1	兵庫県立香住高校	キャンパス見学会	小学生	15	1	
23. 04. 22 ～ 23. 07. 22	2	フィールド研・イオン環境財団	京都大学舞鶴水産実験所で木の枝を海に沈めて集まる魚を観察しよう！		52	4	
23. 06. 10 ～ 23. 06. 11	2	KBS京都	環境教育	光華小学校生徒	72	2	
23. 07. 24 ～ 23. 07. 25	2	京都府立西舞鶴高等学校	夏期実習「地球環境と海の生態系」の調査および実習		58	8	
23. 07. 26 ～ 23. 07. 28	3	京都教育大学附属高校	臨海実習		42	5	
23. 08. 22	1	舞鶴市小学校教育研究会	舞鶴市理科教員研修会		20	1	
23. 10. 13	1	京都府生物教育会	京都府内の高等学校生物担当教員の研修		13	1	
計	12	(7件)			272	22	

瀬戸臨海実験所

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
23. 05. 24	1	樟蔭中学校	海辺の生物観察	一般	35	1	
23. 06. 17	1	フィールド研・イオン環境財団	島島ビーチクリーン		26	4	
23. 07. 20 ～ 23. 07. 21	2	大阪府立汎愛高等学校	理科課題研究	高校生	34	2	
23. 07. 22 ～ 23. 07. 24	3	滋賀県立膳所高等学校	サイエンスキャンプ（第53回生物実習旅行）	高校生	57	6	
23. 07. 30 ～ 23. 07. 31	2	兵庫県立尼崎小田高等学校	発生、系統分類実習	高校生	38	2	
23. 08. 03 ～ 23. 08. 04	2	奈良県立郡山高等学校	生物部臨海実習	高校生	14	0	
23. 08. 29	1	白浜町立児童館・白浜町生活環境課	白浜町水辺環境教室	小学3～6年生	25	1	
23. 09. 02 ～ 23. 09. 03	2	和歌山県	ネイチャー・キャンプ 海辺の生き物	小学4年生～中学3年生	66	4	
23. 10. 06 ～ 23. 10. 07	2	大阪府立千里高等学校	臨海実習	高校生	44	2	
23. 12. 25 ～ 23. 12. 26	2	大阪府立豊中高等学校	SSH白浜研修旅行	高校生	34	4	
24. 02. 17	1	フィールド研・イオン環境財団	白浜の豊かな海と自然について学ぼう	一般	28	5	
23. 04. 01 ～ 24. 03. 31	12	FMビーチステーション	ラジオで生き物紹介	一般	—	12	ラジオ 白浜駅構内展 ポ オンラインまたはハイブリッド
23. 04. 01 ～ 24. 03. 31	366	JR西日本	くろしお水槽	一般	—	102	
23. 04. 18 ～ 24. 03. 19	11	フィールド研瀬戸臨海実験所	瀬戸海洋生物学セミナー第76～86回	全国研究機関	340	85	
23. 04. 22 ～ 23. 06. 17	3	白浜水族館	水族館の磯採集体験	一般	44	12	
23. 10. 14 ～ 24. 03. 02	3	白浜水族館	水族館の飼育体験	一般	29	10	
23. 10. 21	1	フィールド研瀬戸臨海実験所	京大ウィークス「白浜の海の自然と発見」	一般	15	5	
計	415	(17件)			829	257	

4.教職員の活動

(1) 研究成果

部門別・種別業績発表件数

	著書	原著論文・総説 (査読あり)	原著論文・総説 (査読なし)	その他 (一般誌・報告書等)	学会発表 (発表要旨集含む)
森林生態系部門	4	21	4	2	36
里域生態系部門	1	20	0	1	23
海洋生態系部門	2	29	0	3	60
管理技術部	0	1	0	2	0
計	7	73	4	8	119

(複数著者の重複の場合、所属する部門内での重複を除外して計数している。また、合計の欄では部門間の重複も除外しているため、部門合計と全体の合計の数値とは一致しないことがある。)

(個別業績は `ps s .k o o .a .p p o g a i s 0` でご確認ください。)

(2) 他大学・各種学校の講義・実習

(高校生以下を対象とする講義などは、(6)社会貢献活動 参照)

森林生態系部門

徳地 直子 放送大学学園・非常勤講師 面接授業担当 「身の回りの自然を知ろう」
 長谷川 尚史 琉球大学・非常勤講師 「森林土壌学」
 奈良県フォレストアカデミー・講師 「林業機械と森林作業システム I , II」
 高知県立林業大学校・特別教授 「間伐作業システムと林業機械」 (2024-1-25/26)
 和歌山県農林大学校林業研修部・講師 「森林情報」「木材生産」
 京都府立林業大学校・講師 「林業機械化概論」
 石原 正恵 京都府立林業大学校・非常勤講師 「森林科学1」 (2023-6-7/28)
 松岡 俊将 同志社大学・嘱託講師 「生命の科学1 菌類生態学」「生命の科学2 菌類生態学」「環境システム基礎実験A」
 張 曼青 大阪大学・非常勤講師 「国際コミュニケーション演習 (中国語)」

里域生態系部門

益田 玲爾 関西学院大学・非常勤講師 「臨海実習」 (2023-8-18/22)
 岐阜大学・非常勤講師 「臨海実験法および実習」 (2023-9-10/13)
 甲斐 嘉晃 関西学院大学・非常勤講師 「臨海実習」 (2023-8-18/22)
 邊見 由美 高知大学・非常勤講師 「 an on i is ip ina i n 」
 関西学院大学・非常勤講師 「臨海実習」 (2023-08-18/22)
 岐阜大学・非常勤講師 「臨海実験法および実習」
 高橋 宏司 東洋英和女学院大学・非常勤講師 「心理学特殊講義 動物行動心理学」
 関西学院大学・非常勤講師 「臨海実習」 (2023-08-18/22)
 伊藤 岳 関西学院大学・非常勤講師 「臨海実習」 (2023-08-18/22)

海洋生態系部門

下村 通誉 公立大学法人大阪・非常勤講師 「理学部臨海実習」
 奈良教育大学・非常勤講師 「臨海実習」
 中野 智之 奈良教育大学・非常勤講師 「臨海実習」
 関西学院大学・非常勤講師 「臨海実習」 (2023-08-14/18)
 大阪教育大学・非常勤講師 「臨海実習」
 紀南看護専門学校・非常勤講師 「基礎生物学」

山守 瑠奈 摂南大学・非常勤講師「海洋生物学」
 京都大学人間・環境学研究所 / 総合人間学部「総合フィールド演習」(2023-05-30/06-02)
 京都大学 総合人間学部講義「地球と生命の進化史」
 滋賀県立大学・非常勤講師「臨海実習」

(3) 学会等における活動

◆学会役員・シンポジウム企画等

森林生態系部門

館野 隆之輔 森林立地学会：森林立地編集委員
 生物地球化学研究会：将来計画委員
 長谷川 尚史 森林利用学会：常務理事（総務担当）
 日本森林学会：o n a o o s s a 編集委員
 応用森林学会：編集委員
 森林 フォーラム：事務局（分科会）
 日本森林学会：代議員
 森林生産システム研究会：幹事
 伊勢 武史 国立極地研究所：o a i n 編集委員
 日本地球惑星科学連合 大気水圏科学複合領域・一般 陸域生態系の物質循環 共同コンビーナ
 石原 正恵 日本生態学会大規模長期生態学専門委員会委員
 日本学術会議環境学委員会：地球惑星科学委員会合同 合同分科会 小委
 員会委員
 小林 和也 日本動物行動学会：広報委員長
 日本生態学会：o o g i a s a 編集委員
 坂野上 なお 林業経済学会：編集委員
 松岡 俊将 日本生態学会：大会運営部会とオンライン部会

里域生態系部門

益田 玲爾 環境 学会：理事
 日本水産学会：国際委員・近畿支部長
 甲斐 嘉晃 日本魚類学会：英文誌編集主任
 鈴木 啓太 水産海洋学会：編集委員会副委員長・事業委員会委員

海洋生態系部門

朝倉 彰 日本甲殻類学会：会長
 国際甲殻類学会 s a a n o i a i n o g i a o i o a p a n i a i s o n i
 三田村 啓理 日本水産学会：近畿支部幹事
 山下 洋 日本水産学会：副会長
 下村 通誉 日本甲殻類学会：評議員
 日本動物分類学会・評議員
 中野 智之 軟体動物多様性学会・編集委員・事務局員
 日本貝類学会：学会誌 Venus 編集委員
 軟体動物多様性学会：編集委員・事務局員
 小林 志保 日本海洋学会：沿岸海洋研究会委員，海洋環境委員会委員
 水環境学会：関西支部幹事
 水産海洋学会：編集委員会委員
 後藤 龍太郎 日本ベントス学会・英文誌 a n k o n a n n o s s a 編集委員
 日本長期生態学ネットワーク（JaLTER）代表者委員，運営委員，情報管理委員
 久米 学 陸水生物学研究会：運営委員
 応用生態工学会：会誌編集委員会委員

◆受賞歴

里域生態系部門

益田 玲爾 年月日：2024年3月28日
 受賞者名（共著者含）：益田 玲爾
 受賞内容（課題名など）：令和5年度日本水産学会賞「水産資源生物の行動生態学的研究」

益田 玲爾 年月日：2024年3月28日
 受賞者名（共著者含）：笠井亮秀，高田真悟，山崎彩，益田玲爾，山中裕樹
 受賞内容（課題名など）：令和 年度日本水産学会 論文賞 o p a on n i o n n a
 g a a i o n o a p a n s （ニホンウナギの環境 の分解率に及ぼす水温の影響） is i s i n
 巻 号：4 4 1 2020 10.100 s12 2 020 0140 1

海洋生態系部門

三田村 啓理 年月日：2023年6月9日
 受賞者名（共著者含）：三田村 啓理
 受賞内容（課題名など）：海洋理工学会 令和5年度業績賞「バイオテレメトリー・バイオリギング技術を用いた水圏動物の個体群レベルモニタリング手法の開発と適用」

三田村 啓理 年月日：2023年12月2日
 受賞者名（共著者含）：長尾 元椰・高木 淳一・河合 賢太郎・市川 光太郎・三田村 啓理
 受賞内容（課題名など）：令和 年度日本水産学会近畿支部後期例会 優秀発表賞「摂餌検出機能付き発信機を用いた自然環境下における魚類の摂餌行動の初めての長期連続把握」

山下 洋 年月日：2024年3月28日
 受賞者名（共著者含）：山下 洋
 受賞内容（課題名など）：令和5年度日本水産学会 功績賞「沿岸魚介類の初期生態と成育場利用に関する研究」

山下 洋 年月日：2024年3月28日
 受賞者名（共著者含）：井上 博，亘 真吾，澤田 英樹， o a a gn，山下 洋
 受賞内容（課題名など）：令和 年度日本水産学会 論文賞 p a s o gi s i o n is o s s i n
 o a s a a a o o o p a o a p a n a s s s s i n g o p a o （エコパスモデルにより推
 定した京都府沿岸域の漁業生態系に対するレジームシフトの影響） is i s i n 巻 号：
 202 10.100 s12 2 02 01 1

市川 光太郎 年月日：2023年12月2日
 受賞者名（共著者含）：長尾 元椰・高木 淳一・河合 賢太郎・市川 光太郎・三田村 啓理
 受賞内容（課題名など）：令和5年度日本水産学会近畿支部後期例会 優秀発表賞「摂餌検出機能付き発信機を用いた自然環境下における魚類の摂餌行動の初めての長期連続把握」

小林 志保 年月日：2023年11月10～12日
 受賞者名（共著者含）：船越 裕紀，田中 雅幸，小林 志保，藤原 建紀
 受賞内容（課題名など）：2023年度水産海洋学会研究発表大会 若手優秀講演賞「汽水湖 久美浜湾 における貧酸素水塊の解消過程－冬季の鉛直混合を阻害する淡水流入－」水環境学会誌 202 年 4 巻 号 p.
 1 1 0 10.2 s .4 .1

小林 志保 年月日：2023年11月16日
 受賞者名（共著者含）：船越 裕紀，田中 雅幸，小林 志保，藤原 建紀
 受賞内容（課題名など）：令和5年度全国水産試験場長会会長賞「汽水湖(久美浜湾)における貧酸素水塊の
 解消過程－冬季の鉛直混合を阻害する淡水流入－」水環境学会誌 202 年 4 巻 号 p.1 1 0
 10.2 s .4 .1

久米 学 年月日：2023年8月25日
 受賞者名（共著者含）：久米 学
 受賞内容（課題名など）：2022年度河川基金事業 優秀成果表彰「堰を登れるウナギと登れないウナギは何が違うのか？」

管理技術部

藤井 弘明 年月日：2023年9月28日
 受賞内容（課題名など）：第24回森林管理技術賞 特別功労賞
 受賞業績：「京都大学演習林の管理・運営と発展のための長年にわたる多大な貢献」

宮城 祐太 年月日：2023年9月28日
 受賞内容（課題名など）：第24回森林管理技術賞 若手奨励賞
 受賞業績：「経歴を生かした業務のデジタル化推進と社会教育への貢献」

(4) 社会貢献活動

◆学外委員会委員等

森林生態系部門

徳地 直子	日本学術会議 日本学術会議連携会員 農林水産省農林水産技術会議事務局・国立研究開発法人審議会臨時委員 一般財団法人防災研究協会・非常勤研究員 総合地球環境学研究所・令和5年度 総合地球環境学研究所共同研究員 岐阜県・清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会委員 岐阜県飛騨市・飛騨市生活環境保全のための森林整備検討会委員 京都府・京都府環境影響評価専門委員会委員 京都府八幡市・八幡市環境審議会委員 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター・滋賀県琵琶湖環境科学研究センター評議員会委員 静岡県・「南アルプスを未来につなぐ会」理事 全国環境研協議会酸性雨広域大気汚染調査研究部会・有識者 長岡京市・西山森林整備推進協議会会長 長岡京市・長岡京市生活環境審議会委員 大山崎町・大山崎町森林整備計画に係る指導者
館野 隆之輔	総合地球環境学研究所・令和5年度 総合地球環境学研究所共同研究員(研究プロジェクト：森林の価値と一森と生きるひとと社会の未来像)
長谷川 尚史	一般社団法人フォレスト・サーベイ・森林作業システム高度技能者育成事業に係る検討委員 株式会社山地防災研究所・森林環境保全直接支援事業工程分析調査検討委員会委員 ※林野庁委託事業 近畿中国森林管理局・近畿中国森林管理局技術開発委員会委員 国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所・外部評価委員 全国森林組合連合会・フォレストマネージャー研修講師 全国森林組合連合会・令和5年度森林プランナー育成対策企画運営委員会委員 滋賀県：滋賀県森林審議会委員 奈良県フォレスターアカデミー・令和5年度森林林業教育カリキュラム実施支援検討会検討委員 兵庫県：県立農林水産技術総合センター外部評価専門委員会委員 兵庫県：分収造林事業のあり方検討委員会委員 兵庫県農政環境部：農林水産政策審議会委員 和歌山県森林組合連合会・令和5年度林業デジタル・イノベーション総合対策のうち戦略的技術開発・実証事業の検討委員会委員 和歌山県農林水産部・和歌山県森林審議会委員 和歌山県農林大学校・和歌山県農林大学校林業研修部運営検討委員会委員 有田川町林業振興センター・有田川町林業振興センター事業推進会議委員 十津川村・十津川村森林づくり審議会委員
伊勢 武史	日本学術会議：日本学術会議委員 環境学委員会 地球惑星科学委員会合同 合同分科会 i 小委員会委員・i 小委員会委員) 京都伝統文化の森推進協議会・京都伝統文化の森推進協議会委員及び文化的価値発信専門委員 京大オリジナル株式会社・アドバイザー (広島県世羅郡・山口県立大学からの委託事業：瀬戸内地域・広島県からの委託事業：三次市作木町・民間企業からの委託事業：広島県内の特定エリア)
石原 正恵	文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測・政策基盤調査研究センター・令和5年度科学技術専門家ネットワーク・専門調査員 総合地球環境学研究所・令和5年度 総合地球環境学研究所共同研究員 研究プロジェクト：森林の価値と一森と生きるひとと社会の未来像) 一般財団法人自然環境研究センター・モニタリングサイト1000 (森林・草原調査) 解析ワーキンググループ委員 京都府 芦生の森植生回復検討委員会委員 京都市・京都市環境審議会 生物多様性保全検討部会委員・地球温暖化対策推進委員会委員
小林 和也	標茶町役場農林課林政係：林業推進協議会委員 一般社団法人くしろまちづくり研究所・ワークショップ講師
坂野上 なお	一般社団法人滋賀県造林公社・理事 滋賀県・公共事業評価監視委員会委員 大阪府・大阪府国土利用計画審議会委員 奈良県・奈良の木利用拡大検討委員会委員

松岡 俊将 総合地球環境学研究所・令和5年度 総合地球環境学研究所共同研究員(研究プロジェクト：森林の価値と
は一森と生きるひとと社会の未来像)

田中 拓弥 近畿地方環境事務所 令和5年度地域循環共生圏づくり支援体制構築事業審査委員会委員

里域生態系部門

益田 玲爾 広島大学瀬戸内CN国際共同研究センター・ブルーイノベーション部門水産実験所連携協議会委員
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター・水圏ステーション臼尻水産実験所、七飯淡水実験所、忍
路臨海実験所、洞爺臨湖実験所共同利用協議会委員
長崎大学海洋未来イノベーション機構・長崎大学海洋未来イノベーション機構環東シナ海環境資源研究
センター共同利用運営協議会委員
京都府農林水産部水産課・京都海区漁業調整委員会委員

邊見 由美 関西自然保護機構・京都府レッドデータ改訂委員会調査員

海洋生態系部門

朝倉 彰 文部科学省高等教育局・令和5年度教育関係共同利用拠点の認定等に関する有識者会議委員
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター・水圏ステーション厚岸臨海実験所及び室蘭臨海実験所
共同利用協議会委員

三田村 啓理 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所：客員教授・南極観測アドバイザー
京都大学農学部四明會：委員

京都府農林水産技術センター：京都府農林水産技術センター評議委員

大阪府立環境農林水産総合研究所：研究アドバイザー委員会委員

富山県農林水産技術会議：令和5年度富山県農林水産試験研究評価外部評価委員

山下 洋 文部科学省「市民参加による海洋総合知創出手法構築プロジェクト」：外部評価委員会主査

日本海学推進機構：専門委員

公益財団法人G-7 奨学財団：研究開発選考委員

市川 光太郎 p i s p i a i s o p

下村 通誉 広島大学大学院統合生命科学研究科：客員研究員

和歌山県環境生活部環境政策局：講師

中野 智之 国立研究開発法人海洋研究開発機構：J-OBIS推進委員会委員

和歌山県環境生活部環境政策局：講師

小林 志保 国立環境研究所：客員研究員

山守 瑠奈 認定 法人シニア自然大学校：講師

白浜町消防団・第2分団団員

◆高校生までを対象としたプログラム

森林生態系部門

長谷川 尚史 有田中央高校清水分校ウッズサイエンス講師（和歌山研究林），2022-06-06/2023-01-17

中西 麻美 京都府立西舞鶴高等学校：講師，2023-6-10，10-30

田中 拓弥 「里山フェスin上賀茂試験地」（イオンチアーズクラブに対する高校生による里山体験プログラムの提供）
企画運営，2023-10-15

里域生態系部門

益田 玲爾 京都教育大学附属高等学校・臨海実習講師，2023-07-26/28

京都府立香住高等学校2年生13人の施設見学と講義「日本海の魚たちの素顔」（舞鶴水産実験所），2023-
04-21

私立光華小学校5年生25人への講義「京都の海の魚たちの素顔」，フィールドでのウニの観察（宮津市天橋
立・舞鶴水産実験所・舞鶴市小橋），2023-06-10/11

舞鶴聾学校1-6年生5人，教員10人への出前授業（舞鶴聾学校），2023-09-06

京田辺市立桃園小学校2年生76人，教員4人への出前授業，2023-09-07

光華小学校1-6年生160人と教員10人への研修と講演（舞鶴水産実験所），2023-09-08

網野南小学校5年生26人，4年生30人，教員5人への出前授業「京都の海の魚たちのひみつ」，2023-09-29

私立湘南学園中学校・高等学校への出前授業，2023-11-01

亀岡市立本梅小学校1-6年生57人，教員6人への出前授業「京都の海の魚たちのすがお」，2023-11-24

舞鶴市立由良川小学校3-6年生34人，教員6人への出前授業「京都の海の魚たちのすがお」，2023-11-30

宮津天橋高校1年生116人への探求の時間での講演「京都の海に学ぶ研究力」，2024-02-29

沼津市立開北小学校・沢田小学校・第一小学校へのズーム出前授業「津波の後の海で潜りながら考えたこ
と」（舞鶴水産実験所），2024-3-11

甲斐 嘉晃 京都府立西舞鶴高等学校：講師，2023-07-21/22

鈴木 啓太 京都府立西舞鶴高等学校：講師，2023-06-10/10-30
京都府立福知山高等学校・研究アドバイザー

邊見 由美 京都府立西舞鶴高等学校：講師，2023-07-21/31

伊藤 岳 「柴漬け」から里海を考えよう（舞鶴市立大浦小学校），2024-1-15

海洋生態系部門

山下 洋 森里海連環学：川と海を行き来する魚たち（島根県立吉賀高等学校、吉賀町立柿木中学校） 202 0 0

市川 光太郎 武庫川女子大学附属高等学校「総合的な探求」・講師，2023-05-13, 2023-05-20
京都大学ELCAS2023講義型プログラム「人魚の歌声～音を使ってジュゴンの秘密を解き明かす～」・講師
（京都大学 百周年時計台記念館国際交流ホール 高大接続・入試センター），2023-08-22
京都府立鴨沂高等学校「子どもの知的好奇心をくすぐる体験授業」，2023-11-17

下村 通誉 滋賀県立膳所高等学校・SSHサイエンスキャンプ講師，2023-07-23/25

中野 智之 滋賀県立膳所高等学校・SSHサイエンスキャンプ講師，2023-07-22/24
大阪府立千里高等学校・講師，2023-10-06/07

後藤 龍太郎 兵庫県立尼崎小田高等学校・白浜臨海実習講師，2023-07-30/31

後藤 龍太郎 樟蔭中学校臨海実習講師，2023-05-23/24

山守 瑠奈 大阪府立汎愛高等学校・講師
滋賀県立膳所高等学校・サイエンスキャンプ講師
京都アカデミアフォーラム in 丸の内にて講演 202 0 02
四天王寺大学高校生向けサイエンスセミナーにてウニの解剖を実施，2024-02-12

◆社会人等を対象としたプログラム

森林生態系部門

徳地 直子 北白川試験地 夏の自然観察会「大学キャンパスで虫みつけ」，2023-08-05
高校生森里海研究ポスター発表会（京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホール），2023-11-19
京都大学生態学研究センター公開講座「ありふれているのに知らない窒素の話」において、講演「山の健康診断：市民科学で日本の山の状態をモニタリングする」（大学コンソーシアム京都 キャンパスプラザ京都 第3講義室），2024-02-17
「新しい里山里海の勉強会（第6回）」において、基調講演「みんなで創る新しい里山」（オンライン），2024-03-21

舘野 隆之輔 上賀茂試験地 秋の自然観察会，2023-11-18
「新しい里山里海の勉強会（第3回）」（オンライン），2023-07-14
京都大学フィールド研創設20周年記念式典・シンポジウム（百周年時計台記念館 百周年記念ホール・国際交流ホール），2023-11-19
イオン環境財団主催 第1回SATOYAMAフォーラム「里山が持つ新たな価値創造＝ネイチャーポジティブとウェルビーイング」（国連大学 ウ・タント国際会議場），2023-12-12

長谷川 尚史 和歌山研究林 ミニ公開講座，2023-10-14
令和5年度「緑の雇用」担い手確保支援事業フォレストマネージャー研修「ICT・スマート化技術の林業への導入」（録画講義），2023-07-20

石原 正恵 公開講演会「シカの食害による芦生の変化とこのころ～新たなモニタリングと協働」にて、講演「芦生研究林でのシカによる生態系改変と回復に向けた取り組み」（京都府立植物園），2023-08-27
美山×研究つながる集会（第4回）「地域を元気にするタネをみつける～人口減少社会における担い手不足と向き合う～」を開催（京都丹波高原国定公園ビジターセンター），2024-03-03
京都大学フィールド研創設20周年記念式典・シンポジウムにおいて、「施設における教育と研究の歩み：芦生研究林」を担当（百周年時計台記念館 百周年記念ホール・国際交流ホール），2023-11-19
国天然記念物指定 100周年 記念シンポジウム「和泉葛城山ブナ林 これまでの100年 これからの100年」にて、講演「ブナ林に迫る危機と協働による保全」（大阪市立博物館），2023-08-26
日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同FE・WCRP合同分科会 公開シンポジウム「陸域システムの持続性研究におけるGLPとデジタル技術の役割」にて、講演「生物多様性と森林バイオマスのモニタリング観測におけるデジタル技術の活用と多様なステークホルダーとの協働」（オンライン），2023-09-02
芦生もりびと協会新人ガイド研修会にて、講義「芦生研究林の現状」（オンライン），2023-04-23

小林 和也 「初夏の花観察会」北海道プチフラワーソン2023を開催（北海道研究林白糠区），2023-06-18
自然観察会「秋の森の生態系」において、林内解説を担当（北海道研究林標茶区），2023-10-07
京都大学フィールド研創設20周年記念式典・シンポジウムにおいて、「施設における教育と研究の歩み：北海道研究林」を担当（百周年時計台記念館 百周年記念ホール・国際交流ホール），2023-11-19

赤石 大輔 公開講演会「シカの食害による芦生の変化ときのこ相～新たなモニタリングと協働」にて、講演「芦生のきのこ相を知る：これまでわかったこと」（京都府立植物園），2023-08-27

坂野上 なお 芦生研究林施設公開・森林軌道コース解説，2023-10-21

中西 麻美 上賀茂試験地 秋の自然観察会 林内解説，2023-11-18

杉山 賢子 自然観察会「秋の森の生態系」 林内解説（北海道研究林標茶区），2023-10-07

周南市・京都大学フィールド科学教育研究センター連携公開講座 講演「“きのこ”の生き方と森での働き」（周南市役所および徳山試験地），2023-10-14

田中 拓弥 「きょうと☆いきものフェス！2023」にて、京都大学フィールド研のブースを出展（京都府立植物園），2023-10-08/09

「里山里海つながるフェス@イオンモール京都桂川」企画担当，2023-10-29

「里山おーぶらぼ@上賀茂」（第2回～第11回）企画運営担当（上賀茂試験地），2023-05-13/2024-03-10

「里山おーぶらぼフィールドガイド ～暮らしと関わる樹木マップ」の制作（上賀茂試験地）

里域生態系部門

益田 玲爾 柴漬け体験イベント「京都大学舞鶴水産実験所で木の枝を海に沈めて集まる魚を観察しよう！」，2023-04-22，07-22

スノーケリングリーダー養成講座「若狭湾の魚類と環境」（福井県海浜自然センター），2023-06-24

舞鶴市小学校教育研究会理科部 研修と講義「最先端技術から分かる舞鶴の自然研究」（舞鶴水産実験所），2023-08-22

舞鶴市中公民館いきいきセミナー「舞鶴湾の海・魚と気候変動」，2023-09-28

京都府生物教育会例会（舞鶴水産実験所），2023-10-13

アースウォッチトークス「海の生き物たちの繋がりや駆け引き 潜水や環境DNA調査で見えてきたこと」（オンライン），2023-11-15

京都大学エグゼクティブ・リーダーシップ・プログラムでの講演「潜水目視調査から考える海の未来 ～多様性とつながり～」（京都大学 橋会館），2023-11-18

京都大学フィールド研創設20周年記念式典・シンポジウムにおいて、「施設における教育と研究の歩み：舞鶴水産実験所」を担当（百周年時計台記念館 百周年記念ホール・国際交流ホール），2023-11-19

海の民学舎 受講生への講義「水中から見た京都の海」（舞鶴水産実験所），2024-1-11

DHA・EPA協議会 講演「水中から見た温暖化，魚たちの変化と磯焼け」（オンライン）2024-1-19

京都水族館「京の海」リニューアル記念トークセッションでの講演「京都の海のいきものと環境変化」，2024-02-21

アースウォッチ環境DNAを用いた魚類調査プロジェクトでのズームによる成果報告「魚類群集の地域性と日周性」（舞鶴水産実験所），2024-03-03

伊藤 岳 柴漬け体験イベント「京都大学舞鶴水産実験所で木の枝を海に沈めて集まる魚を観察しよう！」 舞鶴水産実験所，2023-04-22，07-22

「新しい里山里海の勉強会(第5回)」において、活動紹介「研究者としての里海活動 舞鶴・瀬戸での取組」（オンライン），2024-01-23

海洋生態系部門

朝倉 彰 京都大学フィールド研創設20周年記念式典・シンポジウムにおいて、式辞および講演「フィールド研の誕生・歩みと未来」（百周年時計台記念館 百周年記念ホール・国際交流ホール），2023-11-19

朝倉 彰 教授 退職記念講演会「海産無脊椎動物の多様性と種分化ー甲殻類を中心に」（京都大学国際科学イノベーション棟 シンポジウムホール），2024-03-08

山下 洋 サクラマスや高津川の魚を学んでみよう（吉賀町柿木公民館），2023-06-09

市川 光太郎 「博物ふえすていばる！9」 マナティー研究所 本物の博士たちの海の動物マルシェ 出展（科学技術館），2023-07-22/23

「きょうと☆いきものフェス！2023」にて、京都大学フィールド研のブースを出展（京都府立植物園），2023-10-08/09

第6回海牛祭り（オンライン）・講師，2024-01-06

下村 通誉 水産・臨海・臨湖実験所フィールド実習ワークショップ 講演「コロナ禍に行われた瀬戸臨海実験所の実習（事例報告）」，2023-04-14

畠山ビーチクリーンを実施，2023-06-17

白浜水族館にて、京都大学126周年記念 缶バッジ（全2種類）を配布，2023-06-18/24

白浜水族館にて、オリジナルステッカーを配布，2024-01-01/03

白浜水族館 夏休み解説ツアー・バックヤードツアー・大水槽エサやり体験を実施，2023-07-21/08-31

白浜水族館 冬休み解説ツアー・バックヤードツアーを実施，2023-12-23/2024-01-08

白浜水族館 春休み解説ツアー・バックヤードツアー・大水槽エサやり体験を実施，2024-03-23/04-07

	白浜水族館企画展「海洋生物を究める！：JAMBIO 沿岸生物合同調査の紹介」，2023-02-01/05-14
	白浜水族館企画展「絶滅のおそれのある海の生き物展～和歌山県レッドデータブックでひもとく」を開催，2023-12-23/2024-04-07
	公開ラボ・施設見学「白浜の海の自然と発見」において、講演「瀬戸臨海実験所の紹介」（瀬戸臨海実験所），2023-10-21
	京都大学フィールド研創設20周年記念式典・シンポジウムにおいて、司会および「施設における教育と研究の歩み：瀬戸臨海実験所」を担当（百周年時計台記念館 百周年記念ホール・国際交流ホール），2023-11-19
	イオン×京大「白浜水族館で白浜の豊かな海と生き物について学ぼう！」において、概要説明と水族館の解説を担当（白浜水族館）2024-02-17
中野 智之	島島ビーチクリーンを実施，2023-06-17 白浜水族館 夏休み解説ツアー・バックヤードツアー・大水槽エサやり体験を実施，2023-07-21/08-31 白浜水族館 冬休み解説ツアー・バックヤードツアーを実施，2023-12-23/2024-01-08 白浜水族館 春休み解説ツアー・バックヤードツアー・大水槽エサやり体験を実施，2024-03-23/04-07 白浜水族館企画展「海洋生物を究める！：JAMBIO 沿岸生物合同調査の紹介」，2023-02-01/2024-05-14
後藤 龍太郎	日本生態学会2024横浜大会フォーラム個別モアイメンター（大学院生を対象），2024-3-11 白浜水族館 夏休み解説ツアー・バックヤードツアー・大水槽エサやり体験を実施，2023-07-21/08-31 白浜水族館 冬休み解説ツアー・バックヤードツアーを実施，2023-12-23/2024-01-08 白浜水族館 春休み解説ツアー・バックヤードツアー・大水槽エサやり体験を実施，2024-03-23/04-07 白浜水族館企画展「絶滅のおそれのある海の生き物展～和歌山県レッドデータブックでひもとく」を開催，2023-12-23/2024-04-07 吉野郡（東）科学研究会会員研修講師，2023-08-23 森里海連環学基礎講座（パナソニック）講師，2023-07-19 「きょうと☆いきものフェス！2023」にて、京都大学フィールド研のブースを出展（京都府立植物園），2023-10-08/09
山守 瑠奈	森里海連環学基礎講座（パナソニック）講師，2023-06-21 白浜水族館 夏休み解説ツアーを実施，2023-08-31 大阪自然史博物館「新 写真でわかる磯の生き物図鑑」出版記念トーク にて瀬戸臨海実験所の生物ガイドを紹介する講演を実施，2023-09-23 いきもにあにて講演を実施，2023-10-08 和歌山県立自然市博物館にてクリスマス大水槽サンタダイブを実施，2023-12-24 白浜水族館 冬休み解説ツアーを実施，2023-12-25，2024-01-06 白浜水族館 春休み解説ツアーを実施，2024-03-27，28
Bao Sarina	島島ビーチクリーンを実施，2023-06-17 イオン環境財団主催 第1回SATOYAMAフォーラム「里山が持つ新たな価値創造＝ネイチャーポジティブとウェルビーイング」において登壇（国連大学 ウ・タント国際会議場），2023-12-12 イオン×京大「白浜水族館で白浜の豊かな海と生き物について学ぼう！」において、海の生き物クイズを担当（白浜水族館），2024-02-17
管理技術部	
加藤 哲哉	きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の磯採集体験」，2023-04-22，05-20，06-17
加藤 哲哉	きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の飼育体験」，2023-10-14，12-09，2024-03-02
原田 桂太	きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の磯採集体験」，2023-04-22，05-20，06-17
原田 桂太	きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の飼育体験」，2023-10-14，12-09，2024-03-02
山内 洋紀	きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の磯採集体験」，2023-04-22，05-20，06-17
山内 洋紀	きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の飼育体験」，2023-10-14，12-09，2024-03-02
山内 洋紀	公開ラボ・施設見学「白浜の海の自然と発見」（瀬戸臨海実験所），2023-10-21
山中 公	夏の自然観察会「大学キャンパスで虫みつけ」（北白川試験地），2023-08-05

(5) 国際活動

◆国際学会

里域生態系部門

甲斐 嘉晃 台湾大学博物館と京都大学総合博物館の合同シンポジウム（台湾 台湾大学，2023-7-26/29）

甲斐 嘉晃 学会（KOFFST）への参加（韓国 釜山市（BEXCO），2023-11-02/04）

海洋生態系部門

朝倉 彰 口頭発表 Recent development of Carcinological Society of Japan, with special emphasize of international activity. （ニュージーランド ニュージーランド国立博物館テ・パパ・トン・ガレワ，2023-05-20/25）

後藤 龍太郎 国際学会International Polychaeta Conferenceへの参加、ポスター発表（南アフリカ ステレンボッシュ 高等研究所，2023-07-01/09）

後藤 龍太郎 国際学会Bivalves-Where are we going?への参加、口頭発表、ポスター発表（イギリス ケンブリッジ大学、地球科学省、セジウィック博物館，2023-09-04/10）

山守 瑠奈 国際学会International Polychaeta Conferenceへの参加、ポスター発表（南アフリカ ステレンボッシュ 高等研究所，2023-07-01/09）

◆海外調査

森林生態系部門

徳地 直子 溪流水のサンプリング（インドネシア パランカラヤ周辺森林，2023-12-05/09）

館野 隆之輔 半乾燥林の森林調査および実験（中国 中国科学院水土保持研究所、北京大学、延安市公路山試験地，2023-9-30/10-09）

館野 隆之輔 実験および研究打ち合わせ（中国 中国科学院水土保持研究所、北京大学，2024-02-23/29）

張 曼青 中国の環境保全農法や化学肥料についての現地調査（中国 東省広州市、安徽省周辺農村，2023-12-15/29）

駒井 幸雄 研究打ち合わせおよび河川調査（インドネシア パランカラヤ大学及び周辺河川，2024-3-17/22）

海洋生態系部門

後藤 龍太郎 底生生物の採集（オーストラリア ニューサウスウェールズ州（オーストラリア），2023-12-11/18）

後藤 龍太郎 貝類の採集（グアム グアム（アメリカ合衆国），2024-02-12/22）

山守 瑠奈 底生生物の採集（オーストラリア ニューサウスウェールズ州（オーストラリア），2023-12-11/18）

◆留学生

森林生態系部門

a in a ng 国費留学生（ミャンマー 徳地 直子 農学研究科森林科学専攻 1）

孔 琪嫻 ong i ian 私費留学生（中国 徳地 直子 農学研究科森林科学専攻 2）

李 英帥 i ings ai 私費留学生（中国 徳地 直子 農学研究科森林科学専攻 1）

里域生態系部門

ai an a an a 私費留学生（インド 益田 玲爾 農学研究科 ）

劉 瑾妍 私費留学生（中国 益田 玲爾 農学研究科 2）

n a o 私費留学生（アメリカ合衆国 益田 玲爾 農学研究科 1）

ong ao 私費留学生（中国 益田 玲爾 研究生）

in i an 国費留学生（ベトナム 鈴木 啓太 地球環境学舎専攻 2）

海洋生態系部門

ai ssi a o on a an 国費留学生（フィリピン 中野 智之 理学研究科基礎海洋生物学 ）

i i a nia i 私費留学生（インドネシア 朝倉 彰，理学研究科基礎海洋生物学 ）

張家齊 ng a ai 私費留学生（中国 朝倉 彰 理学研究科基礎海洋生物学 1）

(6) 研修参加・資格取得等

◆職員研修（学外）

関東甲信越地区農学部附属演習林技術職員研修

開催日時・場所 2023年10月24-26日 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林

参加者 勝山 智憲・西岡 裕平・中川 智之

北海道東北地区大学演習林等技術職員研修

開催日時・場所 2023年10月3-5日 北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 森林圏ステーション

北管理部 中川研究林

参加者 林 大輔

中国・四国・近畿地区大学附属演習林等技術職員研修

開催日時・場所 2023年11月15-17日 島根大学 生物資源科学部 生物資源教育研究センター 三瓶演習林

参加者 北川 陽一郎・紺野 絡・荒井 亮

国立大学法人臨海・臨湖実験所・センター技術職員研修会議

開催日時・場所 2023年11月8-10日 名古屋大学大学院理学研究科附属菅島臨海実験所

参加者 加藤 哲哉・山本 恒紀・山内 洋紀

文部科学省 情報システム統一研修

データ分析技法（マクロ・VBAの基礎）

開催日時・場所 eラーニング 2023年06月8-28日

参加者 上西 久哉

◆職員研修（学内）

京都大学技術職員研修 第48回：百周年時計台記念館、花山天文台ほか

2024年2月7-8日 境 慎二郎・藤井 弘明

京都大学技術職員研修：スキルアップ研修

開発入門研修～ on による機械学習を体験する：Zoom によるオンライン

2024年2月29日 宮城 裕太・奥田 賢・槇田 盤

危険体験・体感教育 安全衛生研修：コベルコビジネスパートナーズ株式会社加古川技術研修センター

2024年2月14日 長谷川 敦史・大橋 健太・細見 純嗣・山内 隆之・紺野 絡

2024年3月6日 西岡 裕平・荒井 亮

京都大学技術職員専門研修（第4専門技術群：生物・生態系）：株式会社島津製作所三条工場

2023年7月12日 荒井 亮・紺野 絡・藤井 弘明

京都大学技術職員専門研修（第6専門技術群：情報系）：学術情報メディアセンター北館及び理化学研究所計算科学研究センター

2023年11月24日 槇田 盤

（京都大学パソコン研修は、今年度該当案件なし）

◆免許・資格等の取得・安全衛生に関する講習会等

危険物取扱者免状（乙種第4類）

原田 桂太 （消防法に基づく国家資格）

大型特殊自動車免許

永井 貴大 （道路交通法に基づく国家資格）

第三級陸上特殊無線技士

宮城 祐太 （電波法に基づく国家資格）

特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習

勝山 智憲・太田 健一（労働安全衛生法に基づく技能講習）

フルハーネス型墜落制止用器具特別教育

大橋 健太

足場の組み立て業務にかかる特別教育

西岡 裕平・荒井 亮・長谷川 敦史

高圧・特別高圧電気取扱者安全衛生特別教育

原田 桂太・武藤 岳人

自由研削といし取替試運転作業者特別教育

橋本 晋太

ロープ高所作業特別教育

奥田 賢・林 大輔・木本 恵周・橋本 晋太・上西 久哉・浅野 善和・中川 智之

(以上、労働安全衛生法に基づく特別教育)

振動工具取扱作業者（チェーンソー除く）安全衛生教育
危険物取扱者保安講習（乙種第4類）

橋本 晋太

(労働安全衛生法の通達に基づく教育)

岡部 芳彦・北川 陽一郎・細見 純嗣・武藤 岳人・大橋 健太・岸本 泰典(消防法に基づく講習)

奥田 賢・柴田 泰征 (道路交通法に関する講習)

荒井 亮

吉岡 歩

(以上、消防本部による応急処置技能講習)

林 大輔

(国土交通省認定団体によるドローン講習)

荒井 亮・西岡 裕平・北川 陽一郎

(民間団体によるドローン講習)

2 オペレーター

北川 陽一郎

(社による特定機種ドローン講習)

5. 資料

(1) 職員配置表

令和5年12月 1日現在

区分	教授	准教授	講師	助教	事務職員	技術職員	非常勤職員等
流動分野研究室	三田村啓理 ◆山下 洋	市川光太郎		小林 志保 ◆久米 学			野田 琢嗣 山下 洋 寺西 満美
研究室(北部構内)	徳地 直子 □館野隆之輔 ▲吉川左紀子 ▲吉岡 崇仁	伊勢 武史 長谷川尚史 *佐藤 弥 *赤石 大輔	坂野上なお	◆張 曼青 (研究員) ▲◆横部 智浩 ◆田中 拓弥			川崎 茜 吉岡 崇仁 駒井 幸雄 吉川左紀子 嶺本 和沙 池端 建吾 北西 諒介 牧野奏佳 萩原 幹花
企画情報室	(室長) 三田村 啓理	(副室長) 長谷川尚史				●榎田 盤 ○中村はる奈 (兼)○向 昌宏	
森里海連環学 プロジェクト支援室	(室長) 徳地 直子 (副室長) 益田 玲爾						
事務室					(室長) 椿野 康弘 (掛長) 福島 慎吉		山本みゆき 野村真由美
森林フィールド管理部門						▽●◎境 慎二朗	
里域フィールド管理部門						▽◎藤井 弘明	
水域フィールド管理部門						◎加藤 哲哉	
芦生研究林		(研究林長) 石原 正恵	松岡 俊将 ★坂野上なお		(掛長) ★(兼) 福島 慎吉 (主任) 四方 聡	●柴田 泰征 ●勝山 智憲 ○細見 純嗣 ○太田 健一 ○北川陽一郎 岸本 泰典 宮城 祐太 永井 貴大	中野 莉緒 中野はるみ 登尾 梨恵
北海道研究林	★館野 隆之輔	(研究林長) 小林 和也		杉山 賢子 ▼中西 麻美	(掛長) 若林潤一郎	[標茶区] ●岡部 芳彦 ●奥田 賢 ○柳本 順 林 大輔 古田 卓 木本 恵周 橋本 晋太	川村由紀枝 渡邊 紗織
和歌山研究林	(研究林長) ★徳地 直子 ★館野隆之輔	★長谷川尚史				●中川 智之 ●上西 久哉 ○浅野 善和	松場 香枝
上賀茂試験地	(試験地長) ★館野隆之輔			中西 麻美		●紺野 絡 ●大橋 健太 ○荒井 亮 西岡 裕平 長谷川敦史 (再)山内 隆之	橋田理也子 南 ゆう
徳山試験地	(試験地長) ★徳地 直子					(兼)▽●◎境 慎二朗	徳原 典子 石丸美由希
北白川試験地	(試験地長) 徳地 直子					(兼)●藤井 弘明 吉岡 歩 山中 公	
紀伊大島実験所		(実験所長) △甲斐 嘉晃					
舞鶴水産実験所	(実験所長) 益田 玲爾	甲斐 嘉晃		鈴木 啓太 邊見 由美 (研究員) ▲◆伊藤 岳	横山 隆一	○向 昌宏 ○小倉 良仁	荻野 文代 潮見 美咲 山下みどり 白井美和子 千田 哲朗
瀬戸臨海実験所	■朝倉 彰	(実験所長) 下村 通誉 中野 智之	◆ 河村真理子	後藤龍太郎 山守 瑠奈 (研究員) ▲◆Bao Sarina	(掛長) 白石 大作 (専門職員) 安井 正 上木原昭子	(兼)●加藤 哲哉 ○山内 洋紀 ○山本 恒紀 ○原田 桂太 ○武藤 岳人	興田 道子 寺本 律子

■センター長 □副センター長 *連携教員・研究員 ◆特定有期雇用教職員 ▲特任教員 ◎統括技術長 ○技術主任
 勤務地：★京都 ▽北白川試験地 ▼上賀茂試験地 △舞鶴水産実験所 (兼)兼務 (再)再雇用

(2) 常設委員会名称および委員一覧

2023年4月1日現在

将来構想企画委員会	○朝倉・徳地・益田・舘野・三田村
教育研究評価（自己点検評価）委員会	○朝倉・徳地・益田・舘野・三田村
施設・設備整備委員会	○朝倉・徳地・益田・舘野・三田村
教育プログラム委員会	○朝倉・長谷川・中西・邊見
研究プログラム委員会	○徳地・小林（和也）・市川・後藤
広報委員会	○三田村・中野・山守・杉山・中西・鈴木・小林（志保）・松岡・横田
人権問題対策検討委員会	○朝倉・益田・舘野・徳地・三田村・フィールド研事務長
情報セキュリティ委員会	○朝倉・三田村・鈴木（部局情報セキュリティ技術責任者）・小林（和也）・横田
社会連携委員会	○市川・長谷川・松岡・高橋・後藤
国際委員会	○朝倉・益田・松岡・三田村
労働安全衛生委員会	○徳地・坂野上・甲斐・下村・向・技術長・事務室長
教育研究組織改革検討ワーキンググループ	○朝倉・益田・徳地・三田村・舘野・下村・伊勢・甲斐・石原
放射線障害防止委員会	○益田・甲斐（エックス線作業主任者）・徳地・中野
公用車管理委員会	○三田村・伊勢・市川・長谷川
芦生研究林基金運営委員会	○朝倉・徳地・舘野・石原・坂野上・フィールド研事務長
図書委員会	○伊勢・杉山・後藤・坂野上・鈴木
動物実験委員会	○益田・朝倉・下村・中野・高橋・原田
教員業績評価委員会	○朝倉・徳地・益田・舘野・三田村

（○は、委員長）

（役職指定）

危機管理委員会	全教授・各施設長・技術長
技術職員のあり方検討委員会	専任教授（流動分野を除く）・技術長・ （事務部）フィールド研事務長・フィールド研事務室長・ 総務課課長補佐（総務・人事担当）・総務課人事掛長

(3) 全学委員会等

2023年4月1日現在

<部局長が対応する委員会>

教育研究評議会	地球環境学堂・学舎 協議会	総合技術部 委員会
研究資源アーカイブ運営委員会	情報セキュリティ委員会	研究連携基盤運営委員会
野生動物研究センター連携協議会		

<他の教員が対応する委員会>

総合博物館運営委員会	益田
図書館協議員	舘野
大学評価委員会 点検・評価実行委員会	徳地
学生の安全対策検討WG委員	徳地
組換えDNA実験安全委員会	甲斐
吉田キャンパス整備専門委員会	(随時指名)
化学物質専門委員会	徳地
国際戦略本部国際化推進懇談会	伊勢
動物実験委員会	益田
農学研究科 建築委員会オブザーバー	徳地
農学研究科 (北部) 総合研究棟ワーキンググループ	尾田・椿野
農学研究科 防火・防災委員会	舘野
農学研究科 省エネルギー小委員会 (環境・安全・衛生委員会)	小林 (志保)
北部構内 交通委員会	市川
北部構内 化学物質責任者	徳地
ハラスメント相談窓口	益田・坂野上・小林 (志保)・加藤・椿野

<学系会議>

生態フィールド学系会議 (海洋生物環境学分野除く講師以上)	
生態フィールド学系長	木庭 啓介 (生態学研究センター)
応用生物学系会議 (海洋生物環境学分野教授)	
応用生物学系長	横井 伯英 (農学研究科)

(4) 運営委員会

2023年4月1日現在

区分	氏名	所属・職名
1号	朝倉 彰	フィールド研 センター長
2号	舘野 隆之輔	フィールド研 教授
	徳地 直子	フィールド研 教授
	三田村 啓里	フィールド研 教授
	益田 玲爾	フィールド研 教授
3号	田村 実	理学研究科 教授
	小野田 雄介	農学研究科 教授
	深町 加津枝	地球環境学堂 准教授
	木庭 啓介	生態学研究センター 教授
	村上 由美子	総合博物館 准教授
	石川 登	東南アジア地域研究研究所 教授

(5) 協議委員会

2023年4月1日現在

区分	氏名	所属・職名	備考
1号	朝倉 彰	フィールド研 センター長	
2号	益田 玲爾	フィールド研 教授	
	舘野 隆之輔	フィールド研 教授	
	徳地 直子	フィールド研 教授	
	三田村 啓理	フィールド研 教授	
3号	田中 耕一郎	理学研究科 教授	理学研究科長
	森 哲	理学研究科 教授	
	澤山 茂樹	農学研究科 教授	農学研究科長
	丸山 伸之	農学研究科 教授	農学研究科附属農場長
	勝見 武	地球環境学堂 教授	地球環境学堂長
	中村 裕一	学術情報メディアセンター 教授	
	中野 伸一	生態学研究センター 教授	生態学研究センター長
	永益 英敏	総合博物館 教授	

(6) 教育関係共同利用拠点運営委員会

舞鶴水産実験所共同利用運営委員会

2023年4月1日現在

区分	氏名	所属・職名
1号	朝倉 彰	フィールド研 センター長
2号	益田 玲爾	フィールド研 教授（舞鶴水産実験所長）
3号	徳地 直子	フィールド研 教授
4号	小林 志保	フィールド研 助教
5号	塩尻 かおり	龍谷大学 農学部 准教授
	Jean Tanangonan	近畿大学 農学部環境管理学科 講師
	白山 義久	国立研究開発法人 海洋研究開発機構 科学アドバイザー
	富永 修	福井県立大学 海洋生物資源学部 教授
	仲岡 雅裕	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 教授
	三宅 崇	岐阜大学 教育学部 教授

瀬戸臨海実験所共同利用運営委員会

2023年4月1日現在

区分	氏名	所属・職名
1号	朝倉 彰	フィールド研 センター長
2号	下村 通誉	フィールド研 准教授（瀬戸臨海実験所長）
3号	徳地 直子	フィールド研 教授
4号	渡辺 勝敏	京都大学 理学研究科 准教授
5号	仲岡 雅裕	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 教授
	遊佐 陽一	奈良女子大学 研究院自然科学系生物科学領域 教授
	長里 千香子	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 教授
	川井 浩史	神戸大学 内海域環境教育研究センター 特命教授
	深見 裕伸	宮崎大学 農学部 教授
	白山 義久	国立研究開発法人 海洋研究開発機構 科学アドバイザー

芦生研究林・北海道研究林・上賀茂試験地共同利用運営委員会

2023年4月1日現在

区分	氏名	所属・職名
1号	朝倉 彰	フィールド研 センター長
2号	石原 正恵	フィールド研 准教授（芦生研究林長）
	小林 和也	フィールド研 准教授（北海道研究林長）
	館野 隆之輔	フィールド研 教授（上賀茂試験地長）
3号	徳地 直子	フィールド研 教授
4号	檀浦 正子	京都大学大学院 農学研究科 准教授
5号	平山 貴美子	京都府立大学大学院 生命環境学研究科 准教授
	赤石 大輔	大阪産業大学 デザイン工学部 准教授
	藤井 芳一	人間環境大学 人間環境学部 准教授
	松山 周平	酪農学園大学 准教授
	小林 元	信州大学 農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター 准教授
	高木 正博	宮崎大学 農学部附属フィールド科学教育研究センター田野フィールド 教授

(7)新聞・雑誌等に掲載された記事

センターに関する記事

年月日	掲載面	掲載紙	タイトル	内容・キーワード等
2023年5月31日	p.5831	京大広報 768号	芦生研究林とKDDI株式会社が、生物多様性の保全に向けた包括連携協定を締結	芦生研究林
2023年5月31日	p.5832	京大広報 768号	第8回森里海シンポジウム「みんなで創る里山・里海の未来」を開催	フィールド研
2023年5月31日	p.4-7	モンベル会報誌『OUTWARD』No.99	社会全体で守る 山の健康状態	フィールド研
2023年6月1日	p.11	わかやま探検ミュージアム Vol.77	世界で一番大きなカニ	白浜水族館
2023年6月6日	8面	紀伊民報	わかやま環境賞受賞 紀南の3団体	瀬戸臨海実験所
2023年6月16日	8面	紀伊民報	オリジナル缶バッジ配布 18日から 京大白浜水族館	白浜水族館
2023年6月22日	17面	朝日新聞 和歌山県版	ゾクゾク、海の白蛇 京大白浜水族館	白浜水族館
2023年6月23日	1面	紀伊民報	珍しい白いウミヘビ 京大白浜水族館で展示 串本沖で採集	白浜水族館
2023年6月24日	23面	毎日新聞 和歌山版	モヨウモンガラドオシ:白いウミヘビいるよ 変異個体を展示 白浜・京大水族館	白浜水族館
2023年6月27日	23面	読売新聞 大阪朝刊	白ウミヘビ 見に来て 白浜水族館 「ここまで成長 珍しい」	白浜水族館
2023年7月7日	25面	朝日新聞 朝刊	学校裏の海 府初採集の魚 海洋高生オンライン学術誌に論文	舞鶴水産実験所
2023年7月16日	20面	京都新聞朝刊	ワイドたんば 芦生の生物多様性 先端技術で解析 南丹・美山の京大研究林 国際プロジェクトに国内唯一参加 土や大気 DNA 分析、鳥鳴き声AI判定 5年かけ調査	芦生研究林
2023年7月23日	20面	京都新聞朝刊	木の枝魚礁 魚いっぱい 京大舞鶴水産実験所 生態楽しく観察	舞鶴水産実験所
2023年9月1日	p.8-9	広報南丹8・9月号	映画がうまれるまち「唄う六人の女」監督インタビュー	芦生研究林
2023年9月17日	21面	京都新聞朝刊	「芦生は気持ち良い場所」南丹で撮影 映画「唄う六人の女」	芦生研究林
2023年9月22日	10面	紀伊民報	京大実験所の見学会 10月21日、白浜	瀬戸臨海実験所
2023年9月23日	25面	朝日新聞 和歌山版	「島島」レアな観察いかが 京大瀬戸臨海実験所が募集 /和歌山県	瀬戸臨海実験所
2023年10月1日	p.12	わかやま探検ミュージアム Vol.79	きらきら銀色のワニグチボラ	白浜水族館
2023年10月6日	20面	京都新聞 丹波A	芦生に真っ赤なタマゴタケ 南丹・美山の研究林(たんば画報)	芦生研究林
2023年10月18日	21面	京都新聞 丹波B	斧蛇館リニューアルへ 体系的に学べる場 コンセプトづくり 森の問題考える入り口に	芦生研究林
2023年11月1日	p.2-3	広報南丹10・11月号	南丹市への愛が溢れる映画撮影	芦生研究林
2023年11月17日	31面	読売新聞 和歌山版	新種発見 二枚貝 ヨコエビ 京大瀬戸臨海実験所など＝和歌山	瀬戸臨海実験所
2023年11月20日	21面	京都新聞	海のために植林大切 京大フィールド研20年シンポ 漁師ら講演「森は海の恋人」	フィールド研
2023年11月26日	25面	読売新聞(滋賀版)	森、里、海 つながり研究20年 京大フィールド研 記念式典とシンポ＝滋賀	フィールド研
2023年11月27日	19面	毎日新聞 和歌山版	新種:身近な海に新種、貝とヨコエビ 白浜水族館で標本展示 ボネリムシの巣穴で共生 京大などのグループ発見 /和歌山	瀬戸臨海実験所
2023年12月1日	3面	京都大学新聞	学童保育所 事業費2億円 稲垣理事「他大学のモデル 目指す」	和歌山研究林
2024年1月8日	p.31	文教ニュース(1月8・15日、第2784・85合併号)	京都大学フィールド研創設20周年式典	フィールド研
2024年1月12日	p.5	文教速報(1月12日、第9352号)	京大フィールド科学教育センター 創設20周年記念式典・シンポを開催	フィールド研
2024年1月14日	28面	京都新聞 丹波A	シカ食害防げ 柵を交換 南丹・美山の京大芦生研究林 設置17年で老朽化 より強力 植生守る	芦生研究林
2024年1月22日	広告面	朝日新聞	第1回「イオンSATOYAMAフォーラム」里山が持つ新たな価値創造とは？＜採録＞	フィールド研
2024年1月22日	広告面	読売新聞	第1回 イオンSATOYAMAフォーラム 開催レポート	フィールド研
2024年1月26日	9面	紀伊民報	絶滅の恐れある海の生物／標本やパネルで紹介／京大白浜水族館	白浜水族館
2024年1月28日	20面	毎日新聞(和歌山版)	絶滅種や危惧種 84点の標本紹介 4月7日まで 京大白浜水族館で特別展	白浜水族館
2024年1月31日	21面	京都新聞	植物の種の保全へ連携 京大と武田薬品工業が協定	上賀茂試験地
2024年1月31日	34面	日刊工業新聞	植物園の機能強化で連携協定	上賀茂試験地
2024年1月31日	p.5912-5914	京大広報 772号	フィールド科学教育研究センター創設20周年記念式典・シンポジウムを開催	フィールド研

2024年2月28日	20面	京都新聞	府内10種 絶滅の恐れ高まる レッドデータブック更新	芦生研究林
2024年3月4日	20面	京都新聞	過疎地振興 外部の力も 美山の住民・研究者 人口減テーマに集会 共同体維持へ方策探る	芦生研究林
2024年3月6日	17面	京都新聞	芦生の森 多様な表情活写 京のガイド・写真家 亀岡で展示「里山と違う風景感じて」	芦生研究林
2024年3月15日	17面	京都新聞	芦生の森 研究記録本に 学者、住民と協働の成果	芦生研究林
2024年3月28日	p.22-23	BOOKびあ[自然を満喫 森さんぽ 関西版]	京都府南丹市 芦生研究林(芦生の森)	芦生研究林

教職員に関する記事

年月日	掲載面	掲載紙	タイトル	教職員
2024年3月18日	p.2-7	京都大学広報誌『紅萌』第45号	自然に触れて、生きものに学んで得られる感動と現場主義の学問の価値	朝倉 彰
2024年3月10日	9面	京都新聞 朝刊	日本は“窒素メタボ” 環境汚染や富栄養化、地球温暖化にも影響 反応性窒素(Nr)問題考えて 京で研究者	徳地 直子
2023年5月2日	20面	読売新聞 朝刊	[身近な海の新発見](1)イシダイ 実は芸達者 演技披露＝石川	益田 玲爾
2023年6月11日	23面	京都新聞 朝刊	「磯焼け」の問題 児童学ぶ 京大舞鶴水産実験所で光華小5年生	
2023年7月24日	7面	日経産業新聞	特定魚種増減、海水で推計 京大、作業時間短く広範囲調査	
2023年8月7日	21面	読売新聞 石川県版 朝刊	[身近な海の新発見](3)リュウグウノツカイ 小さな脳 省エネ仕様＝石川	
2023年8月9日	21面	読売新聞 福井県版 朝刊	[越前若狭の海](4) 原発近く 温暖化の姿か	
2024年2月1日	18面	京都新聞 朝刊	豊かさ連鎖 森と里 科学で解明 左右する川からの栄養や泥	山下 洋
2024年3月31日	p.5941	京大広報 773号	随想「魚釣りについて想うこと」	
2023年10月15日	p.79	BRUTUS No.994	明日がわかる時事用語辞典【自然・環境】	伊勢 武史
2024年1月1日	p.30-37	北桑時報 292号	芦生研究林長の美山日記 外と内の視点から	石原 正恵
2023年5月30日	43号	京都府漁協だより	日本海のさかなの話～最新の魚類学研究から～「オニオコゼのなかま」	甲斐 嘉晃
2023年8月9日	44号	京都府漁協だより	日本海のさかなの話～最新の魚類学研究から～「ヨウジウオのなかま」	
2023年11月30日	45号	京都府漁協だより	日本海のさかなの話～最新の魚類学研究から～「イスズミのなかま」	
2024年1月1日	46号	京都府漁協だより	日本海のさかなの話～最新の魚類学研究から～「カツオのなかま」	
2024年3月31日	47号	京都府漁協だより	日本海のさかなの話～最新の魚類学研究から～「ハリセンボンのなかま」	
2023年5月18日	20面	毎日新聞	サカナ新時代:海水温上昇、熱帯ウニ“北上” 生態系影響、食用姿消すリスク	中野 智之
2023年6月28日	8面	読売新聞 夕刊	同種巻き貝？ 実は別種 ウノアシ 交雑で「第三の種」可能性 京大などチーム	
2023年10月20日	1面	紀伊民報	新種の貝とヨコエビ 串本の海で発見 京大のグループ	後藤 龍太郎
2023年10月27日	19面	毎日新聞 和歌山版	身近な海に新種 貝とヨコエビ ボネリムシの巣穴で共生 京大などのグループ発見 白浜水族館で標本展示	
2024年1月24日	9面	紀伊民報	希少な二枚貝を採取 京大など 串本の海で42年ぶり	
2023年5月19日	21面	京都新聞 朝刊	伊根沖で新種テッポウエビ 京大など発見、国際学術誌掲載 「ワカサムラサキエビ」命名	邊見 由美
2023年5月24日	25面	読売新聞 朝刊	エビ類新種 相次ぐ発見 京大など 伊根と舞鶴沖2種	
2023年6月1日	6面	京都大学新聞	新種のテッポウエビ類を発見 フィールド研助教ら	
2023年6月10日	28面	朝日新聞 朝刊	ワカサムラサキエビ	
2023年6月28日	19面	朝日新聞 朝刊 (地域)	若狭湾に「未知なる生物多様性？」新種エビ 次々発見	
2023年7月5日	23面	朝日新聞 福井県版	若狭湾、新種エビ次々 未知なる生物多様性か	
2023年5月号	p.	月刊養殖ビジネス	養殖技術講座:明日から使える！ 魚類心理学 第15回 魚の数的認知能力から見る魚の賢さ	高橋 宏司
2023年4月2日	14面	読売新聞 朝刊	科想空感「可愛い多毛類」への愛貫く	山守 瑠奈
2023年10月6日	p.8-9	京からあすへ(京都大学 男女共同参画推進センター) 第3号	白浜の環境が育む豊かな海の生態系。解きあかす鍵は、生きものへの熱量と愛	
2023年6月13日	21面	京都新聞 朝刊	芦生キノコ目録 完成 大阪産業大准教授「多様性考えて」	赤石 大輔
2024年1月19日	19面	朝日新聞 福井県版	ヤシヤベラ、とことん研究 山科の小3・片山耀斗さん、文科大臣賞「海とさかな」コン／京都府	山内 洋紀
2023年8月4日	21面	読売新聞 石川県版	[身近な海の新発見](2)タコ・イカ 高い知能 「夢見る」可能性＝石川	黒澤巧さん 舞鶴水産実験所大学院生

(8)テレビ・ラジオ等で放送された番組

年月日	放送局	番組名・内容等	キーワード・教職員等
2023年4月18日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX オニヒトデについて	原田 桂太
2023年4月21日	テレビ大阪	(ニュース) ぷりぷりツヤツヤ京都・舞鶴港の美味いカキ！ ここ5年で最高の仕上がり	益田 玲爾
2023年5月6日	フジテレビ	(ニュース) 南極で魚釣り～Fishing in Antarctica～(前	市川 光太郎
2023年5月13日	フジテレビ	(ニュース) 「地球最後の秘境 南極大陸」観測隊が見た神秘の世界	市川 光太郎
2023年5月15日	フジテレビ	(ニュース) 南極で魚釣り～Fishing in Antarctica～(後編)	市川 光太郎
2023年5月16日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX ミノカサゴの餌付けについて	加藤 哲哉
2023年5月25日	KBS京都	きょうとDays『ふるさと Days』コーナー 葉の1枚1枚まで再現。1本の巨木を描き続ける女性【南丹市】	芦生研究林・豊島 淑子
2023年6月20日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX モヨウモンガラドオシの白化個体について	山内 洋紀
2023年6月22日	和歌山テレビ	6wakaイブニング 島島調査グループがわかやま環境賞受賞	中野 智之
2023年6月24日	KBS京都テレビ	SUNNY TIME 海の京都調査隊～舞鶴湾の生態系を調査せよ～前編	舞鶴水産実験所・益田 玲爾
2023年7月1日	KBS京都テレビ	SUNNY TIME 海の京都調査隊～舞鶴湾の生態系を調査せよ～後編	益田 玲爾
2023年7月8日	NHK	ちゃうんちゃう？ 和歌山・白浜の仰天生物	白浜水族館
2023年7月18日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX フジツボについて	原田 桂太
2023年7月31日	NHK総合・大阪	ぐるっと関西 おひるまえ 全身真っ白な珍しいウミヘビ公開	白浜水族館
2023年8月7日	FM TANABE	紀南レキブン道場 白浜水族館および水族館で飼育している生物について、白浜水族館と瀬戸臨海実験所の歴史について	原田 桂太、下村 通誉
2023年8月15日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX マゴチについて	加藤 哲哉
2023年9月19日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX ヒョウモンダコについて	山内 洋紀
2023年10月17日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX ホヤの生態について	原田 桂太
2023年11月10日	TBSテレビ	ひるおび 海で起こる“異変” 海の温暖化で激変する「日本の食卓」の未来	益田 玲爾
2023年11月21日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX リンボウガイについて	加藤 哲哉
2023年12月19日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX ニシキエビについて	山内 洋紀
2024年1月16日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX タカラタツについて	原田 桂太
2024年1月31日	フジテレビ	世界の何だコレ！？ミステリー ヒラメとカレイ	益田 玲爾
2024年2月20日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX オオミズハゼについて	山内 洋紀
2024年3月13日	テレビ和歌山	6wakaイブニング 絶滅したものや絶滅の恐れのある和歌山の海に住む生き物たちの展示 京都大学白浜水族館	白浜水族館
2024年3月19日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX カイウミヒドラについて	加藤 哲哉

(9)各施設利用者数

(2023年度)
(単位：人)

(所属) (目的)	京都大学					他大学				
	教育		研究		その他	教育		研究		その他
	教職員等	学生	教職員等	学生		教職員等	学生	教職員等	学生	
芦生研究林	284	663	796	726	96	42	322	133	290	11
北海道研究林標茶区	259	423	1,475	76	2	19	194	22	21	0
北海道研究林白糠区	14	21	8	1	0	0	0	0	0	0
和歌山研究林	71	21	31	58	8	0	0	4	15	0
上賀茂試験地	263	349	210	121	12	54	405	150	72	16
徳山試験地	10	0	0	0	33	0	0	0	0	0
北白川試験地	117	344	1,070	968	55	5	46	4	33	5
紀伊大島実験所	0	0	2	0	36	0	0	0	3	1
舞鶴水産実験所	37	295	232	3,542	39	53	385	128	178	3
瀬戸臨海実験所	261	324	134	3,172	40	129	775	115	199	5
計	1,316	2,440	3,958	8,664	321	302	2,127	556	811	41

(所属) (目的)	研究教育機関等			一般			合計
	教育	研究	その他	教育	研究	その他	
芦生研究林	93	38	27	112	358	2,779	6,770
北海道研究林標茶区	64	6	0	35	59	10	2,665
北海道研究林白糠区	0	0	0	9	6	22	81
和歌山研究林	106	8	0	12	24	49	407
上賀茂試験地	38	57	35	327	231	297	2,637
徳山試験地	7	0	0	79	0	52	181
北白川試験地	0	15	0	163	241	71	3,137
紀伊大島実験所	0	0	0	0	0	0	42
舞鶴水産実験所	178	84	22	36	52	72	5,336
瀬戸臨海実験所	342	78	1	39	205	106,719	112,538
計	828	286	85	812	1,176	110,071	133,794

(10)瀬戸臨海実験所附属水族館 月別入館者数

(2023年度)
(単位：人)

月	有料入館者数							有料入館者 徴収金額計 (円)	無料 入館者 数	入館者 数 計	(参考) 前年度有料 入館者数計
	個人		団体		障害者		計				
	大人	小人	大人	小人	大人	小人					
4月	4,923	936	0	0	103	45	6,007	3,204,400	1,166	7,173	5,885
5月	6,004	925	163	0	134	22	7,248	3,954,050	1,597	8,845	7,232
6月	4,241	460	148	1	100	8	4,958	2,774,350	1,067	6,025	5,415
7月	7,313	1,665	81	9	123	56	9,247	4,842,750	2,238	11,485	8,462
8月	10,262	2,995	68	43	171	73	13,612	6,905,050	2,264	15,876	12,374
9月	6,268	669	94	13	114	21	7,179	4,014,100	1,811	8,990	7,270
10月	5,365	674	101	1	159	17	6,317	3,499,500	1,878	8,195	6,534
11月	5,071	530	32	3	150	32	5,818	3,253,950	1,480	7,298	8,618
12月	4,676	790	91	3	128	25	5,713	3,088,250	1,173	6,886	6,451
1月	5,271	840	47	15	144	29	6,346	3,442,250	1,263	7,609	6,016
2月	5,161	672	74	1	107	39	6,054	3,336,550	1,230	7,284	5,027
3月	7,277	1,310	264	36	177	45	9,109	4,882,900	1,917	11,026	8,355
計	71,832	12,466	1,163	125	1,610	412	87,608	47,198,100	19,084	106,692	87,639

(臨海実習等で実験所を利用した学生や教員、ならびに外来研究者等の来訪者は含まない。)

(11) 人事異動 (2023年度)

氏名	新職名	旧職名	異動年月日
坂野上 なお	森林生態系部門 森林情報学分野 講師	森林生態系部門 森林情報学分野 助教	2023. 4. 1
松岡 俊将	森林生態系部門 森林情報学分野 講師	森林生態系部門 森林情報学分野 助教	〃
赤石 大輔	研究推進部門 森里海連環学分野 連携准教授 (大阪産業大学 准教授)	研究推進部門 森里海連環学分野 特定講師	〃
ao a ina	海洋生態系部門 基礎海洋生物学分野 特任助教・特定研究員	ni si o a i o nia a is isi ing o a	〃
a a in	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員	森林生態系部門 森林育成学分野 特定助教	〃
萩原 幹花	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員		〃
上木原 昭子	瀬戸臨海実験所事務掛 支援職員	瀬戸臨海実験所事務掛 事務補佐員	〃
張 曼青	森林生態系部門 森林育成学分野 特定助教		2023. 4. 16
大庭 ゆりか	退職	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員	2023. 4. 30
a a in	退職	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員	〃
田中 拓弥	森林生態系部門 森林育成学分野 特定研究員 (新しい里山・里海 共創プロジェクト)	一般社団法人コミュニケーションデザイン機構 主任研究員 (環境省・近畿環境パートナーシップオフィス (きんき環境館) 運営業務等)	2023. 5. 1
北西 諒介	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員		〃
中野 智之	海洋生態系部門 基礎海洋生物学分野 准教授	海洋生態系部門 基礎海洋生物学分野 講師	2023. 6. 1
川本 美由紀	事務室	北部構内事務部 理学研究科教育研究支援室教育研究支援掛	2023. 7. 1
萩原 幹花	退職	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員	2023. 8. 31
河村 真理子	海洋生態系部門 基礎海洋生物学分野 特定講師		2023. 10. 1
川本 美由紀	北部構内事務部 経理課運営費・寄附金掛	事務室	〃
牧野 奏佳香	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員	(総合地球環境学研究所 研究員)	2023. 11. 1
高橋 宏司	新潟大学 創生学部 准教授	里域生態系部門 里海生態保全学分野 助教	2023. 12. 1
萩原 幹花	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員		〃
朝倉 彰	定年退職	センター長・海洋生態系部門 基礎海洋生物学分野 教授	2024. 3. 31
久米 学	退職 (任期満了)	海洋生態系部門 海洋生物環境学分野 特定助教	〃
ao a ina	退職 (国立環境研究所 生物多様性領域 特別研究員に着任)	海洋生態系部門 基礎海洋生物学分野 特任助教 (特定研究員) (新しい里山・里海 共創プロジェクト)	〃
伊藤 岳	退職 (琉球大学 熱帯生物圏研究センター 特別研究員に着任)	里域生態系部門 里海生態保全学分野 特任助教 (特定研究員) (新しい里山・里海 共創プロジェクト)	〃
吉岡 崇仁	退職	森林生態系部門 森林情報学分野 研究員	〃
北西 諒介	退職	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員	〃
牧野 奏佳香	退職	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員	〃

(13) 規程の改正等

京都大学フィールド科学教育研究センター芦生研究林宿泊棟使用内規の改正（2023年3月8日教授会で承認・2023年4月1日施行）

京都大学フィールド科学教育研究センター研究林・試験地における学生の車両の使用・運転に係る取扱要領（2023年9月13日教授会で承認・2023年9月13日施行）

京都大学フィールド科学教育研究センター 年報 第21号
2024年 12月28日発行

発 行 京都大学フィールド科学教育研究センター
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

印 刷 株式会社北斗プリント社
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2

